

# 令和元年度 ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 試掘調査

- 市毛下坪遺跡 (第 18・19 次)
- 向野 A 遺跡 (第 6 次)
- 蜷塚西貝塚 (第 1 次)
- 大平 A 遺跡 (第 5・6 次)
- 堀口遺跡 (第 30 次)
- 御所内 I 遺跡 (第 2 次)
- 西中根遺跡 (第 5 次)
- 君ヶ台遺跡 (第 14 次)
- 東中根清水遺跡 (第 5 次)
- 石高遺跡 (第 12 次)
- 黒袴遺跡 (第 8 次)
- 東原遺跡 (第 9 次)
- 金上埴遺跡 (第 11 次)
- 市毛上坪遺跡 (第 29 次)
- 内手遺跡 (第 3 次)
- 御所内 II 遺跡 (第 5 次)
- 根崎 B 遺跡 (第 1 次)
- 寄居新田古墳群 (第 1～4 次)
- 小貫山遺跡 (第 3 次)
- 松原遺跡 (第 7 次)
- 三反田新堀遺跡 (第 19 次)
- 三反田古墳群 (第 3 次)
- 向坪遺跡 (第 6 次)

## 本調査

- 岡田遺跡 (第 35・36 次)
- 市毛上坪遺跡 (第 26～28 次)
- 下高井遺跡 (第 7 次)

2020



1 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡竈目付き粘土塊出土状況



2 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡出土竈目付き粘土塊

## 序 文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、那珂川河口部左岸の人口約16万人の街で、県都水戸市に隣接しています。標高30m前後の起伏の少ない平坦な台地で、台地を浸蝕して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には、肥沃な田畑や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約13kmの海岸線が続き、那珂川などの河川流域の台地上は、原始・古代から人々の生活の場として栄え、三百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡、装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け、市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように、ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方、毎年住宅等の開発行為が活発に行われており、やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るため、事前に確認調査等を実施しております。

今年度も、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し、市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり、それぞれの調査は小規模なものではありませんが、毎年の調査の積み重ねにより、多くの成果を得ることができました。

最後になりますが、快く調査のご承諾をいただきました地権者様や、調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに、調査や本書の作成にご指導、ご協力を頂きました関係各位の皆様にご心から感謝申し上げます。

令和2年3月

ひたちなか市教育委員会  
教育長 野 沢 恵 子

## 例 言

- 1 本書は、平成30・令和元年度国費補助事業として、ひたちなか市教育委員会の委託を受けて、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、平成31年1月から令和元年12月にかけて実施された発掘調査についての報告であり、市毛下坪遺跡、向野A遺跡、銀塚西貝塚、大平A遺跡、堀口遺跡、御所内I遺跡、西中根遺跡、君ヶ台遺跡、東中根清水遺跡、石高遺跡、黒袴遺跡、東原遺跡、金上埜遺跡、市毛上坪遺跡、内子遺跡、御所内II遺跡、根崎B遺跡、寄居新田古墳群、小貫山遺跡、松原遺跡、三反田新堀遺跡、三反田古墳群、向坪遺跡の計23遺跡について、28件の試掘・確認調査を実施し、岡田遺跡、市毛上坪遺跡、下高井遺跡の計3遺跡について、4件の本調査を実施した。調査期間等は2～3頁一覧表のとおりである。なお、資料整理の都合上未報告であった平成30年10月から11月にかけて実施された岡田遺跡および平成30年11月から12月にかけて実施された市毛上坪遺跡の2遺跡も合わせて報告している。
- 3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室の指導のもとに、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理 事 長	永盛 啓司
副 理 事 長 兼 事 務 局 長	須藤 晋由
理 事	杉山 和子 大和田 健 嗣川 正 米川 央洋 鈴木 一成（～11月15日） 加藤 恭子（～11月15日） 福地 佳子 南澤 正（12月3日～） 山形 由美子（12月3日～） 海禁 敏之
監 事	武藤 猛（～11月15日） 安 智範 北原 祐二（12月3日～）
文 化 課 文 化 財 調 査 事 務 所	課 長 小泉 裕
	所 長 佐々木 義剛
	係 長 稲田 健一
	主 事 田中 美蓉
	嘱 託 菊池 順子

- 4 発掘調査の従事者は次の通りである。
- 調査員：佐々木義剛、稲田健一、田中美蓉
- 調査補助員：青木千歌子、海老原四郎、小貫栄子、海後晴美、中嶋順子、廣水一真、矢野徳也、渡辺恵子
- 5 整理作業及び本書の作成に従事したものは、次の通りである。
- 稲田健一、菊池順子、桐嶋美子、後藤みち子、佐々木義剛、佐藤富美江、鈴木八重子、鈴木素行、田中美蓉、照沼沙保里、西野陽子、矢野徳也
- 6 本書は、佐々木義剛が編集した。
- 7 本書の執筆と分担は以下のとおりである。
- 田中美蓉・鈴木素行（弥生時代以前の遺物） 稲田健一（古墳時代の遺物） 矢野徳也（岩石同定） 佐々木義剛（左記以外）
- 8 弥生時代以前の資料は、鈴木素行氏にご指導いただいた。
- 9 遺構の略号の意味は次の通りである。 SK：土坑、P：ピット、SD：溝跡、K：覆土、T：トレンチ
- 10 発掘調査の出土資料は、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。
- 11 本書の作成にあたっては、次の方々に御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50音順・敬称略）
- 市村将夫、海野昭彦、海野寿久、大内英明、大内康彦、大沢忍、太田誠、大谷常明、株式会社安住、株式会社セブンイレブン・ジャパン、株式会社ASSO、鴨川知弘、鴨川謙、鴨川渉、川崎純徳、川崎てる、川又幸江、菊池広明、金光和紀、柴田智明、黒沢新一、黒沢蒼空、ケイアイスター不動産株式会社、小泉貞夫、小松孝弘、小松陽子、小松崎広行、齋藤佳代子、坂本邦夫、佐藤将人、塩崎あや子、船田よね子、清水よしえ、杉浦信子、杉田和明、鈴木真由、砂押一秋、高橋登吾、田口信夫、田村一真、照沼三夫、富永大樹、一建設株式会社、平塚区、平塚美幸、平野恵子、平野寿人、廣島猛、藤咲恵子、堀口瑞穂、峯松利光、藤垣謙夫、藤垣正之、藤垣佑美、諸根洋、諸根好男、山口大輔、山口真理、有限会社ゴールドリーブ、吉田正幸、吉田峰子
- 12 事務局は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き、組織は次のとおりである。

総 務 課	課 長 井上 亨
文 化 財 調 査	文 化 財 室 長 千原 美恵子
事 務 所	主 事 照沼 沙保里 中村 真絵

# 目次

I	概要	1	18	寄居新田古墳群	23
II	試掘調査報告	4	(1)	第1次調査報告	23
1	市毛下坪遺跡	4	(2)	第2次調査報告	23
(1)	第18次調査報告	4	(3)	第3次調査報告	23
(2)	第19次調査報告	4	(4)	第4次調査報告	23
2	向野A遺跡	5	19	小貫山遺跡	25
(1)	第6次調査報告	5	(1)	第3次調査報告	25
3	蛭塚西貝塚	6	20	松原遺跡	26
(1)	第1次調査報告	6	(1)	第7次調査報告	26
4	大平A遺跡	8	21	三反田新堀遺跡	27
(1)	第5次調査報告	8	(1)	第19次調査報告	27
(2)	第6次調査報告	8	22	三反田古墳群	28
5	堀口遺跡	8	(1)	第3次調査報告	28
(1)	第30次調査報告	8	23	向坪遺跡	30
6	御所内I遺跡	11	(1)	第6次調査報告	30
(1)	第2次調査報告	11	III	本調査報告	32
7	西中根遺跡	11	1	岡田遺跡第35次調査報告	32
(1)	第5次調査報告	11	(1)	調査の経過	32
8	君ヶ台遺跡	14	(2)	住居跡	32
(1)	第14次調査報告	14	(3)	調査区出土遺物	35
9	東中根清水遺跡	15	2	岡田遺跡第36次調査報告	43
(1)	第5次調査報告	15	(1)	調査の経過	43
10	石高遺跡	16	(2)	第1号溝跡	43
(1)	第12次調査報告	16	(3)	調査区出土遺物	44
11	黒袴遺跡	17	3	市毛上坪遺跡第26次調査報告	44
(1)	第8次調査報告	17	(1)	調査の経過	44
12	東原遺跡	18	(2)	住居跡	44
(1)	第9次調査報告	18	(3)	土坑・ピット	47
13	金上塚遺跡	19	(4)	調査区出土遺物	48
(1)	第11次調査報告	19	4	市毛上坪遺跡第27次調査報告	52
14	市毛上坪遺跡	20	(1)	調査の経過	52
(1)	第29次調査報告	20	(2)	住居跡	52
15	内手遺跡	21	(3)	溝跡	58
(1)	第3次調査報告	21	(4)	調査区出土遺物	58
16	御所内II遺跡	22	5	市毛上坪遺跡第28次調査報告	62
(1)	第5次調査報告	22	(1)	調査の経過	62
17	根崎B遺跡	22	(2)	住居跡	62
(1)	第1次調査報告	22	(3)	調査区出土遺物	71
(1)	第1次調査報告	22	6	下高井遺跡第7次調査報告	72
			(1)	調査の経過	72
			(2)	第1号住居跡	73
			(3)	調査区出土遺物	73

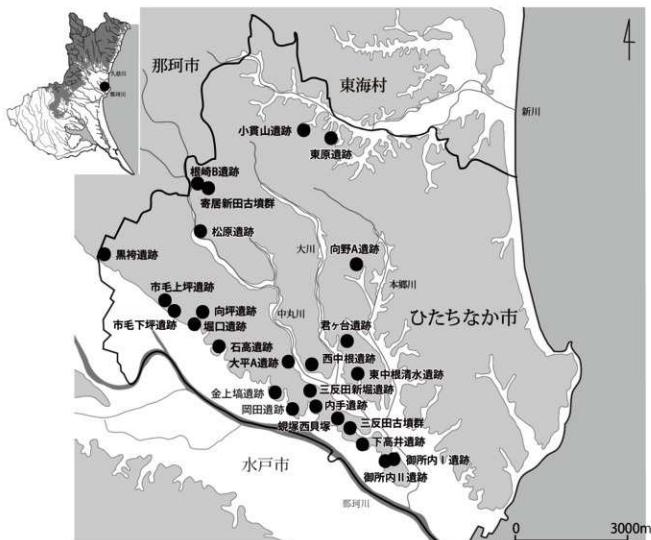
# I 概要

ひたちなか市は、茨城県の中央部に位置し、面積99.96 km<sup>2</sup>、人口約16万人を擁する地方中心城市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を發し、茨城県のはぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり、古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は、この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され、小文谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は、近世まで真崎浦という入り江であったが、現在は広く水田化され、東海村との境となっている。

現在市内には、約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み、周知遺跡内

における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり、そうした事態に対応すべく、昭和54(1979)年から、国・県の補助を受け、市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり、市域の埋藏文化財の全体的状況を知る上で、その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から、市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社(現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)に委託されるようになり、公社が主体となり実施されるようになった。平成31年(令和元年)は、23カ所の遺跡において試掘調査28件、3カ所の遺跡において本調査4件が実施され、岡田遺跡・市毛上坪遺跡における古墳時代・平安時代住居跡の調査や、岡田遺跡における比較的規模の大きな溝跡等の成果を得ている。



第1図 調査遺跡の位置

第1表 平成31(令和元)年市内遺跡発掘調査一覧

No	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査理由	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
1	市毛上坪遺跡	27次	市毛上坪 1209番3	12月26日～1月25日	個人住宅	本調査	佐々木	223㎡	97㎡	住居跡4基(古墳)、溝1条	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師瓦土器、石器、鉄製品
2	市毛下坪遺跡	18次	市毛下坪 424	1月22～25日	集合住宅	試掘	佐々木	924㎡	88㎡	住居跡4基(平安1、時期不明3)、溝5条	土師器、須恵器
3	市毛上坪遺跡	28次	市毛上坪 1194番4	2月5日～3月8日	個人住宅	本調査	佐々木	240㎡	87㎡	住居跡4基(古墳2、平安2)	土師器、須恵器、鉄製品、石器
4	馬成字向野A遺跡	6次	馬成字向野 2903番2	2月13～19日	区画整理	試掘	佐々木	450㎡	29㎡	なし	なし
5	三反田字梨塚敷西負塚	1次	三反田字梨塚敷 4213番6	2月19～26日	個人住宅	試掘	佐々木	406㎡	35㎡	なし	縄文土器、土師器
6	大平A遺跡	5次	大平二丁目 3433番354	3月12～13日	個人住宅	試掘	佐々木	219㎡	23㎡	溝1条	なし
7	三反田北長町岡田遺跡	36次	三反田北長町 3618番2	4月11～17日	個人住宅	本調査	佐々木田中	247㎡	11㎡	溝1条	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄製品
8	堀口遺跡	30次	堀口字新地坪 148番1ほか	4月9～19日	宅地造成	試掘	佐々木田中	1,187㎡	134㎡	住居跡2基(時期不明)、溝跡1条	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世土器、陶器、石器、鉄製品、瓦、銅銭
9	柳字六六遺跡	2次	柳字六六 524番1	4月17～18日	個人住宅	試掘	佐々木田中	269㎡	26㎡	なし	なし
10	中継字嶺西中根遺跡	5次	中継字嶺 5338番ほか	5月8日～28日	店舗	試掘	佐々木田中	2,724㎡	263㎡	溝9条、土坑1基	縄文土器、近世陶器
11	東部第1土地区画整理事業若ヶ台遺跡	14次	東部第1土地区画整理事業 142街区1、2、3号	5月14～28日	建築住宅	試掘	佐々木田中	1,577㎡	170㎡	住居跡1基(古墳)	縄文土器、土師器、磁器
12	東中根清水遺跡	5次	中継字中内 6200番	5月22～24日	個人住宅	試掘	佐々木田中	330㎡	24㎡	なし	なし
13	石高遺跡	12次	武田土地区画整理事業 45街区7号	5月28日～6月5日	個人住宅	試掘	佐々木田中	462㎡	40㎡	なし	なし
14	三反田字西原高崎遺跡	8次	三反田字西原 3393番	6月4日～7日	個人住宅	試掘	佐々木田中	331㎡	22㎡	住居跡1基(古墳)	弥生土器、土師器、石製品
15	高野字堂上東沢遺跡	9次	高野字堂上 1051番1	6月11日～14日	個人住宅	試掘	佐々木田中	436㎡	19㎡	住居跡1基(時期不明)	なし
16	金上塚遺跡	11次	金上字嶺 753番	6月18日～20日	個人住宅	試掘	佐々木田中	435㎡	34㎡	住居跡1基(奈良・平安)	土師器、須恵器
17	市毛下坪遺跡	19次	市毛下坪 407番12	7月2日～9日	個人住宅	試掘	佐々木田中	269㎡	19㎡	住居跡1基(時期不明)	なし
18	市毛上坪遺跡	29次	市毛上坪 1209番5	7月9～17日	個人住宅	試掘	佐々木田中	200㎡	21㎡	住居跡6基(古墳4、時期不明2)、溝1条	弥生土器、土師器、須恵器、鉄製品
19	三反田字下高井遺跡	7次	三反田字下高井 5009番4	7月17～23日	個人住宅	本調査	佐々木田中	13㎡	10㎡	住居跡1基(古墳後期)	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器

No	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査理由	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
20	三反田字原 内手遺跡	3次	三反田字原 3389 番5	7月17～23日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	331㎡	36㎡	住居跡1基(時期不明)	弥生土器、土師器、 須恵器
21	三反田字原 御所内B遺跡	5次	三反田字原跡 2680番2	7月30日～ 8月2日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	331㎡	42㎡	溝1条	なし
22	田原字相馬 極崎B遺跡	1次	田原字相馬 285 番44ほか	8月20～23日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	364㎡	30㎡	土坑2基(弥生1、時期 不明1)	縄文土器、弥生土器、 土師器、石器
23	田原字青井新田 古墳群	1次	田原字青井新田 1004番5の一部	9月3～6日	集合住宅	試掘	佐々木 田中	998㎡	103㎡	溝2条	なし
24	田原字青井新田 古墳群	2次	田原字青井新田 1004番2の一部	9月3～6日	集合住宅	試掘	佐々木 田中	958㎡	73㎡	なし	なし
25	田原字青井新田 古墳群	3次	田原字青井新田 1004番5の一部	9月3～10日	集合住宅	試掘	佐々木 田中	936㎡	99㎡	溝1条	なし
26	高野字板宮 小賣山遺跡	3次	高野字板宮 2281 番19ほか	9月25～27日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	424㎡	32㎡	なし	なし
27	田原字松原 松原遺跡	7次	田原字松原 757 番2ほか	10月1～8日	宅地造成	試掘	佐々木 田中	1,461㎡	167㎡	住居跡4基(古墳)、 土坑1基	縄文土器、土師器、 鉄滓
28	三反田字新堀 三反田新堀遺跡	19次	三反田字新堀 5233番1	11月7～9日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	401㎡	33㎡	住居跡2基(弥生1、時期 不明1)、ピット1基	弥生土器
29	田原字青井新田 古墳群	4次	田原字青井新田 1004番2	11月26日～ 12月4日	集合住宅	試掘	佐々木 植田 田中	978㎡	77㎡	溝1条、土坑1基、 ピット1基	なし
30	三反田字天 三反田古墳群	3次	三反田字天 4548番	11月27～ 12月4日	太陽光 発電	試掘	植田 田中	2,239㎡	60㎡	瓦溝2条	なし
31	地丁字向坪 向坪遺跡	6次	地丁字向坪 610 番7ほか	12月10～11日	道路	試掘	佐々木 田中	997㎡	13㎡	溝1条	なし
32	大平二丁目 大平A遺跡	6次	大平二丁目 3433 番1525	12月17～20日	個人住宅	試掘	佐々木 植田 田中	287㎡	27㎡	住居跡1基(平安)、 溝1条	土師器、須恵器



## II 試掘調査報告

### 1 市毛下坪遺跡

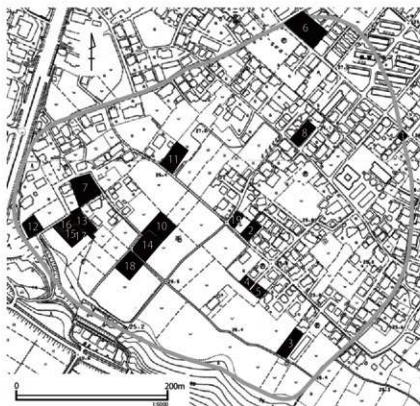
#### (1) 第18次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から70mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査は4カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～0.7mを測る。調査の結果、住居跡4基と溝跡5条を確認した。出土遺物からみて、住居跡は平安時代1基(2住)、時期不明3基(1・3・4住)であった。調査区からは、土師器、須恵器の小片が少量出土している。

#### 遺物説明

##### 第4図

1 出土位置：2 トレンチ 材質：須恵器 器種：杯  
残存：底部25% 法量：底径(6.7) 色調：灰色 胎土：  
礫(白、白透、灰)、骨針微量 技法等：回転ヘラ切り。  
底部外面ナデ。 備考：木葉下産物



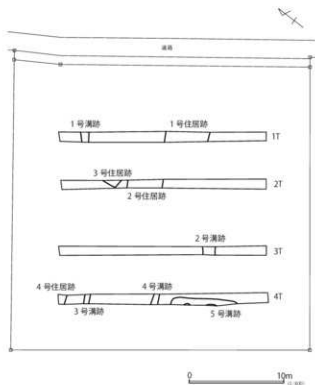
第2図 市毛下坪遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第2表 市毛下坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	豊山市教委	本調査	土坑1(時期不明)	1
2	1987	豊山市教委	本調査	溝1(9世紀)	2
3	1987	豊山市教委	本調査	住居1(9世紀)、溝2(時期不明)	2
4	1989	豊山市教委	本調査	住居1(9世紀)、溝1(時期不明)	3
5	1989	豊山市教委	本調査	溝2(時期不明)	3
6	1989	豊山市教委	本調査	住居2(8世紀)、溝2(時期不明)	3
7	1991	豊山市教委	本調査	住居3(古墳後期2、9世紀)	4
8	1993	豊山市教委	試掘調査	なし	5
9	2006	市教委	試掘調査	なし	—
10	2012	公社	試掘	住居3(9世紀)、溝5・土坑1・ピット5(時期不明)	6
11	2014	公社	試掘	住居4(平安)、溝1	7
12	2016	公社	試掘	土坑4(近世2、時期不明2)	8
13	2017	公社	試掘	住居4(古墳3、平安1)	9
14	2018	公社	試掘	住居6(平安)、溝1・土坑3	10
15	2018	公社	試掘	溝1	10
16	2018	公社	試掘	なし	10
17	2018	公社	試掘	溝1	10

#### 文献

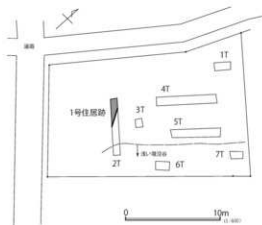
- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書  | 6 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  |
| 2 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書  | 7 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  |
| 3 平成元年度豊山市内遺跡発掘調査報告書 | 8 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  |
| 4 平成3年度市内遺跡発掘調査報告書   | 9 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書  |
| 5 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書   | 10 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |



第3図 市毛下坪遺跡第18次調査区



第4図 市毛下坪遺跡第18次調査区出土遺物



第5図 市毛下坪遺跡第19次調査区

## 2 向野A遺跡

### (1) 第6次調査報告

調査地は、本郷川から北東方向に延びる小支谷の奥部に所在する馬波埴輪製作遺跡の北250mほどに位置し、平坦な地形を呈する。調査時は林地であった。調査は2か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3m～0.8mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



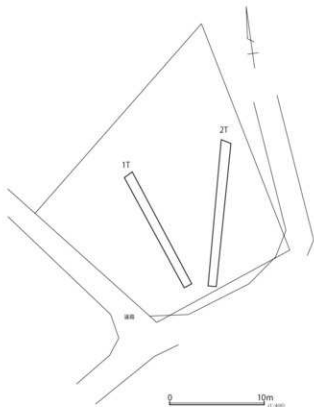
第6図 向野A遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第3表 向野A遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
0	1983	熊山市教育	本調査	なし	1
1	1990	公社	本調査	包袋層(縄文)、粘土深部坑2(弥生)、溝1	2・6
2	2002	公社	本調査	なし	3・6
3	2003	公社	本調査	陥穴1(縄文)、溝2	4・6
4	2004	公社	本調査	陥穴1(縄文)、住居跡1(古墳)、溝2(中・近世)	5・6
5	2018	公社	試掘	溝1	7

#### 文献

- 1 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書 2 向野Ⅰ 3 向野Ⅴ 4 向野Ⅵ  
5 向野Ⅶ 6 向野遺跡群 7 平成30年度むちなか市内遺跡発掘調査報告書



第7図 向野A遺跡第6次調査区

### 3 蛭塚西貝塚

#### (1) 第1次調査報告

調査地は、中丸川低地から南西方向に入り込む小さな谷の谷頭付近に位置し、北方にゆるく傾斜する地形を呈する。調査は11カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.6～1.1mを測る。調査の結果、遺構は確認されなかった。なお調査区東部は浅い埋没谷が入り込むようである。調査区からは縄文土器・土師器片が出土している。

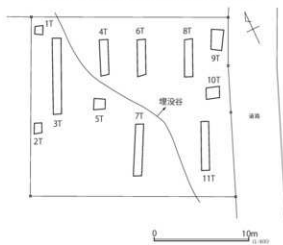
#### 遺物説明

##### 第10図

- 1 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式）  
文様：口縁部に隆帯（2本）、単節斜縄文（LR） 胎土：金雲母含む
- 2 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期 文様：隆帯（1本）
- 3 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式）  
文様：沈線文（2本）、単節斜縄文（LR）
- 4 出土位置・注記：6トレ 時代時期：縄文時代中期 文様：隆帯（1本）
- 5 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期（阿玉台式）
- 6 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式）  
文様：沈線文（途断文土器カ）、燃糸文（L） 胎土：黒色粒を多量に含む
- 7 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜



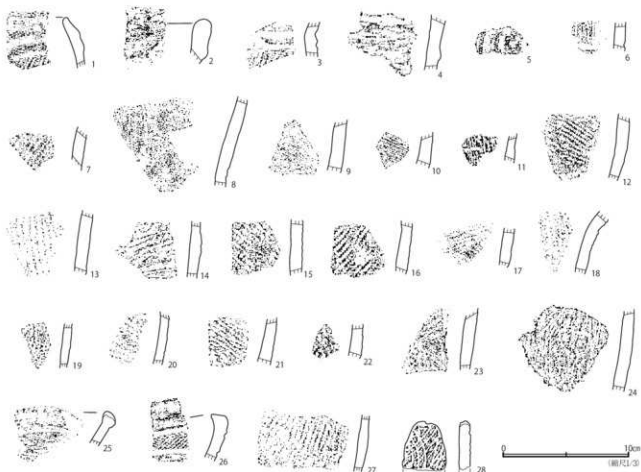
第8図 蛭塚西貝塚の調査地点（数字は調査次数）



第9図 蛭塚西貝塚第1次調査区

縄文（LRカ）胎土：金雲母・砂粒を多く含む

- 8 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式）  
文様：燃糸文（Lカ） 胎土：海綿骨針含む 備考：器外面削り
- 9 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期
- 10 出土位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：条痕文
- 11 出土位置・注記：8トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：条痕文
- 12 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文（RL）
- 13 出土位置・注記：表探 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器外面に煤付着
- 14 出土位置・注記：6トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：無節縄文（L）
- 15 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文（LR）
- 16 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：



第10図 蛸塚西貝塚第1次調査区出土遺物

単節斜縄文 (RL)

17 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (LR)

18 出土位置・注記：10トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (LR)

19 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期 文様：器糸文 (L)

20 出土位置・注記：表採 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (LR) 備考：器内面磨き

21 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：無節斜縄文 (L)

22 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (RL)

23 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：沈線文、単節斜縄文 (RL)

24 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中・後期 文様：無節斜縄文 (Rカ) 胎土：海綿骨針含む

25 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代後期 文様：口唇部刻み・沈線文

26 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代後期 (称名寺式) 文様：口縁部に沈線文 (2本)、単節斜縄文 (LR)

27 出土位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代後期 文様：単節斜縄文 (LR)

28 出土位置・注記：8トレ 時代時期：縄文時代中・後期 器種：土器片鉢 文様：沈線文 法量：長さ 39 mm、幅 33 mm、厚さ 9 mm、重量 15.4 g 備考：土器片を再利用、土器断面に研磨痕

## 4 大平 A 遺跡

### (1) 第5次調査報告

調査地は中丸川を望む台地縁辺部から200mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.5mを測る。調査の結果、溝跡1条を確認した。遺物は出土しなかった。



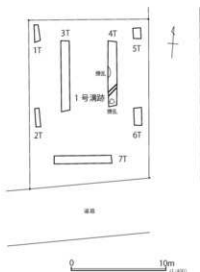
第11回 大平A遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第4表 大平A遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	勝田市教委	試掘	土坑1	1
2	1979	勝田市教委	試掘	なし	1
3	1990	勝田市教委	試掘	溝2、土坑6	2
4	2009	公社	試掘	土坑1	3

#### 文献

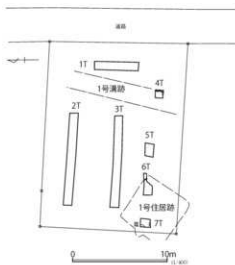
- 1 市内遺跡発掘調査報告書(昭和54年度)
- 2 平成2年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第12回 大平A遺跡第5次調査区

### (2) 第6次調査報告

調査地は中丸川を望む台地縁辺部から130mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～1.1mを測る。調査の結果、平安時代の住居跡1基と溝跡1条を確認した。住居跡からは須恵器・土師器の破片が出土している。溝跡からの出土遺物はなく時期は不明である。また、調査区からも土師器の破片が少量確認された。



第13回 大平A遺跡第6次調査区

## 5 堀口遺跡

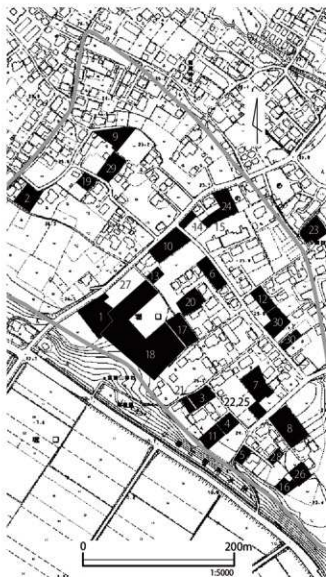
### (1) 第30次調査報告

調査地は、那珂川低地から北方に入り込む谷から80mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査は42カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.2～0.8mを測る。調査の結果、時期不明の住居跡が2基確認された。いずれも上部が削平されており遺存状況は良くない。このほか溝跡が1条確認されている。溝跡からはかわらけや内耳土器の破片が出土することから、中世の溝跡になるものと推定される。なお、今回の調査区は全体的に削平されているようである。特に調査区東側は、遺構確認面に鹿沼パミス層が認められたことからみて、過去に深く削平されているようである。

#### 遺物説明

## 第16図

- 1 出土位置・注記：12トレ2溝 時代時期：弥生時代 文様：付加条縄文 (LR・2R)
- 2 出土位置・注記：16トレ2溝 時代時期：弥生時代 文様：付加条縄文 (LR・Rカ)
- 3 出土位置・注記：16トレ2溝 時代時期：弥生時代 文様：付加条縄文 (R・S)
- 4 出土位置・注記：7トレ 時代時期：弥生時代中期カ 文様：付加条縄文 (LR・2Rカ)
- 5 出土位置・注記：6トレ 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 文様：櫛歯文 (4本)、付加条縄文 (L×L) 胎土：金雲母・海綿骨針含む 備考：大型壺形土器
- 6 出土位置・注記：16トレ2溝 時代時期：弥生時代後期 (十王台式) 文様：付加条縄文 (L・S、R・Z)
- 7 出土位置・注記：7トレ 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文 (LR・2R)
- 8 出土位置・注記：11トレ2溝 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文 (LR・2Rカ)



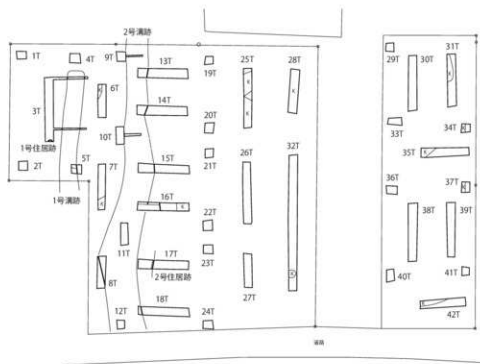
第14図 堀口遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

第5表 堀口遺跡調査一覧

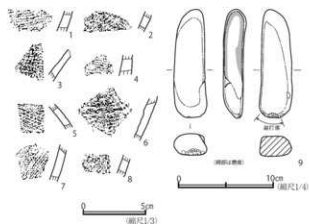
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	藤田市教委	本調査	住居17 (1号1、古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、土器4、平瓦3、榎葉形瓦)	1
2	1979	藤田市教委	本調査	住居2 (平瓦)	2
3	1983	藤田市教委	本調査	住居3 (古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、平瓦)	3
4	1984	藤田市教委	本調査	住居2 (古銅器Ⅰ、榎葉形瓦)	4
5	1985	藤田市教委	本調査	住居4 (古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、榎葉形瓦)	5
6	1992	藤田市教委	本調査	住居2 (古銅器Ⅰ、榎葉)	6
7	1993	藤田市教委	本調査	住居8 (1号1、古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、平瓦)	7
8	1996	市教委	本調査	住居6 (古銅器Ⅱ、古銅器Ⅲ、土器1、平瓦)	8
9	2006	市教委	試掘	なし	9
10	2007	市教委	本調査	住居7 (古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、土器1、平瓦)	10
11	2008	公社	試掘	住居2 (土器・平瓦)、榎葉形瓦、溝1	11
12	2008	公社	試掘	住居25 (古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、榎葉形瓦)、土器3 (古銅器Ⅰ、榎葉形瓦)、溝1	11
13	2013	公社	試掘	住居2 (古銅)	12
14	2013	公社	試掘	住居2 (古銅器Ⅰ、平瓦)、溝2 (榎葉形瓦)	12
15	2013	公社	本調査	住居4 (古銅器Ⅰ、古銅器Ⅱ、榎葉形瓦)、溝1	13
16	2014	公社	試掘	住居1 (平瓦)、堀1 (榎葉形瓦)	13
17	2014	公社	試掘	住居16 (榎葉、古銅器、榎葉形瓦)、土坑2 (榎葉形瓦)	14
18	2015	公社	試掘	住居120 (榎葉、古銅器Ⅱ、榎葉形瓦、平瓦、榎葉形瓦)、土坑14、土坑壘2、溝2	14
19	2015	公社	試掘	住居1 (榎葉形瓦)	14
20	2015	公社	試掘	住居5 (古銅器)、土坑5 (榎葉形瓦)	14
21	2015	公社	試掘	なし	14
22	2015	公社	試掘	住居6 (古銅器、平瓦、榎葉形瓦)	15
23	2015	公社	試掘	住居1 (古銅)	15
24	2015	公社	試掘	住居2 (榎葉形瓦)	15
25	2016	公社	本調査	住居9 (榎葉、古銅器、平瓦)	15
26	2016	公社	試掘	なし	15
27	2016	歴史文化財 財団	本調査	—	—
28	2016	公社	試掘	なし	15
29	2018	公社	試掘	住居8 (古銅器Ⅰ、榎葉・平瓦4、榎葉形瓦)	16

## 文献

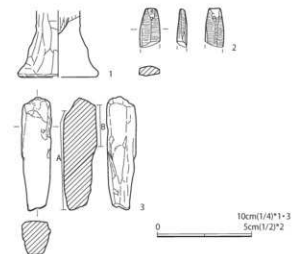
- 1 茨城県藤田市堀口遺跡発掘調査報告書
- 2 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和54年度)
- 3 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和58年度)
- 4 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和59年度)
- 5 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和60年度)
- 6 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成6年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 堀口遺跡発掘調査報告書
- 11 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第15図 堀口遺跡第30次調査区



第16図 堀口遺跡第30次調査区出土遺物(1)



第17図 堀口遺跡第30次調査区出土遺物(2)



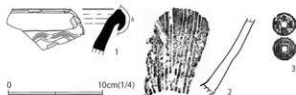
12.0, 幅 3.0, 厚 3.5, 重量 166.43g 色調:灰白色 備考:使用面2面(A・B)。

第18図

1 出土位置:32トレンチ 材質:須恵器 器種:甕 残存:口縁部片 色調:灰色 胎土:礫(白少) 特徴:外面に縷目数5本の縷目波状文。内外面に自然釉がかかるが、口辺部外面(A)が剥離している。

2 出土位置:19トレンチ 材質:土師質土器 器種:播鉢 残存:体部片 色調:外面橙色・黒色、内面橙色 胎土:砂(透多, 白, 灰少, 角閃石類、骨針微量 特徴:縷目数6本

3 出土位置:32トレンチ 材質:銅 種類:銭貨(永楽通寶) 残存:完形 法量:縦径24.3、横径24.0、厚さ1.26~1.86、重量4.1g 備考:初鑄年1408、明

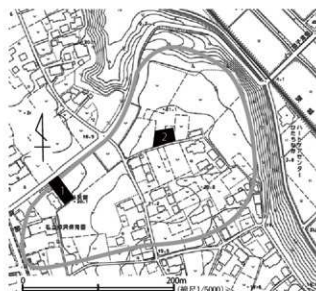


第18図 堀口遺跡第30次調査区出土遺物(3)

## 6 御所内I遺跡

### (1) 第2次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から100mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.5mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



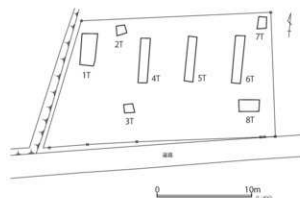
第19図 御所内I遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第6表 御所内I遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2016	公社	試掘	土坑1	1

文献

1 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第20図 御所内I遺跡第2次調査区

## 7 西中根遺跡

### (1) 第5次調査報告

調査地は、大川の低地を望む台地縁辺から200mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査は16カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.8mを測る。調査の結果、溝跡9条、土坑1基が確認された。第2号溝跡から17世紀頃の天目茶碗が、第1号土坑から近世と思われる土器片が出土している。江戸時代の遺構になるであろう。調査区からは縄文土器、近世土器片が少量出土した。

#### 遺物説明

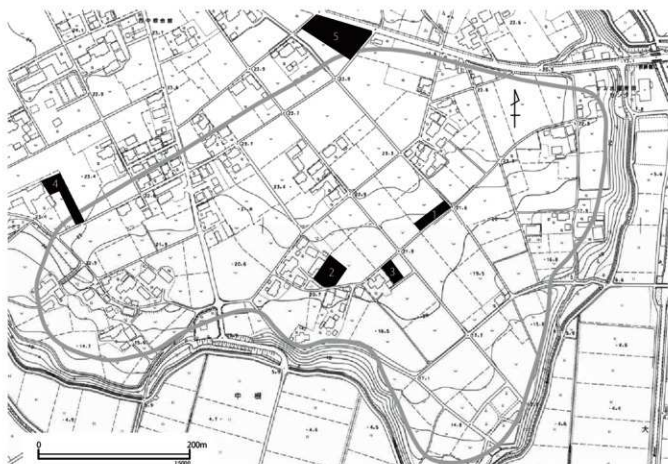
##### 第22図

1 出土位置：6トレンチ2溝 材質：陶器 器種：碗 残存：体部15% 法量：口径(11.6) 色調：素地灰色 胎土：一 技法等：体部外面および内面に鉄軸 備考：瀬戸産天目茶碗。瀬戸・美濃登窯編年第5小期(17世紀末)。

##### 第23図

- 出土位置・注記：14トレ 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：渦巻き文部 胎土：金雲母含む
- 出土位置・注記：5トレSD4 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：単節斜縄文(RL)
- 出土位置・注記：11トレ 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：条痕文
- 出土位置・注記：5トレSD3 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：単節斜縄文(RL)
- 出土位置・注記：5トレSD3 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：単節斜縄文(LR) 胎土：金雲母含む
- 出土位置・注記：10トレ 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：単節斜縄文(RL) 胎土：金雲母含む
- 出土位置・注記：5トレSD4 時代時期：縄文時代中期 器種：土製円板 法量：長さ39mm、幅40mm、厚さ8mm、重量14.9g 備考：加曾利E式土器片を再利用





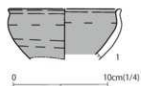
第 21 図 西中根遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第 7 表 西中根遺跡調査一覧

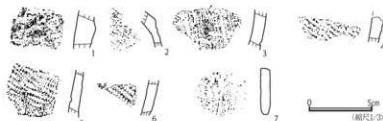
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1993	柳田市政委	本調査	土坑 1	1
2	1999	中教委	本調査	土坑	2
3	2011	公社	試掘	なし	3
4	2017	公社	試掘	住居跡 1 基（古堀）	4

文献

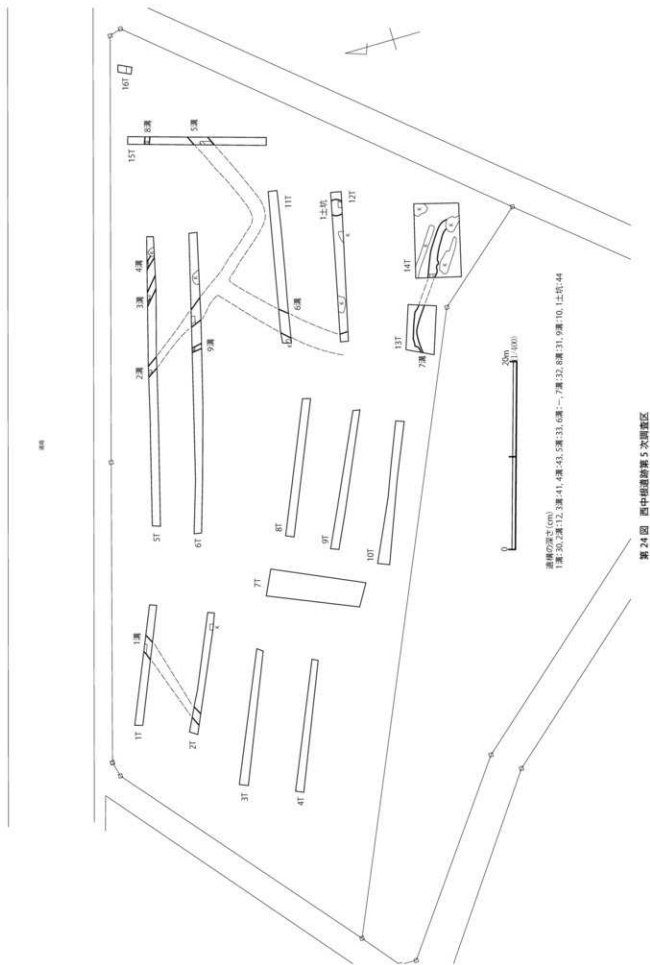
- 1 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 11 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 22 図 西中根遺跡第 5 次調査区出土遺物 (1)



第 23 図 西中根遺跡第 5 次調査区出土遺物 (2)



## 8 君ヶ台遺跡

### (1) 第14次調査報告

調査地は、本郷川の低地から北西方向に入り込む小支谷を望む台地縁辺から40mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査は7区に分かれており、全

体で54カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.1～0.8mを測る。調査の結果、古墳時代の住居跡1基が確認された。調査区からは、縄文土器、土師器及び近世の磁器片が少量出土した。

### 遺物説明

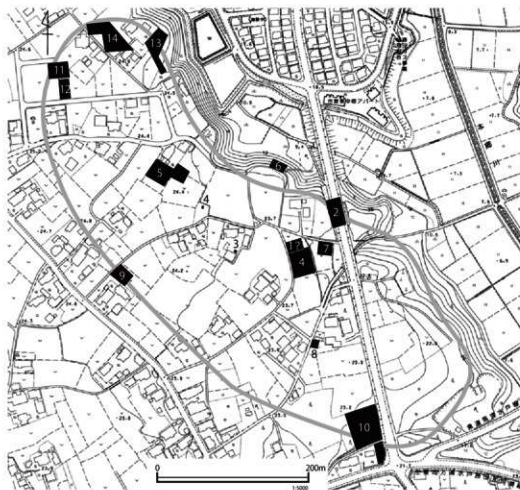
#### 第26図

1 出土位置・注記：2区4トレンチ 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜縄文 (RL)

2 出土位置・注記：1区8トレンチ 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜縄文 (LR)

#### 第27図

1 出土位置：4区7トレンチ  
材質：磁器 器種：皿 残存：  
体部片 法量：口径(14.5)、  
器高4.1、高台径(9.5) 技法等：  
外面口縁部一本圈線、腰部一本圈線、高台笠二重圈線。内面体部花文。見込み両縁二重圈線。備考：肥後産。豊島区分類厚手U字高台皿(1700年代～1820年代)。



第25図 君ヶ台遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第8表 君ヶ台遺跡調査一覧

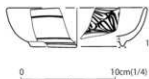
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1951	勝山町成土史	本調査	土坑群、住居、溝1	—
2	1979	福原委自会	本調査	土坑群、住居4	1
3	1994	勝山町教委	本調査	土坑3、住居2	2
4	1999	市教委	試掘	土坑1	3
5	2001	市教委	試掘	住居1、土坑1	4
6	2003	市教委	本調査	住居1	5
7	2006	市教委	試掘	変し	6
8	2006	市教委	本調査	住居1	—
9	2010	公社	試掘	土坑2、溝1	7
10	2015	公社	試掘	変し	8
11	2017	公社	試掘	住居1	9
12	2018	公社	試掘	変し	10
13	2018	公社	試掘	変し	10

### 文献

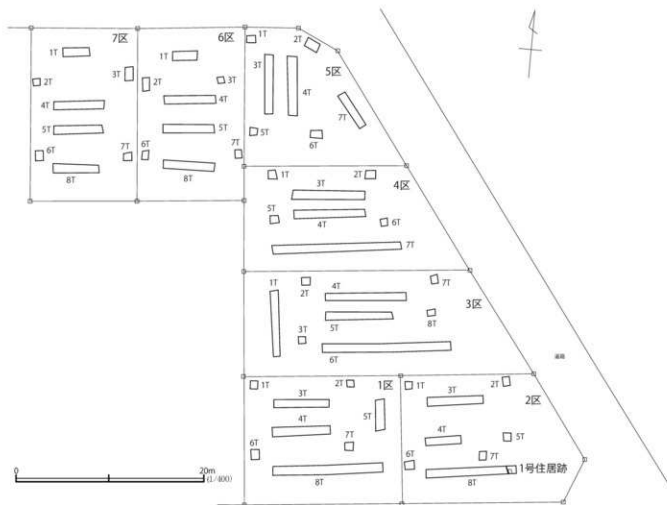
- 君ヶ台遺跡調査報告書
- 平成6年度市内道跡発掘調査報告書
- 平成10年度市内道跡発掘調査報告書
- 平成13年度市内道跡発掘調査報告書
- 平成15年度市内道跡発掘調査報告書
- 平成18年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 平成22年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 平成27年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 平成29年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書



第26図 君ヶ台遺跡第14次調査区出土遺物(1)



第27図 君ヶ台遺跡第14次調査区出土遺物(2)

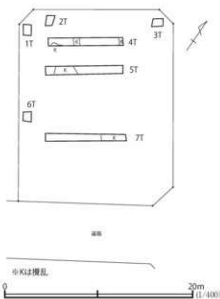


第 28 図 若ヶ台遺跡第 14 次調査区

## 9 東中根清水遺跡

### (1) 第 5 次調査報告

調査地は、中丸川の低地から北東方向に入り込む小支谷の谷頭に位置し、南東に緩く傾斜する地形を呈する。調査は 7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.6～1.0 mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第 29 図 東中根清水遺跡第 5 次調査区



第30図 東中根清水遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第9表 東中根清水遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1~3	2000~ 2001	市道跡 調査会	本調査	住居 19 (古墳 2, 非良・平安 14, 時期不明 3), 竪立 1 (時期不明), 井戸 1 (平安), 堀跡地盤 1 (平安以前)	1
4	2010	公社	試掘	住居 3 (古墳 1, 平安 2)	2

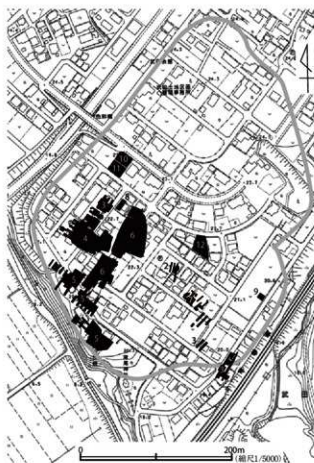
文献

- 1 東中根遺跡群発掘調査報告書
- 2 平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 10 石高遺跡

### (1) 第 12 次調査報告

調査地は、那珂川低地から北方向に入り込む谷（現在は JR 常磐線が通る。）から北西方向に入り込む小支谷の谷頭付近に位置し平坦な地形を呈する。ただし現在は調査地周辺は区画整理事業により地形が改変されており、旧地形はほとんどうかがえない。調査は 16 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.6 ~ 1.0 m を測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



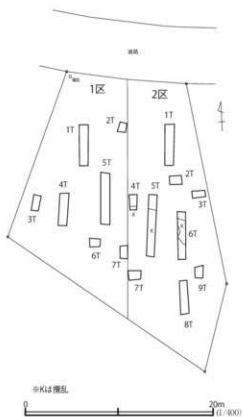
第31図 石高遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第10表 石高遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1980	藤岡市教委	本調査	溝 1, 土坑 3	1
2	1983	藤岡市教委	本調査	住居 3, 土坑 3, 道路	2
3	1986	武山遺跡群調査会	本調査	住居 303, 溝 1, 土坑 1,	3
				竪立 1, 墓 17 塚 3	
4	1988	公社	本調査	住居 57	4
5	1989	公社	本調査	住居 10, 土坑 6,	5
				竪立 13, 溝, 堀	
6	1991	公社	本調査	住居 102, 土坑, 溝	6
7	1992	公社	本調査	住居 10, 土坑 5, 溝 2	6
8	1994	公社	本調査	住居 3	7
9	2002	市教委	本調査	なし	8
10	2004	市教委	本調査	溝	9
11	2005	市教委	本調査	なし	10

文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 56 年)
- 2 昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 武山 I
- 4 武山 II
- 5 武山 III
- 6 武山 IV
- 7 武山 V
- 8 平成 14 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 17 年度市内遺跡発掘調査報告書



第 32 図 石高遺跡第 12 次調査区

## 11 黒袴遺跡

### (1) 第 8 次調査報告

調査地は、那珂川低地から北方向に入り込む谷から 40 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は、北半に植木が密集し、南半が畑地として利用されていた。調査は 7 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.5～0.6 m を測る。調査の結果、古墳時代前期と思われる住居跡が 1 基確認され、覆土中より弥生土器と土師器が出土した。このほか調査区から、石製模造品の破片が出土している。

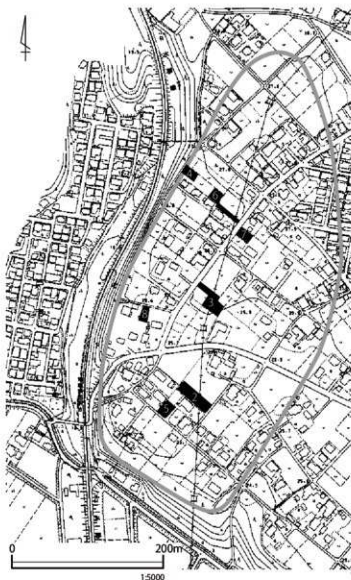
#### 遺物説明

##### 第 35 図

1 出土位置・注記：3 トレ 1 住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文 (LR+ 2R)

##### 第 36 図

1 台帳：2T 材質：滑石 種類：双孔円板 法量：厚 0.2、孔径 0.2、重量 0.89g



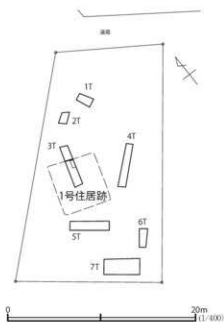
第 33 図 黒袴遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

第 11 表 黒袴遺跡調査一覧

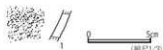
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1965	不明	水調査	道路 1、土坑 1	なし
2	1983	勝山中教委	水調査	住居 3 (古墳前期 1、平安 1)、土坑 3	1
3	2008	公社	試掘	溝 1	2
4	2015	公社	試掘	住居 1 (古墳)、溝 1、土坑 3	3
5	2016	公社	試掘	住居 3 (弥生 1、古墳 2)、土坑 1	4
6	2017	公社	試掘	なし	5
7	2018	公社	試掘	なし	6

#### 文献

- 昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



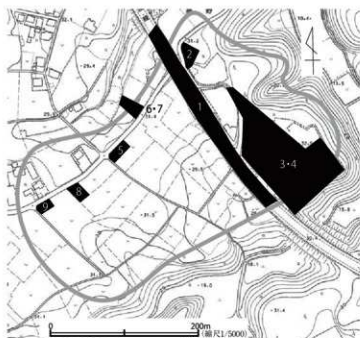
第34回 黒袴遺跡第8次調査区



第35回 黒袴遺跡第8次調査区出土遺物(1)



第36回 黒袴遺跡第8次調査区出土遺物(2)



第37回 東原遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第12表 東原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	旧教育財団	本調査	住居1,3(古墳3,中墳5,平安1,不明4),土坑7,溝5,井戸1	1
2	1999	市道跡調査会	本調査	土坑1(縄文)	2
3	2006	市道跡調査会	本調査	不明	なし
4	2007	市道跡調査会	本調査	不明	なし
5	2015	公社	試掘	なし	3
6	2015	公社	試掘	住居1(古墳)	3
7	2015	公社	試掘	なし	3
8	2016	公社	試掘	溝1	4

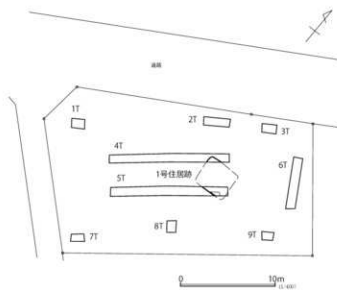
文献

- 1 主要地方道瓜連所産線道路改良工事現地内埋蔵文化財調査報告書
- 2 東原遺跡発掘調査報告書
- 3 平成27年度むちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成28年度むちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 12 東原遺跡

### (1) 第9次調査報告

調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南に入り込む小支谷の谷頭付近に位置し、谷に向かって北にゆるく傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は9カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、時期不明の住居跡が1基確認された。調査区から遺物は出土しなかった。

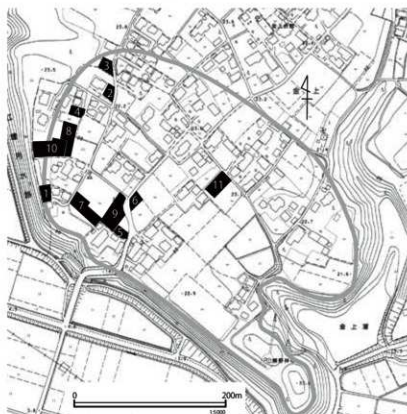


第38回 東原遺跡第9次調査区

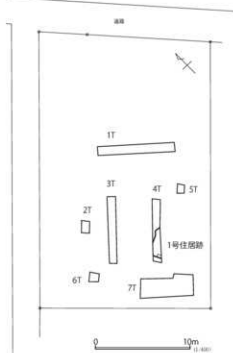
## 13 金上埴遺跡

### (1) 第11次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁部から160mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～0.7mを測る。調査の結果、住居跡を1基確認した。



第39回 金上埴遺跡の調査地点（数字は調査次数）



第40回 金上埴遺跡第11次調査区

第13表 金上埴遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝山市教委	試掘	住居跡1(奈良)	1
2	1985	勝山市教委	試掘	なし	2
3	1988	勝山市教委	試掘	なし	3
4	1999	市教委	試掘	土坑2	4
5	2003	市教委	試掘	住居跡2(奈良)、溝1(中世)	5
6	2007	市教委	試掘	住居跡1(平安)、井戸(7c末)	6
7	2012	公社	試掘	住居跡4(平安2、時期不明2)、溝跡4(時期不明)	7
8	2014	公社	試掘	住居跡2(奈良・平安1、時期不明1)	8
9	2015	公社	試掘	住居跡4(古墳2、平安2)、溝跡2(時期不明)、土坑1	9
10	2016	公社	試掘	住居跡5(奈良・平安4、時期不明1)、溝跡3(中世1、時期不明2)、土坑35、ピット42	10

住居跡からは、奈良・平安時代の土師器・須恵器の破片が出土している。また、調査区からも土師器・須恵器の小破片が出土している。

#### 文献

- 1 昭和59年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和63年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成11年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



## 14 市毛上坪遺跡

4 出土位置・注記:3トレ 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:  
付加条縄文(R×R)

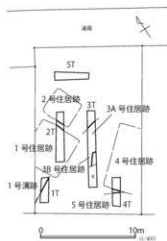
### (1) 第29次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から140mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は5カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.8～1.0mを測る。調査の結果、住居跡6基と溝跡1条を確認した。住居跡からは、土師器の小破片・不明鉄製品が出土している。出土土器からみて1・3A・4・5号住居跡は古墳時代の可能性がある。2・3B住居跡は時期不明である。また、調査区からは弥生土器・土師器・須恵器の小破片が出土している。

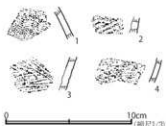
#### 遺物説明

第43図

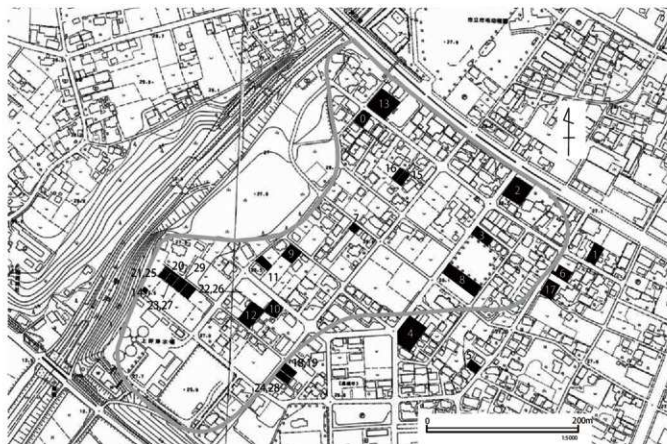
- 1 出土位置・注記:3A住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:櫛歯文(5本)
- 2 出土位置・注記:5トレ 時代時期:弥生時代 文様:単節斜縄文(LR) 備考:器内面割落
- 3 出土位置・注記:2トレ 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(L×L,RS) 備考:器内面一部割落



第42図 市毛上坪遺跡第29次調査区



第43図 市毛上坪遺跡第29次調査区出土遺物



第41図 市毛上坪遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第 14 表 市毛上坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
0	1979	熊山市教委	本調査	不明	なし
1	1980	熊山市教委	本調査	住居跡 1 (古墳)	1
2	1985	熊山市教委	本調査	住居跡 1 (古墳)	なし
3	1985	熊山市教委	試掘調査	なし	2
4	1985	熊山市教委	本調査	住居跡 2 (平安)、溝跡 1、土坑 10	2
5	1986	熊山市教委	試掘	なし	3
6	1991	熊山市教委	試掘	なし	4
7	1992	熊山市教委	本調査	溝跡 1	5
8	1996	市教委	試掘	なし	なし
9	2006	市教委	試掘	なし	7
10	2006	市教委	本調査	住居跡 2 (古墳 1、平安 1)、土坑 1	7
11	2006	市教委	試掘	住居跡 2 (古墳 1、平安 1)、溝跡 1	7
12	2012	公社	試掘	住居跡 14 (古墳か)	8
13	2013	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)	9
14	2014	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)、土坑 1	10
15	2015	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)、溝跡 1	11
16	2016	公社	試掘	住居跡 2 (古墳)	12
17	2017	公社	試掘	住居跡 2 (古墳)	13
18	2017	公社	試掘	住居跡 3 (平安 2、時期不明 1)	13
19	2017	公社	本調査	住居跡 4 (古墳 2、平安 2)	14
20	2017	公社	試掘	住居跡 2 (時期不明)、溝跡 1	14
21	2018	公社	試掘	住居跡 3 (古墳)	14
22	2018	公社	試掘	住居跡 4 (弥生 1、古墳 3)	14
23	2018	公社	試掘	住居跡 3 (古墳)、土坑 2	14
24	2018	公社	試掘	住居跡 4 (弥生・平安)	14
25	2018	公社	本調査	住居跡 5 (古墳、溝跡 1、溝跡 1、土坑 2)	14

文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 55 年度)
- 2 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 8 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

15 内手遺跡

(1) 第 3 次調査報告

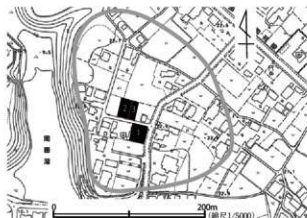
調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷から 70 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 9 方所のトレンチを設定し、

重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.3 ~ 0.6 m を測る。調査の結果、住居跡を 1 基確認した。住居跡からの出土遺物はなく時期は不明である。調査区からは、弥生土器・土師器・須恵器の小破片が少量出土している。

遺物説明

第 46 図

1 出土位置・注記：7 トレ 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文 (LR+ZR)



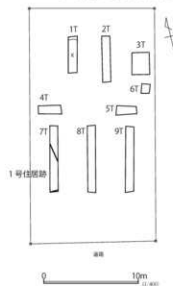
第 44 図 内手遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

第 15 表 内手遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1987	熊山市教委	本調査	住居跡 2 (古墳 1、平安 1)、溝跡 1	1
2	2016	公社	試掘	住居跡 2 (弥生・平安)	2

文献

- 1 昭和 62 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 45 図 内手遺跡第 3 次調査区



第 46 図 内手遺跡第 3 次調査区出土遺物

## 16 御所内II遺跡

### (1) 第5次調査報告

調査地は、那珂川低地から北東方向に入り込む小さな谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は9カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.9mを測る。調査の結果、溝跡を1条確認した。調査区から遺物は出土していない。



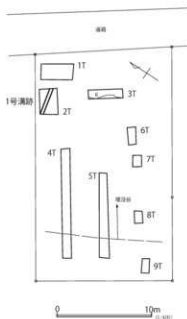
第47図 御所内II遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第16表 御所内II遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2006	市教委	試掘	なし	1
2	2006	調査会	試掘	住居跡1(古堀)	2
3	2006	調査会	本調査	住居跡1(古堀)	2
4	2007	市教委	試掘	なし	3

#### 文献

- 1 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 御所内II遺跡発掘調査報告書
- 3 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書



第48図 御所内II遺跡第5次調査区

## 17 根崎B遺跡

### (1) 第1次調査報告

調査地は、早戸川をのぞむ台地縁辺部に位置し、早戸川低地に向かい西に緩やかに傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は9カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.7mを測る。調査の結果、覆土上層から弥生土器の壺底片が出土した土坑を1基、出土遺物がなく時期不明の土坑を1基確認した。調査区からは石器、縄文土器、弥生土器、土師器の小片が少量出土している。

#### 遺物説明

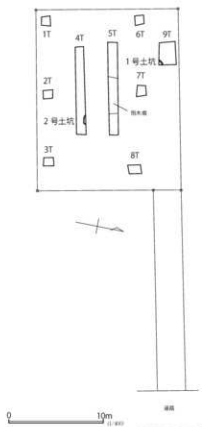
##### 第51図

1 出土位置・注記：7トレ 時代時期：縄文時代早期か 備考：口縁部を平らに整形

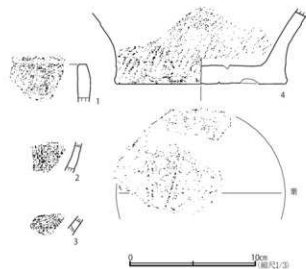


第49図 根崎B遺跡の調査地点(数字は調査次数)

- 2 出土位置・注記：5トレ 時代時期：縄文時代早期 胎土：砂粒を多量に含む 備考：器外面に擦痕
- 3 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代中期（足洗式） 文様：柳葉文（3本） 胎土：金雲母含む 備考：器内面磨き 広口壺形土器の口縁カ
- 4 出土位置・注記：SK1P1 時代時期：弥生時代後期 文様：単節斜縄文（LRの0段多条） 底面木炭痕（葉の表） 法量：底径134mm（残存率32%） 胎土：海綿骨針・金雲母を少量含む



第50図 根崎B遺跡第1次調査区



第51図 根崎B遺跡第1次調査区出土遺物

## 18 寄居新田古墳群

### (1) 第1次調査報告

調査地は、中丸川低地近くの台地上平坦部に位置する。調査時は畑地であった。調査は18カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、調査区からは時期不明の溝跡が2条確認された。遺構からの出土遺物はなく、調査区からも遺物は出土しなかった。

### (2) 第2次調査報告

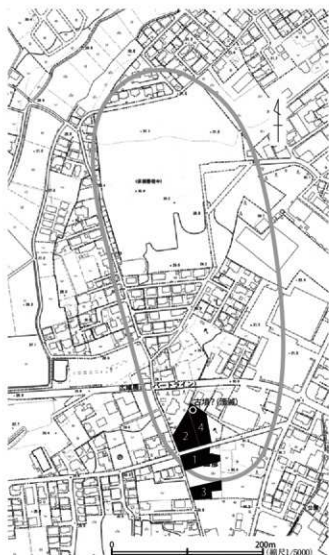
調査地は、中丸川低地近くの台地上平坦部に位置する。調査時は畑地であった。調査は14カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～1.0mを測る。調査の結果、調査区からは、遺構・遺物ともに確認されなかった。

### (3) 第3次調査報告

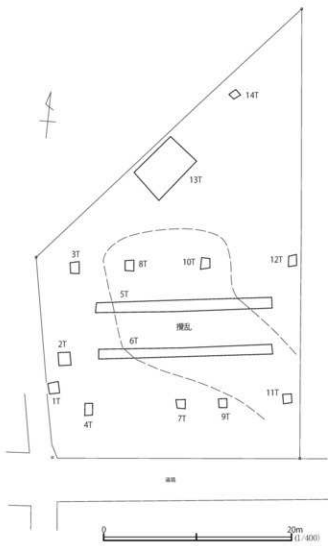
調査地は、中丸川低地近くの台地上平坦部に位置する。調査時は畑地であった。調査は13カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.6～1.2mを測る。調査の結果、調査区からは溝跡が1条確認された。遺構からの出土遺物はなく、調査区からも遺物は出土しなかった。

### (4) 第4次調査報告

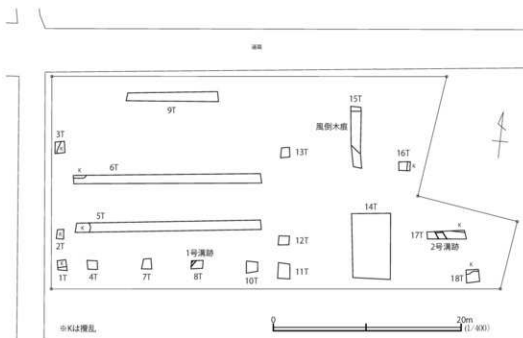
調査地は、中丸川低地近くの台地上平坦部に位置する。調査時は荒地であった。調査は31カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～1.0mを測る。調査の結果、調査区からは溝跡1条、土坑1基、ピット1基が確認された。遺構および調査区から遺物は出土しなかった。古墳の可能性があった湮滅した塚付近からは、攪乱のため周溝は確認できなかった。見つかった土坑が周溝の一部である可能性があるかもしれない。



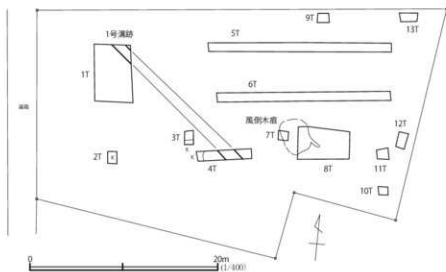
第52図 寄居新田古墳群の調査地点（数字は調査次数）



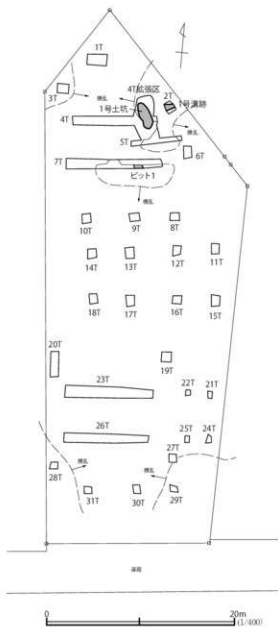
第54図 寄居新田古墳群第2次調査区



第53図 寄居新田古墳群第1次調査区



第55図 寄居新田古墳群第3次調査区

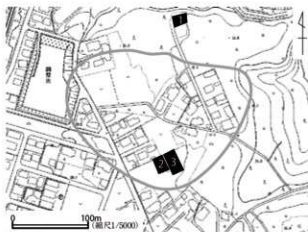


第56図 寄居新田古墳群第4次調査区

## 19 小貫山遺跡

### (1) 第3次調査報告

調査地は、新川から南方に入り込む谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は9カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.4～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



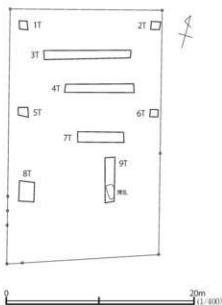
第57図 小貫山遺跡の調査地点

第17表 小貫山遺跡調査一覧

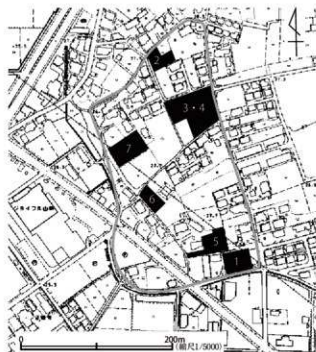
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2003	市教委	試掘	なし	1
2	2018	公社	試掘	なし	2

#### 文献

- 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第58図 小貴山遺跡第3次調査区



第59図 松原遺跡の調査地点（数字は調査回数）

## 20 松原遺跡

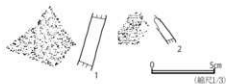
### (1) 第7次調査報告

調査地は、中丸川低地に向けて緩く西に傾斜する地点に位置する。調査時は畑地および果樹園であった。調査は14カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.2～0.7mを測る。調査の結果、住居跡4基、土坑1基が確認された。住居跡からは古墳時代の土師器片が出土しているので、古墳時代と考えられる。とくに1・3号住居跡からは古墳時代前期の土師器片が出土しているので、松原遺跡3・4次調査区で検出されている古墳時代前期集落の一部が確認されたものと考えられる。調査区からは縄文土器、弥生土器、土師器のほか鉄滓が1点出土している。

#### 遺物説明

##### 第60図

- 出土位置・注記：6トレ 縄文時代早期（天矢場式） 胎土：砂粒を多量に含む 備考：器外面に擦痕
- 出土位置・注記：4トレ 時代時期：弥生時代中期 文様：比叡文（半蔵竹管） 備考：器内面剥落



第60図 松原遺跡第7次調査区出土遺物

第18表 松原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1998	市教委	試掘	なし	1
2	2001	市教委	試掘	なし	2
3	2008	公社	試掘	住居5（古墳前期1、時期不明）、土坑1（時期不明）、ヒット1（時期不明）、溝2（時期不明）、不明遺構1（時期不明）	3
4	2009	調査会	本調査	住居5（古墳前期5）、溝2（時期不明）	4
5	2015	公社	試掘	住居1（古墳）、戸1（時期不明）	5
6	2018	公社	試掘	なし	6

#### 文献

- 平成10年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成13年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 君ヶ台遺跡（第7次）、松原遺跡（第4次）、相対古墳群（第2次）、東原遺跡（第3・4次）
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

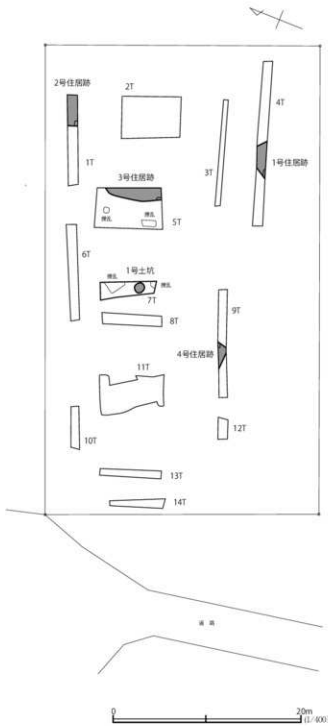
## 21 三反田新堀遺跡

### (1) 第19次調査報告

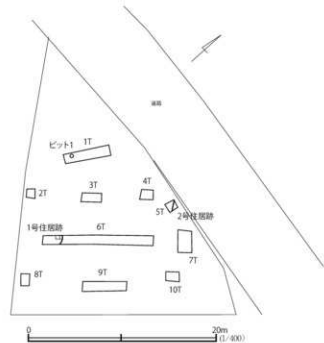
調査地は、中丸川低地を望む台地縁部から40mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.6mを測る。調査の結果、住居跡を2基、ピットを1基確認した。1号住居跡からは弥生土器が出土した。2号住居跡は出土物がなく時期不明である。出土土器は本調査の出土遺物とまとめて報告する予定である。



第62図 三反田新堀遺跡の調査地点(数字は調査回数)



第61図 松原遺跡第7次調査区



第63図 三反田新堀遺跡第19次調査区



第19表 三反田新堀遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝山市教委	試掘	なし	1
2	2004	市教委	試掘	住居1(弥生中期)、溝1	2
3	2005	市教委	試掘	溝1、土坑1	3
4	2005	市教委	試掘	溝1、土坑1	3
5	2006	市教委	試掘	なし	4
6	2007	市教委	試掘	なし	5
7	2008	公社	試掘	溝1、ピット3	6
8	2008	公社	試掘	溝2	6
9	2008	公社	試掘	住居2(平安)、溝1	6
10	2008	公社	本調査	住居2(9世紀)、溝2	6
11	2008	公社	試掘	なし	6
12	2008	市教委	試掘	なし	6
13	2009	公社	試掘	溝2	7
14	2010	公社	試掘	溝2、土坑1	8
15	2010	公社	試掘	住居1(古墳)、溝1	8
16	2011	公社	試掘	なし	9
17	2012	公社	試掘	溝2(中世後期1)、土坑1	10
18	2016	公社	試掘	なし	11

文献

- 1 昭和59年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成17年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成22年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

## 22 三反田古墳群

### (1) 第3次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺部から310m、那珂川低地を望む台地縁辺から320mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は篠藪を刈り払ったばかりの荒地であった。調査は8T～10Tの3カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、

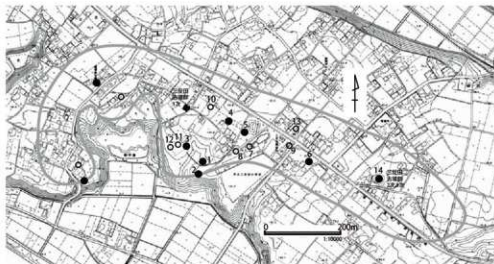
第14号墳の周溝を確認した。墳丘に近い周溝と平行して外側にもう一条の溝を確認した。出土遺物はない。

第20表 三反田古墳群調査一覧

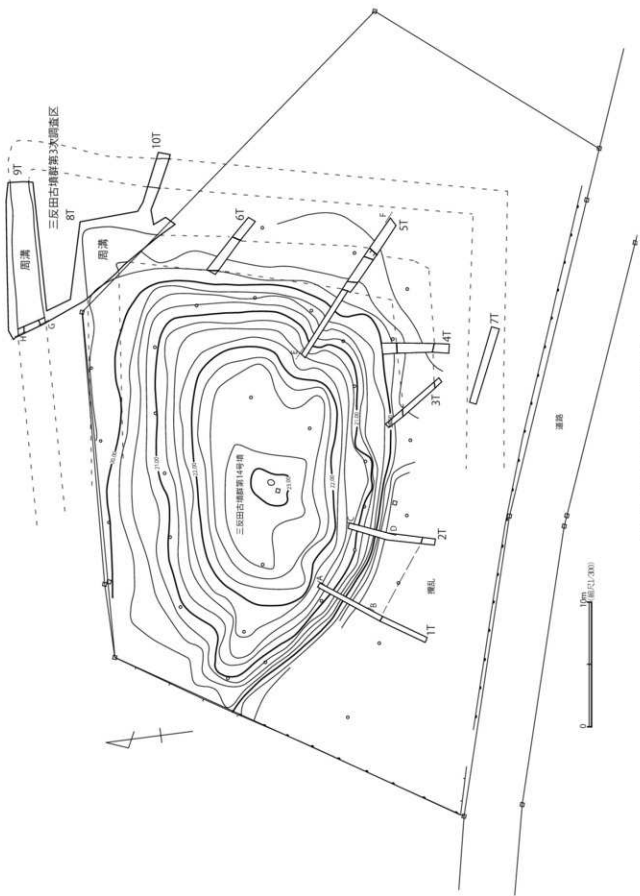
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2009	公社	試掘	住居3(古墳前期)、溝3	1
2	2017	公社	試掘	比方溝1	2

文献

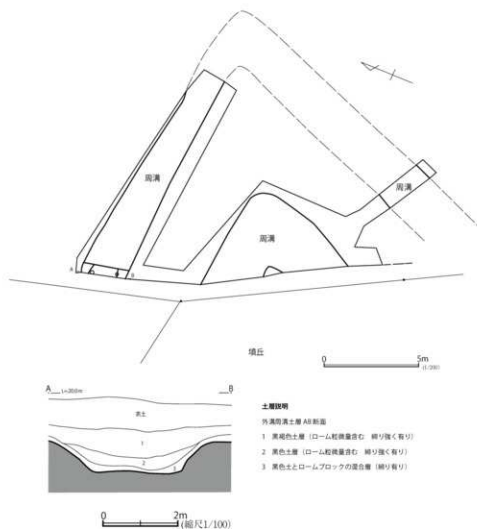
- 1 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第64図 三反田古墳群の調査地点(数字は古墳番号)



第 65 図 三反田古墳群第 14 号墳の調査区位置

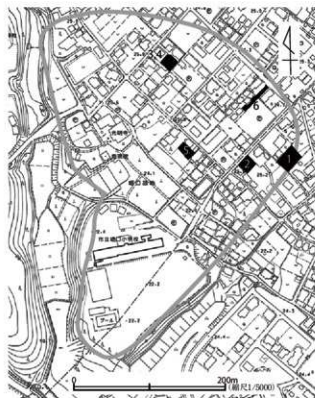


第 66 図 三反田古墳群第 3 次調査区

## 23 向坪遺跡

### (1) 第 6 次調査報告

調査地は、堀口小学校の南側を那珂川低地から北東方向に入り込む小支谷の谷頭から 200 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は碎石散きの道路であった。調査は 1 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.7～1.2 m を測る。調査の結果、溝跡を 1 条確認した。溝跡は遺物がなく時期は不明である。調査区からも遺物は出土しなかった。



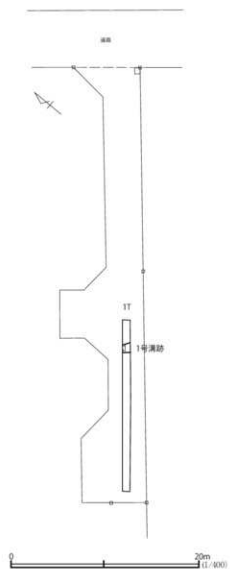
第 67 図 向坪遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第 21 表 向坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	市教委	本調査	持戸（平安）	1
2	2007	市教委	試掘	なし	2
3	2016	公社	試掘	住居 3（奈良・平安）、溝 1	3
4	2016	公社	本調査	住居 4（平安）、溝 1	3
5	2016	公社	試掘	住居 1（平安）	3

文献

- 1 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 28 年度ひたひたなか市内遺跡発掘調査報告書



第 68 図 向坪遺跡第 6 次調査区

### Ⅲ 本調査報告

#### 1 岡田遺跡第35次調査報告

##### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字八幡 3567 番 1  
期間 / 平成 30 年 10 月 24 日～11 月 16 日 担当 / 佐々木義則 面積 / 68 m<sup>2</sup> 時代 / 古墳 遺構 / 竪穴住居跡 2 基 (古墳時代 2 基)

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から 150 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 33 次調査) がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。以下、簡単に調査の経過を記す。

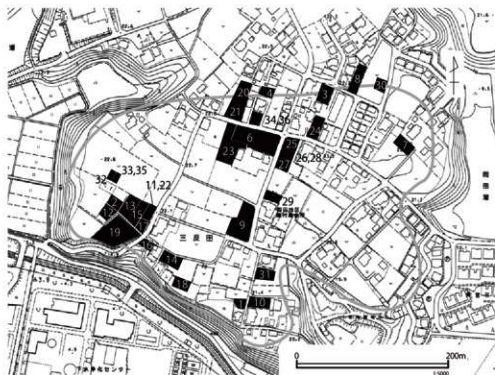
10 月 24 日 : 調査区設定後、重機による表土除去。  
10 月 25 日 : 遺構確認、掘り込み開始。 10 月 26 日 : 図面・写真による記録作業開始。 11 月 14 日 : 調査区全体図、写真。 11 月 16 日 : 重機による埋戻し。現場撤収作業。

##### (2) 住居跡

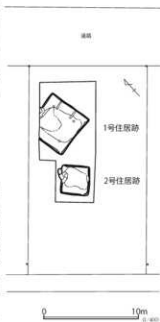
###### 第 1 号住居跡

**遺構** 第 1 号住居跡は重複する遺構はない。当住居跡の主軸方向は、N-14° -W を測る。竪穴部の規模は、東西 4.9 m、南北 4.9 m で、形状はほぼ正方形である。壁高は東壁 0.3 m、西壁 0.3 m、南壁 0.3 m、北壁 0.3 m を測る。壁周溝はほぼ全周している。ピットは P1～P3 が支柱穴、P4 が出入口施設関連のピットであろう。床は P4 から竪にかけての範囲が硬化する。竪前面の硬化面部分が部分的に焼けており、火事によるものと思われる。硬化面がみられない東壁付近には、壁から直角にのびる浅い溝が 2 条認められている。竪穴部覆土は、壁際に褐色土が堆積しており、ロームブロックを含むことから人為的埋土かもしれない。竪は部分的な調査であるが、粘土材が比較的良好に残っていた。住居掘形は深く掘り込まれてはならず、部分的に浅い掘込みがみられる状況であった。ただし、壁からのびる溝の部分は特に深く掘り込まれていたため、根太ではなく間仕切りの痕跡なのかもしれない。このほか掘形調査により支柱穴 P5 の一部が確認できた。

**遺物出土状況** 床面より台石 (4) と敲石 (5) が出土しているのが注目される。床面からやや浮いた状態で出土した支脚 (3) が当住居跡で用いられたものとする



第 69 図 岡田遺跡の調査地点 (数字は調査次数)



第 70 図 岡田遺跡第 35 次調査区

第22表 岡田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	藤山市教委	試掘	なし	1
2	1983	藤山市教委	本調査	住居3(土台1, 古墳後期2)	2
3	1985	藤山市教委	試掘	住居2(古墳後期1, 不明1)	3
4	1990	藤山市教委	本調査	住居3(8世紀1, 9世紀1, 不明1), 惣穴遺構1	4
5	1991	藤山市教委	試掘	なし	なし
6	1997	市教委	本調査	住居5(土台1, 古墳後期1, 8世紀2, 9世紀1)	5
7	2003	市教委	試掘	なし	6
8	2005	市教委	試掘	なし	7
9	2006	市教委	試掘	なし	なし
10	2006	市教委	試掘	住居2(時期不明)	8
11	2006	市教委	試掘	なし	8
12	2006	市教委	本調査	住居1(土台)	8
13	2006	市教委	試掘	なし	8
14	2006	市教委	試掘	住居(時期不明)	なし
15	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
16	2007	市教委	本調査	住居1(古墳後期), 溝1	9
17	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
18	2010	公社	試掘	住居2(土台1, 時期不明1)	10
19	2011	公社	試掘	住居6(土台4, 古墳前期1, 時期不明1)	11
20	2012	公社	試掘	住居1(時期不明)	12
21	2012	公社	試掘	住居2(古墳後期1, 時期不明1), 溝1	12
22	2012	公社	試掘	土坑2, ビット9	12
23	2012	公社	試掘	住居6(奈良・平安4, 時期不明2), 土坑2, ビット4	12
24	2013	公社	試掘	住居1(奈良・平安)	13

と、廃絶時に濡から取り外して遺棄したのと考えられよう。礎(第75図)は覆土中出土であり、他遺構から廃棄されたのと考えられる。高杯(1)や杯(2)からみて古墳時代後期の住居跡であろう。

### 遺物説明

#### 第74図

- 1 台帳:P3 材質:土師器 器種:高杯 残存:脚部50% 法量:高8(6) 色調:内外面ともにぶい橙色 胎土:砂(白多, 透多, 黒少) 焼成:良好 技法等:外面へら削り, 内面杯部へらナデ, 脚部へらナデへら削り。使用痕:一 備考:一
- 2 台帳:P1 材質:土師器 器種:杯 残存:60% 法量:口径(12.7), 高5.0 色調:内外面ともにぶい濁～濁暗褐色 胎土:礫(白微, 灰微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部へら削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部へらナデ・ヘラミガキ。使用痕:外面体部下位がやや厚減している。備考:一
- 3 台帳:P4 材質:土師器 器種:支脚 残存:90% 法量:高15.2, 最小径3.9, 最大径7.0 色調:ぶい黄橙～褐色 胎土:砂(白少, 透少) 焼成:良好 技法等:外面ナデ, 一部へらナデ。底面に本葉痕。

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
25	2015	公社	試掘	住居1(古墳), ビット1	14
26	2015	公社	試掘	住居5(弥生1, 古墳1, 平安1, 時期不明2), ビット1(奈良・平安)	14
27	2015	公社	試掘	住居1(古墳), 土坑1	14
28	2015	公社	本調査	住居5基(弥生1, 古墳1, 平安30, 土坑2(平安1, 時期不明1)), 溝1	15
29	2016	公社	試掘	なし	15
30	2017	公社	試掘	なし	16
31	2017	公社	試掘	溝1	17
32	2017	公社	試掘	なし	17
33	2017	公社	試掘	住居4(弥生2, 時期不明2), 土坑2	17
34	2017	公社	試掘	住居6(奈良・平安), 溝1, 土坑1	17

### 文献

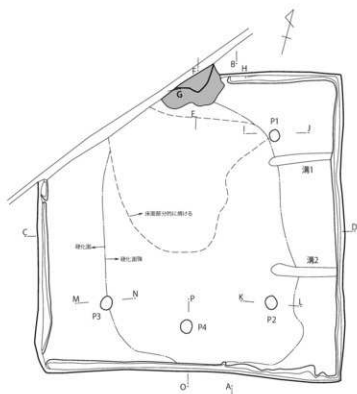
- 1 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成元年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 岡田遺跡発掘調査報告書
- 6 平成15年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成17年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成18年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成19年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 17 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

使用痕:2次焼成をうけている。備考:一

- 4 台帳:S17 材質:砂岩 種類:台石 法量:長12.9, 幅17.9, 厚3.8, 重量1403.34g 備考:敲打痕と破面あり。
- 5 台帳:S2 材質:安山岩 種類:敲石・砥石 法量:長12.5, 幅7.4, 厚5.1, 重量660.00g 備考:2面に敲打痕と破面あり。

### 第2号住居跡

**遺構** 第2号住居跡は重複する遺構はない。当住居跡の主軸方向は、N-47°-Wを測る。竪穴部の規模は、南北3.1m, 東西3.2mで、形状はほぼ正方形である。壁高は東壁0.4m, 西壁0.4m, 南壁0.4m, 北壁0.4mを測る。壁間溝は部分的に途切れているが、四方に認められる。ビットはなく、掘形にも存在しないので、主柱穴はないのであろう。床は南壁中央から竈にかけての範囲が硬化するので、南壁中央部出入口部が設けられていたと推定される。西壁際に硬化しない床が広がることからみて、この部分が寝間であったのかもかもしれない。



**土層説明**

**AH・CD土層注記**

- 1 褐色色 (ローム粒やや多量含む)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む)
- 3 褐色 (ローム粒多量含む ロームブロック含む  
黒色土ブロック少量含む)
- 4 褐色 (ローム粒含む 第2層より褐色)

**EF・GH土層注記**

- 1 褐色 (ローム粒含む 第2層が露出する)
- 2 白褐色 (粘土)
- 3 白褐色 (第2層が埋ったもの)
- 4 灰褐色 (粘土粒含む)
- 5 暗褐色 (ローム小ブロック含む 第2層の小ブロック含む)
- 6 明褐色 (ロームブロック多量含む 暗褐色土層に 粘まり有り)
- 7 褐色 (粘土)

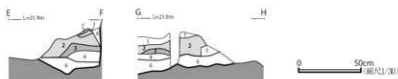
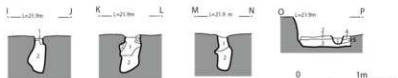
**I・KL・MN土層注記**

- 1 暗褐色 (ローム粒多量含む) ローム小ブロック含む)
- 2 黄褐色 (ローム粒・小ブロック主体)

**OP土層注記**

- 1 褐色 (ローム粒多量含む)
- 2 明褐色 (ローム粒多量含む)
- 3 黄褐色 (ロームブロック主体)
- 4 暗褐色 (ロームブロック主体 粘まり有り)
- 5 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む 暗褐色土層に)

\*KLは複乱



電断面

第71図 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡

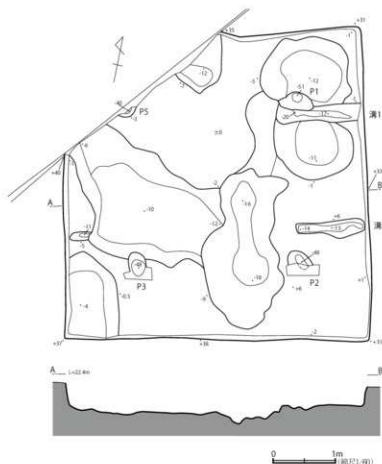
竪穴部覆土は、ローム粒を多量に含む褐色土が覆土下層に堆積し(3・7・8層)、人為的埋土かもしれない。竪は粘土材が比較的良好に残っており、遺存状況は良好であった。住居掘形は深く掘り込まれており、中央を台状に残し周りを深く掘り下げるタイプの形状である。

遺物の出土は少ない。土師器杯・椀類の形状からみて7世紀末から8世紀初めごろの住居跡であろう。礎(第80図)は覆土中出土であり、他遺構から廃棄されたものと考えられる。

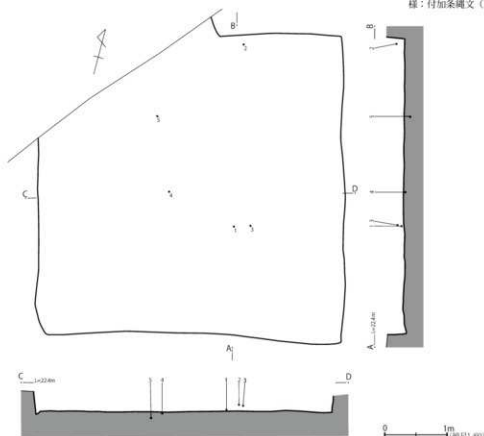
**遺物説明**

第79図

- 1 出土位置:2住 注記:P1・2, 1・2・4区 材質:土師器 器種:杯 残存:50% 法量:口径(13.9), 器高7.6 色調:内外面黒色。断面暗灰褐色 胎土:礫(白少、赤少)、骨針微量 特徴:口縁部ヨコナデ後、内外面粗いヘラミガキ
- 2 出土位置:2住 注記:P4, 4区 材質:土師器 器種:杯 残存:50% 法量口径(13.5), 器高5.3 色調:黒色、暗褐色。褐色 胎土:礫(白、白透、灰)、骨針 特徴:口縁部ヨコナデ後、内面ヘラミガキ(内面は粗い)。
- 3 出土位置:2住 注記:フク土 材質:須恵器 器種:裏 残存:割断片 法量:一 色調:外面黒灰色、内面暗灰色。断面灰色 胎土:砂(白) 特徴:外面平行線文印き。内面ナデ。



第72回 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡地形



第73回 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡遺物出土状況

### (3) 調査区出土遺物

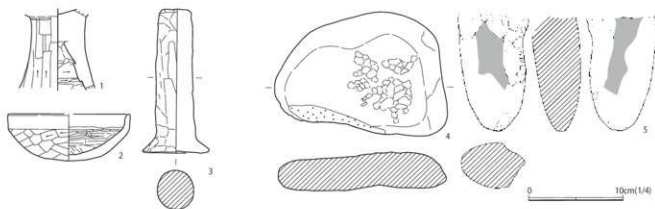
各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

#### 遺物説明

##### 第81回

- 1 出土位置・注記：2住掘形 時代時期：縄文時代早期（条痕文系）器種：深鉢形土器 文様：器内外面条痕文 備考：胎土に繊維を含む
- 2 出土位置・注記：2住2区 時代時期：縄文時代後期（堀之内1式）器種：深鉢形土器 文様：沈線文、単節斜縄文（LR）
- 3 出土位置・注記：1住1区 時代時期：縄文時代後期 器種：深鉢形土器
- 4 出土位置・注記：1住4区 時代時期：縄文時代後期 器種：深鉢形土器 法量：底径104mm（残存率26%）
- 5 出土位置・注記：1住1区 時代時期：弥生時代中期（足洗式）器種：壺形土器 文様：口唇部縄文（L-S）、口唇部突起貼付、平行沈線文（半載竹管）
- 6 出土位置・注記：2住3区 時代時期：弥生時代中期（足洗式）器種：壺形土器 文様：平行沈線文（半載竹管）、付加条縄文（R-S）
- 7 出土位置・注記：2住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器 文様：結節文
- 8 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（LR-R）
- 9 出土位置・注記：2住2区 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（RL+2L）備考：胎土に大粒の石英が目立つ
- 10 出土位置・注記：不明 時代時期：弥生時代中期 文様：単節斜縄文（LR）※
- 11 出土位置・注記：1住2区 時代時期：弥生時代中期 文様：単節斜縄文（RL）
- 12 出土位置・注記：不明 時代時期：弥生時代中期 文様：単節斜縄文（LR）
- 13 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（RL+2L）※
- 14 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（R-S）備考：器外面に炭化物（煤）付着
- 15 出土位置・注記：1住1区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部切み（現状工具）、柳描文（柳歯4本）頸部隆帯上指頭押圧
- 16 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部切み（現状工具）、柳描文（柳歯4本）





第74図 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡出土土物



第75図 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡出土炭

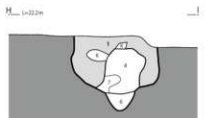
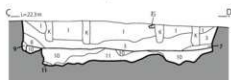
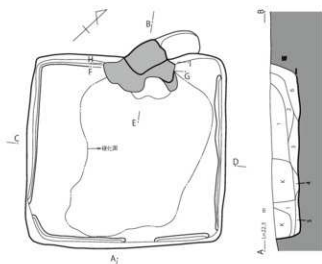
備考：胎土に骨針を少量含む

- 17 出土位置・注記：2住4区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（縄文原体）、櫛歯文（櫛歯5本）
- 18 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（縄文原体）、櫛歯文（櫛歯5本）
- 19 出土位置・注記：1住2区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（縄文原体）、櫛歯文（櫛歯5本）
- 20 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（縄文原体）、櫛歯文（櫛歯4本）
- 21 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み不明、櫛歯文（櫛歯5本）備考：器内面口唇部直下に櫛歯文、胎土に金雲母を含む
- 22 出土位置・注記：1住2区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯4本）
- 23 出土位置・注記：1住1区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯4本）
- 24 出土位置・注記：1住1区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯3本）、頸部隆帯上指頭押圧
- 25 出土位置・注記：1住3区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯4本）
- 26 出土位置・注記：1住2区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：

第23表 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡出土碳計一覧

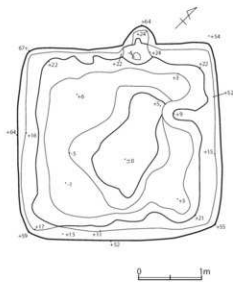
台帳番号	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
S1	13.7	9.7	4.9	847.3
S3	14.6	4.8	3.6	442.5
S4	8.8	6.0	4.2	304.6
S5	5.8	3.1	2.9	70.5
S6	14.0	11.0	5.1	975.1
S7	11.1	5.7	6.6	354.2
S8	9.6	5.9	3.3	198.8
S9	10.2	6.9	5.6	442.0
S10	12.0	8.2	3.9	435.4
S11	7.8	8.5	4.4	298.0
S12	11.8	7.2	5.5	767.6
S13	8.1	8.3	6.5	418.0
S14	10.7	6.5	5.9	488.8
S15	4.7	3.0	2.9	45.5
S16	22.4	14.3	6.3	2632.1
S18	10.6	7.5	5.2	675.8
S19	9.2	4.8	4.8	216.3

- 中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯4本）
- 27 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯4本）
- 28 出土位置・注記：不明 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯5本）
- 29 出土位置・注記：2住4区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（篋状工具）、櫛歯文（櫛歯5本）
- 30 出土位置・注記：1住2区 時代時期：弥生時代後期（十王台式）器種：中・小型壺形土器 文様：口唇部刻み（縄文原体）、櫛歯文（櫛歯4本）



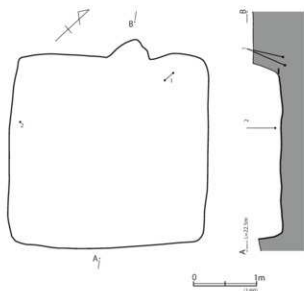
第76図 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡

- 31 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、櫛歯文(櫛歯4本)
- 32 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、櫛歯文(櫛歯4本)
- 33 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、付加条縄文(R.S)

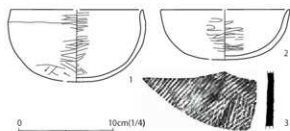


第77図 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡

- 34 出上位置・注記:2住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、付加条縄文(L.Z)
- 35 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(R.S)、付加条縄文(R.S)
- 36 出上位置・注記:2住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、付加条縄文(L.S) 備考:器外面に炭化物(煤)付着
- 37 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、付加条縄文(L.Z)
- 38 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体)、付加条縄文(L.Z) 備考:器内面変色
- 39 出上位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型甕形土器 文様:口唇部刻み(L×L)、頸部隆帯上指頸押圧 備考:胎土に金雲母を含む
- 40 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体) 備考:胎土に金雲母を含む
- 41 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:口唇部刻み(縄文原体) 備考:器内面変色
- 42 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:櫛歯文(櫛歯4本)、頸部隆帯上指頸押圧
- 43 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:櫛歯文(櫛歯4本)、頸部隆帯上指頸押圧
- 44 出上位置・注記:1住2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型甕形土器 文様:頸部隆帯上指頸押圧、櫛歯文
- 45 出上位置・注記:2住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:



第78図 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡出土状況



第79図 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡出土遺物

中・小型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧 備考：胎上に骨針を含む

46 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：大型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧(爪痕) 備考：胎上に金雲母を含む

47 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：大型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧(指紋) 備考：胎上に金雲母を含む

48 出土位置・注記：1住1区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧(爪痕)

49 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧、柳摺文(櫛歯4本)

50 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 法量：頸径90mm(残存率14%) 文様：頸部隆帯上横撫で、柳摺文(櫛歯4本) 備考：51と同一個体の可能性あり

51 出土位置・注記：1住1区、1住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 法量：頸径92mm(残存率13%) 文様：頸部隆帯上横撫で、柳摺文(櫛歯4本) 備考：器外面に炭化物(煤)付着、50と同一個体の可能性あり

52 出土位置・注記：2住2区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧、柳摺文(櫛歯4本) 備考：



第80図 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡出土破片

第24表 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡出土破片計一覧

台帳番号	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
51	11.7	5.8	4.4	287.5	
52	7.2	4.9	3.5	155.2	
53	13.7	5.8	3.9	450.4	
54	8.6	8.7	5.5	371.4	
55	12.3	3.3	1.7	74.9	
56	6.8	3.5	1.9	55.4	
57	10.0	8.0	4.4	360.2	
58	7.0	4.0	2.3	66.3	
59	9.8	6.7	5.1	350.5	
S10	—	—	—	112.1	複数の破片
S11	13.7	6.9	4.0	551.4	
S12	12.0	7.3	4.3	399.2	
S13	16.6	11.3	5.9	1527.7	
S14	8.1	4.1	3.9	141.0	
S15	8.3	5.3	3.6	215.2	
S16	—	—	—	320.1	複数の破片

胎上に骨針を含む

53 出土位置・注記：1住4区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧、柳摺文(櫛歯4本以上)

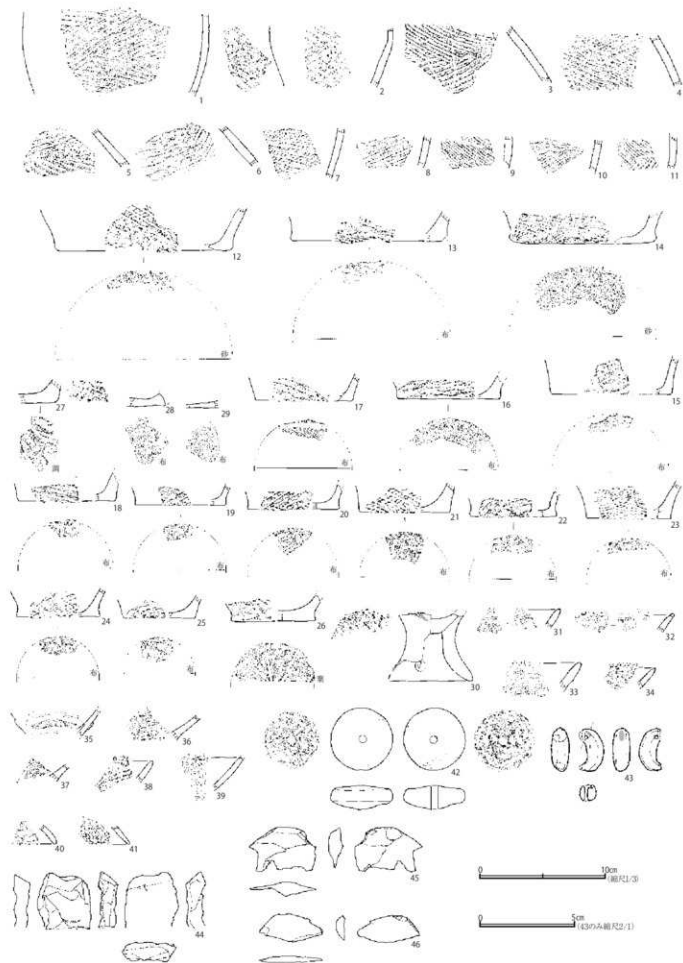
54 出土位置・注記：1住3区、2住1区 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：大型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧、付加条縄文(L×L)

55 出土位置・注記：不明 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：中・小型壺形土器 文様：頸部隆帯上指頭押圧、付加条縄文(RS)



第81図 岡田遺跡第35次調査区出土遺物(1)

- 56 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:頸部隆帯上指頭押圧, 付加条縄文(RS)
- 57 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 法量:最大径138mm(残存率12%の部分から推定) 文様:柳笛文(柳笛5本)
- 58 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 59 出上位置・注記:1住1区, 1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:器内面変色
- 60 出上位置・注記:2住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:器外面に炭化物(煤)付着
- 61 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 62 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:甕区画文と波状文とで甕形状工具が異なる
- 63 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 64 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 65 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 66 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛5本)
- 67 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛5本)
- 68 出上位置・注記:2住2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 69 出上位置・注記:2住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本)
- 70 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:甕区画が波状文
- 71 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:甕区画が波状文
- 72 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:甕区画の一部が波状文
- 73 出上位置・注記:1住2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:甕区画の一部が波状文
- 74 出上位置・注記:1住1区, 1住3区, 2住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本) 備考:胎土に金雲母を含む, 75と同一個体の可能性あり
- 75 出上位置・注記:1住1区, 1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:頸部隆帯上指頭押圧(爪痕), 柳笛文(柳笛4本) 備考:胎土に金雲母を含む, 74と同一個体の可能性あり
- 76 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:頸部隆帯上指頭押圧(爪痕), 柳笛文(柳笛3本) 備考:胎土に金雲母を含む
- 77 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛3本以上), 付加条縄文(R-S) 備考:器内面剥落
- 78 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛3本以上), 付加条縄文(RS)
- 79 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛5本), 付加条縄文(L×L)
- 80 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛3本以上), 付加条縄文(L×L) 備考:器内面剥落
- 81 出上位置・注記:2住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛5本), 付加条縄文(RS)
- 82 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛5本), 付加条縄文(RS)
- 83 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:柳笛文(柳笛4本以上), 付加条縄文(RS) 第82図
- 1 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 法量:胴径146mm(残存率17%) 文様:付加条縄文(R×R, LZ)
- 2 出上位置・注記:1住1区, 1住2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:小型壺形土器 法量:胴径97mm(残存率13%の部分から推定) 文様:付加条縄文(RS, LZ)
- 3 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:付加条縄文(RS, LZ)
- 4 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:付加条縄文(R×R, L×L)
- 5 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:付加条縄文(R×R, L×L)
- 6 出上位置・注記:2住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:付加条縄文(RS)
- 7 出上位置・注記:1住3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:付加条縄文(L×R) 備考:器外面に炭化物(煤)付着
- 8 出上位置・注記:1住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 文様:付加条縄文(L,R-R) 備考:胎土に金雲母を含む
- 9 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:付加条縄文(RL-L) 備考:胎土に金雲母を含む
- 10 出上位置・注記:1住1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:結節文, 付加条縄文(L,R-R) 備考:器内面に炭化物付着
- 11 出上位置・注記:2住2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:中・小型壺形土器 文様:付加条縄文(RL-L, LR-R) 備考:胎土に骨針を含む
- 12 出上位置・注記:2住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型壺形土器 法量:底径144mm(残存率12%) 文様:付加条縄文(L×L), 底面砂痕 備考:胎土に金雲母を含む, 器内面剥落
- 13 出上位置・注記:2住4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:



第 82 図 岡田遺跡第 35 次調査区出土遺物 (2)

- 大型壺形土器 法量:底径 122 mm (残存率 12%) 文様:付加条縄文 (L.Z).  
底面布目痕
- 14 出上位置・注記:2住 1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
大型壺形土器 法量:底径 116 mm (残存率 24%) 文様:付加条縄文 (L  
×L). 底面砂痕 備考:胎土に金雲母を少量含む。底部穿孔の可能性あり
- 15 出上位置・注記:2住 掘形 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 92 mm (残存率 7%) 文様:付加条縄文 (R  
×R). 底面布目痕
- 16 出上位置・注記:1住 2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 82 mm (残存率 31%) 文様:付加条縄文 (R  
×R). 底面布目痕
- 17 出上位置・注記:1住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 76 mm (残存率 20%) 文様:付加条縄文 (L  
×L). 底面布目痕
- 18 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 76 mm (残存率 13%) 文様:付加条縄文  
(L.Z). 底面布目痕
- 19 出上位置・注記:1住 1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 72 mm (残存率 12%) 文様:付加条縄文  
(R.S). 底面布目痕
- 20 出上位置・注記:2住 3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 72 mm (残存率 16%) 文様:付加条縄文 (R  
×R). 底面布目痕 備考:器内外面に灰化物付着
- 21 出上位置・注記:1住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 72 mm (残存率 16%) 文様:付加条縄文 (L  
×L). 底面布目痕
- 22 出上位置・注記:1住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 68 mm (残存率 17%) 文様:付加条縄文  
(R.S). 底面布目痕 備考:底外面に灰化物(煤)付着
- 23 出上位置・注記:2住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 66 mm (残存率 17%) 文様:付加条縄文 (L  
×L). 底面布目痕
- 24 出上位置・注記:2住 1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 65 mm (残存率 17%) 文様:付加条縄文 (R  
×R). 底面布目痕
- 25 出上位置・注記:2住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 法量:底径 56 mm (残存率 16%) 文様:付加条縄文  
(R.S). 底面布目痕
- 26 出上位置・注記:2住 3区 時代時期:弥生時代後期 器種:中・  
小型壺形土器 法量:底径 66 mm (残存率 48%) 文様:付加条縄文 (L.Z  
f). 底面木炭痕
- 27 出上位置・注記:2住 2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 文様:付加条縄文 (R.Z). 底面調整痕 備考:底部  
付近から底面にかけて平載竹管による平行沈線のような痕あり
- 28 出上位置・注記:2住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 文様:底面布目痕
- 29 出上位置・注記:1住 3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
中・小型壺形土器 文様:底面布目痕
- 30 出上位置・注記:2住 3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 法量:括れ部径 38 mm, 脚部径 66 mm 文様:櫛歯文(櫛歯  
3本以上), 脚部に穿孔あり 備考:胎土に金雲母・骨針を含む
- 31 出上位置・注記:2住 2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:口唇部刻み(甕状工具f), 櫛歯文(櫛歯 5本) 備考:  
器内面口唇部直下に櫛歯文
- 32 出上位置・注記:1住 2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:口唇部突起, 刻みは不明, 櫛歯文(櫛歯 4本) 備考:  
器外面は無文, 器内面に櫛歯文
- 33 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:口唇部刻み(甕状工具), 櫛歯文(櫛歯 5本)
- 34 出上位置・注記:不明 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:口唇部刻み(甕状工具), 櫛歯文(櫛歯 4本) 備考:  
胎土に骨針を少量含む
- 35 出上位置・注記:1住 1区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 法量:最大径 68 mm (残存率 23%の部分から推定) 文様:  
櫛歯文(櫛歯 4本), 陸帯貼付
- 36 出上位置・注記:2住 3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:櫛歯文(櫛歯 4本)
- 37 出上位置・注記:2住 4区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:櫛歯文(櫛歯 4・5本)
- 38 出上位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:口唇部刻み無しf, 付加条縄文 (R.S)
- 39 出上位置・注記:2住 3区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器 文様:口唇部刻み(縄文原形), 器外面赤彩f 備考:胎土  
に金雲母を含む
- 40 出上位置・注記:2住 2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器
- 41 出上位置・注記:1住 2区 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
高环形土器
- 42 出上位置・注記:1住 P2 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:  
土製紡錘車 法量:長さ 49 mm, 幅 48 mm, 厚さ 19 mm 重量:45.7 g  
文様:櫛歯文(櫛歯 5本) 備考:胎土に金雲母を含む
- 43 出上位置・注記:1住 P7 時代時期:弥生時代後期(十王台式) f  
器種:土製勾玉 法量:長さ 22 mm, 幅 12 mm, 厚さ 9 mm 重量:2.2  
g 文様:孔径 1.5 mm, 赤彩(銅部に痕跡が残る)
- 44 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代 器種:剥片 石材:  
ホルンフェルス 法量:長さ 44 mm, 幅 45 mm, 厚さ, 16 mm, 重量,  
34.46g
- 45 出上位置・注記:1住 2区 時代時期:弥生時代 器種:剥片 石  
材:ホルンフェルス 法量:長さ 36 mm, 幅:53 mm, 厚さ:12 mm, 重さ,  
16.0g 備考:表面の風化が著しい。後世の損傷あり
- 46 出上位置・注記:1住 2区 時代時期:弥生時代 器種:剥片 石材:  
ガラス質黒色安山岩法量:長さ 22 mm, 幅 50 mm, 厚さ 5 mm, 重さ 7.15g

## 2 岡田遺跡第36次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字北長町 3618 番 2

期間 / 平成31年4月11日～17日 担当 / 佐々木義則、

田中美零 面積 / 11㎡ 時代 / 中世 遺構 / 溝跡 1条

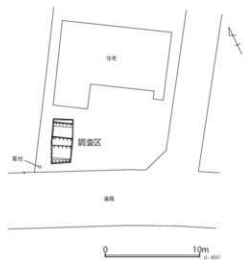
調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷の谷頭から100mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、浄化槽部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第34次調査）がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。当初は住居跡を想定し調査を開始したが、調査の結果、比較的規模の大きな溝跡であることが明らかとなった。以下、簡単に調査の経過を記す。

4月11日：調査区設定後、重機による表土除去。遺構確認、掘り込み開始。

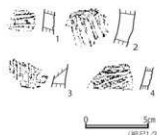
4月12日：図面・写真による記録作業。調査後、溝下部のみ人力による埋め戻し。4月17日：重機による埋戻し。現場撤収作業。

### (2) 第1号溝跡

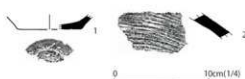
断面築研状の溝跡は底面の位置からみて、確認面での幅は約5mほどと推定される。深さは地表面から約2.6mを測る。溝跡からは縄文土器、弥生土器、土



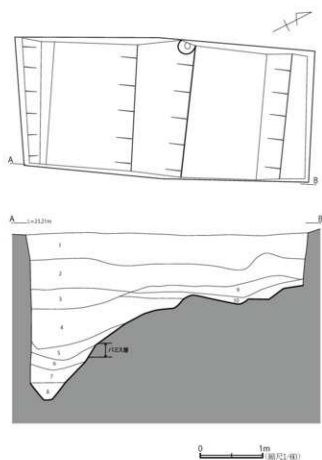
第83図 岡田遺跡第36次調査区



第84図 岡田遺跡第36次調査区出土遺物 (1)



第85図 岡田遺跡第36次調査区出土遺物 (2)



#### 土層説明

#### AB土層断面

- 1 暗褐色 (表土)
- 2 暗褐色 (ローム粒少量含む)
- 3 褐色 (ローム粒含む)
- 4 暗褐色 (ローム粒多量含む、ロームブロック含む)
- 5 暗褐色 (ローム土層じり、ロームブロック含む、硬面)
- 6 褐色 (ロームブロックや多量含む、バミス粒含む)
- 7 暗褐色 (ロームブロック含む、バミスブロック少量含む)
- 8 暗褐色 (ローム小ブロック含む、黒褐色土層じり)
- 9 褐色 (ローム粒含む)
- 10 褐色 (ローム粒多量含む)

第86図 岡田遺跡第36次調査区第1号溝跡



師器、須恵器、鉄製品などが出土するが、時期を決定できる遺物は出土していない。規模、形状からみて中世の溝跡ではないかと思われる。

### (3) 調査区出土遺物

#### 遺物説明

##### 第 84 図

1 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代早期（田戸下層式） 文様：沈線文

2 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 文様：沈線文

3 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代中期 文様：沈線文

4 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（L・S、R・S）

##### 第 85 図

1 出土位置：表土 注記：— 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部 外径 25% 法量：底径（6.8） 色調：灰色 胎土：礫（白多）、砂（白、透少） 特徴：回転ヘラ切り。底部外面へラ記号。

2 出土位置：表土 注記：— 材質：土師器 器種：甕 残存：胴部片 法量：— 色調：外面白灰色、内面灰色、断面灰褐色 胎土：礫（灰少）、砂（透少、白少） 特徴：外面横位平行線文叩き。外面薄く降灰。

## 3 市毛上坪遺跡第 26 次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛上坪 1206 番 1, 1209 番 6 期間 / 平成 30 年 11 月 27 日～12 月 18 日 担当 / 佐々木義則 面積 / 101 m<sup>2</sup> 時代 / 古墳 遺構 / 竪穴住居跡 4 基（古墳時代 4 基）、土坑 1 基（時期不明）、ピット 1 基（時期不明）

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から 150 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第 22 次調査）がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。以下、簡単に調査の経過を記す。

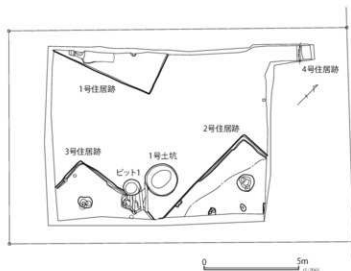
11 月 27 日：調査区設定。 11 月 28 日：重機による表土除去。 11 月 30 日：遺構確認、掘り込み開始。

12 月 4 日：図面・写真による記録作業開始。 12 月 13 日：調査区全体図作成。 12 月 18 日：現場撤収作業。

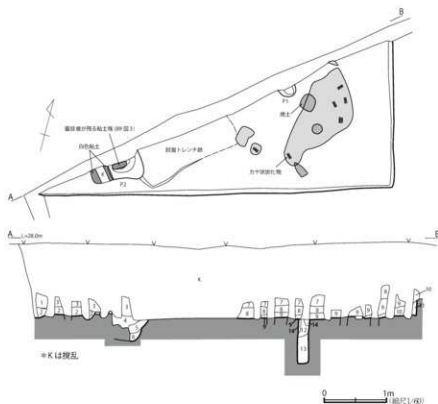
### (2) 住居跡

#### 第 1 号住居跡

遺構 第 1 号住居跡は南東隅部のみの調査であり、主軸方向は、N-16° -W を測る。竪穴部の規模は、東西 5.7 m 以上、南北 2.4 m 以上である。壁高は東壁 0.2 m、南壁 0.2 m を測る。壁周溝はみられない。ピットは P1 が主柱穴であろう。床にはカヤ状炭化物が広く認められ、



第 87 図 市毛上坪遺跡第 26 次調査区



第88図 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡

#### 土層説明

##### A-B 土層断面

- 1 褐色 (ローム小ブロック多量含む)
- 2 暗褐色 (ローム少量含む)
- 3 褐色 (ローム粒やや多量含む)
- 4 黄褐色 (ローム小ブロック含む)
- 5 褐色 (粘土 (カマド粘土?))
- 6 黄褐色 (第5層のブロック含む)
- 7 褐色 (ローム粒やや多量含む)
- 8 暗褐色 (ローム粒少量含む)
- 9 暗褐色 (ローム粒少量含む)
- 10 黄褐色 (ローム粒少量含む)
- 11 褐色 (ローム粒多量含む)
- 12 褐色 (ローム小ブロック多量含む)
- 13 黄褐色 (ローム小ブロック基体)
- 14 黄褐色 (ローム土)

部分的に焼土がカヤ炭化物の上に乗った状態で確認されている。こうした状況からみて廃絶時に火事にあっているのであろう。竪穴部覆土は攪乱のため遺存状況が悪く、様相は不明瞭である。

遺物は覆土中より土師器小片が出土している。土器の年代は不明瞭であるが、古墳時代後期になる可能性がある。また、表面に籠目痕が残る粘土塊はピット2内部から出土している。

#### 遺物説明

##### 第89図

- 1 台帳: 1住 材質: 土師質 種類: 粘土塊? 法量: 長5.2, 幅5.5, 厚3.1, 重量84.83g 備考: 指で押した痕が残る。
- 2 台帳: 1住 材質: 滑石 種類: 一 法量: 長1.2, 幅2.8, 厚0.2, 重量1.46g 備考: 一
- 3 台帳: 焼土I 種類: 籠目痕の残る粘土塊 法量: 直径21.0~23.0, 厚14.0 備考: 粘土を包むように籠目痕がみられる。平面は出土状況では下面となる。側面の写真はやや斜め上からの参考写真。

#### 第2号住居跡

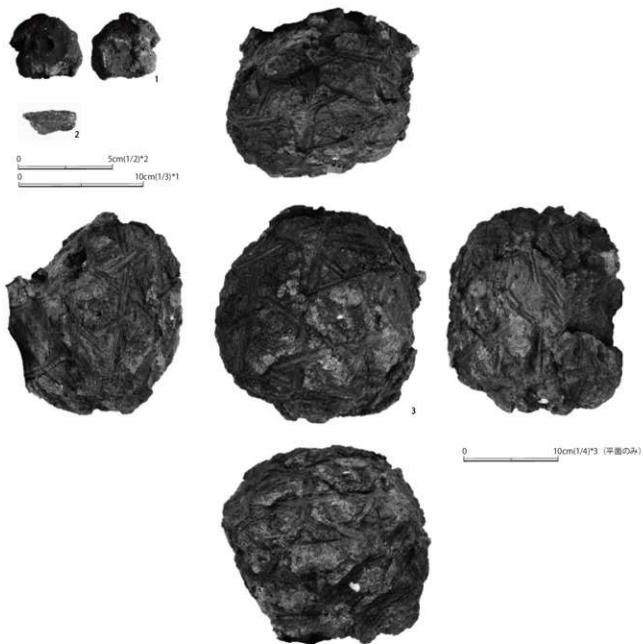
**遺構** 第2号住居跡は、住居跡の南の部分は第3号住居跡と重複すると考えられる。住居北西部のみの調査であり、主軸方向は、N-3°-Wを測る。竪穴部の規

模は、東西1.8m以上、南北6.2m以上を測る。主柱穴の位置からみると大型の住居跡になる可能性が高い。壁高は西壁0.1m、北壁0.1mを測る。壁周溝は部分的に存在するようである。ピットはP1が主柱穴であろう。P3はもしかすると主柱穴間に設けられる支柱穴になるのかもしれない。床面上に確認された粘土が竪穴部の流出によるものとすれば、竪は北壁に設けられていたのであろう。床面は竪前から南壁部に推定される出入口にかけての範囲が硬化するものと推定される。竪穴部覆土は攪乱を受け遺存状況がよくないため様相は不明である。住居掘形は、土層断面で見ると竪穴部周囲がやや深く掘り込まれるタイプになるのかもしれない。

遺物は覆土中より土師器小片が出土している。住居跡の時期は古墳時代後期であろう。

#### 第3号住居跡

**遺構** 第3号住居跡は東の部分は第2号住居跡と重複すると考えられる。北西部のみの調査であり、主軸方向は、N-3°-Wを測る。竪穴部の規模は、東西5.0m以上、南北3.4m以上を測る。主柱穴の位置からみると東西7m以上の住居跡になる可能性が高い。壁高は西壁



第89図 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡出土遺物

0.3m, 北壁0.3mを測り, 壁際に壁周溝がみられる。ピットはP1が主柱穴であろう。底面に硬化面が認められた。竈は北壁に設けられており, 壁から北へ0.9mほど張り出している。焚口部からは泥岩製の補強材の一部が崩れた状態で出土した。土層断面で見ると煙道部はつぶれているが, 0.6mほど水平に伸びるようである。竈穴部覆土は攪乱を受け遺存状況がよくないため様相は不明である。住居掘形は土層断面からみて浅い堀込が認められている。

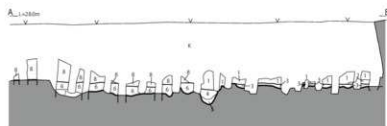
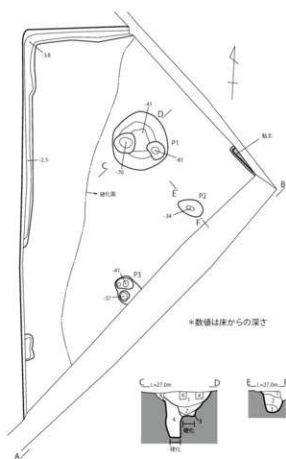
遺物は覆土から床面にかけて少量出土している。とくに床面出土のガラス製小玉(5)は注目されよう。

## 遺物説明

### 第94図

1-1 台帳:P7 材質:土師器 器種:甗 残存:口縁部~胴部中位 60% 法量:口径(21.0), 高(15.8) 色調:外面黄橙~褐~暗褐~黒褐色。内面黄橙~にぶい黄橙色。胎土:礫(白少), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部上位へら削り後へらナデ, 中位へら削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部へらナデ。 使用痕:外面胴部二次焼成をうけ, 摩滅している。備考:1.2と同一遺物と思われる。

1.2 台帳:26次表上, 3住, 3住床, 22次6トレ 材質:土師器 器種:甗 残存:胴部30%, 底部80% 法量:高(18.5), 底径8.0 色調:外面褐~暗褐~黒色。内面にぶい黄橙色。胎土:礫(白少), 砂(白多, 透多) 技法等:外面胴部へら削り, 底部木炭焼。内面へらナデ。 使用



\* Kは概算

#### 土層説明

##### AB土層断面

- 1 暗褐色 (ローム粒・白褐色粘土粒含む)
- 2 褐色 (白色粘土小ブロック含む)
- 3 黄褐色 (ロームブロック主体 2倍床 跡残り有り)
- 4 褐色 (ローム粒や中量含む)
- 5 明褐色 (ローム小ブロック多量含む)
- 6 明褐色 (ローム小ブロック多量含む 跡残り有り  
2倍床)

7 黄褐色 (ロームブロック主体 顕形埋土)

##### CD土層断面

- 1 暗褐色 (ローム粒や中量含む) ローム小ブロック少量含む)
- 2 暗褐色 (ローム粒少量含む) 黄褐色土少量含む)
- 3 明褐色 (ローム小ブロック非常に少量含む) 黄褐色土少量含む)
- 4 明褐色 (ロームブロック非常に少量含む) 黄褐色土少量含む)

##### EF土層断面

- 1 黄褐色 (ローム粒少量含む)
- 2 褐色 (ローム粒少量含む)
- 3 黄褐色 (ローム粒少量含む)

第90図 市毛上坪遺跡第26次調査区第2号住居跡

痕:外面二次焼成をうけ、摩滅している。備考:—

2 台帳:P2, 3住 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁~胴部中位30% 法量:口径(16.1),高(17.3) 色調:外面橙色,内面黒褐色。胎土:小石(白微),礫(白微,灰微),砂(白多,透多,黒少) 焼成:やや不良 技法等:外面口縁部ヨコナデ?,胴部ヘラ削り?。内面ヘラナデ。

使用痕:— 備考:外面器面が非常に摩滅している。

3 台帳:銅1 材質:金銅製 種類:— 法量:長2.4,幅2.2,厚0.1,重量1.80g 備考:金銅板を左右から折りたたんだような状態がみられる。

4 台帳:玉1 材質:土製品 種類:小玉 法量:長1.0,幅1.0,厚0.7,孔径0.3,重量1.02g 備考:色調は黒色。孔の周辺に傷あり。

5 台帳:玉2 材質:ガラス 種類:小玉 法量:長0.4,幅0.4,厚0.4,孔径0.1,重量0.09g 備考:色調は水色。

6 台帳:床土 材質:ガラス 種類:小玉 法量:長0.3,幅0.3,厚0.3,孔径0.1,重量0.05g 備考:色調は濃紺色。銕型による再生ガラス。

7 台帳:床土 材質:滑石 種類:白玉 法量:長0.5,幅0.5,厚0.5,孔径1.5,重量0.19g 備考:色調は青灰色。

9 台帳:3住 材質:石炭 種類:— 法量:長①1.2②1.5③2.0,幅①1.3②1.5③1.3,厚①0.7②0.8③0.9,重量①0.65g②1.53g③1.84g 備考:—

#### 第4号住居跡

**遺構** 第4号住居跡は西壁の一部のみの調査である。壁高は0.4mを測る。住居掘形は土層断面からみると深い掘込が認められている。

#### 遺物説明

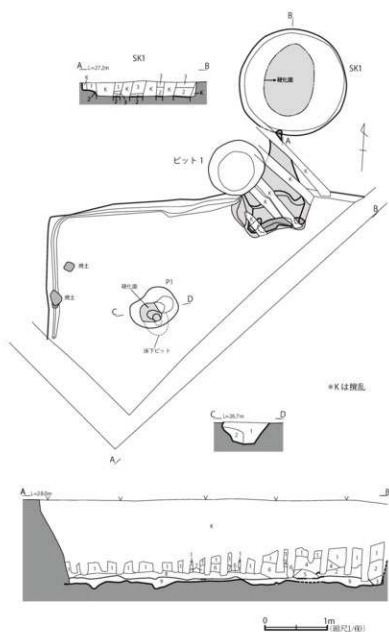
##### 第96図

1 台帳:4住 材質:土師器 器種:杯 残存:10%

法量:口径(11.5),高(4.9) 色調:外面橙~黒色,内面橙色。胎土:礫(白少),砂(白多,透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ,体部上~中位ヘラ削り後ヘラミガキ,下位ヘラ削り。内面ヘラミガキ 使用痕:— 備考:—

#### (3) 土坑・ピット

土坑1基及びピット1基が第3号住居跡と重複して検出された。切り合い関係からみていずれも住居跡より新しい。第1号土坑は径1.7m,深さ25cmを測る円形を呈する。底面は平坦で,中央部付近が硬化する。遺物は土師器小片が少量出土したのみであった。ピットは径0.9m,深さ0.8mを測る。土坑・ピットとも時期は不明である。



黒泥岩出土状況

土層説明

3住 AB 土層断面

- 1 暗褐色（ローム粒含む）
- 2 褐色（ローム粒多量含む 粘土粒少量含む）
- 3 黒褐色（ローム土質じり）
- 4 褐色（カマド粘土粒多量含む）
- 5 白褐色（カマド粘土主体）
- 6 明褐色（カマド粘土小ブロック多量含む）
- 7 褐色（カマド粘土粒やや多量含む）
- 8 褐色（カマド粘土粒含む ローム粒含む）
- 9 黒褐色（ロームブロック主体 3住所）

3住 CD 土層断面

- 1 褐色（ローム小ブロック含む ローム粒多量・黒褐色土粒含む）
- 2 明褐色（ローム小ブロック・ローム粒多量含む）

SK1 AB 土層断面

- 1 褐色（ローム粒含む ローム小ブロック少量含む）
- 2 黒褐色（ローム小ブロック含む）
- 3 明褐色（ローム小ブロック多量含む 黒褐色土質じり）

第 91 図 市毛上坪遺跡第 26 次調査区第 3 号住居跡、土坑・ピット

(4) 調査区出土遺物

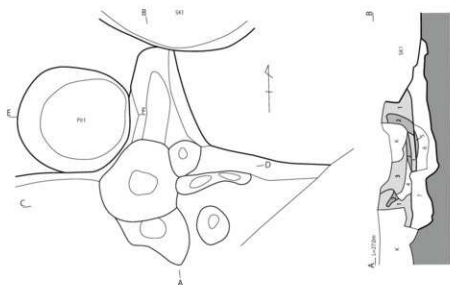
各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

遺物説明

第 97 図

- 1 出土位置・注記：3住 時代時期：縄文時代前期 文様：単節斜縄文 (RL) 備考：胎土に泥岩片目立つ
- 2 出土位置・注記：3住 時代時期：縄文時代 文様：単節斜縄文 (RL)
- 3 出土位置・注記：2住 時代時期：縄文時代中期 文様：付加条縄文 (LR+2R)
- 4 出土位置・注記：3住 時代時期：縄文時代中期 (加曾利 E 式) 文様：単節斜縄文 (RLカ)
- 5 出土位置・注記：1住 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (LR)

- 6 出土位置・注記：2住 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文 (LR)
- 7 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代中期 (足洗式) 文様：反摺り縄文 (LL)、沈線文 (棒状工具)
- 8 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 (足洗式) 文様：沈線文 (平截竹管)
- 9 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代中期 文様：反摺り縄文 (RR)
- 10 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 (足洗式) 器種：壺形土器 文様：反摺り縄文、沈線文 (平截竹管)
- 11 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文 (LR+L) (軸縄は 1 段 4 条)
- 12 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文 (LZ) 胎土：海綿骨砕含む
- 13 出土位置・注記：3住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄



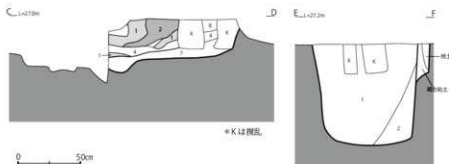
土層説明

AB・CD 土層断面

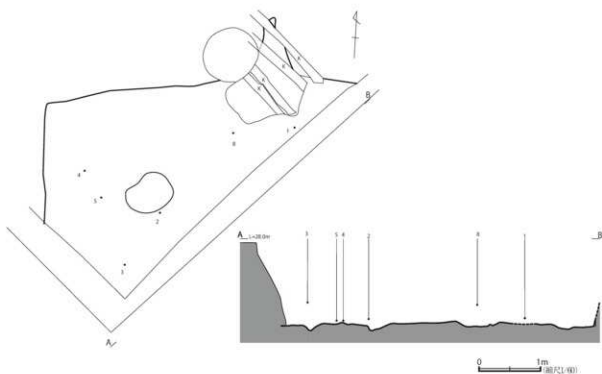
- 1 白褐色 (カマド粘土)
- 2 褐色 (焼けたカマド粘土)
- 3 白褐色 (カマド粘土ブロック主体 焼土ブロック含む)
- 4 灰色 (灰層 焼土ブロック含む)
- 5 褐色 (焼土粒主体)
- 6 暗灰色 (白褐色粘土粒・焼土粒多量含む)
- 7 褐色 (ロームブロック多量含む 黒褐色土層じり)
- 8 褐色 (焼土粒多量含む ローム粒少量含む)

付土層断面

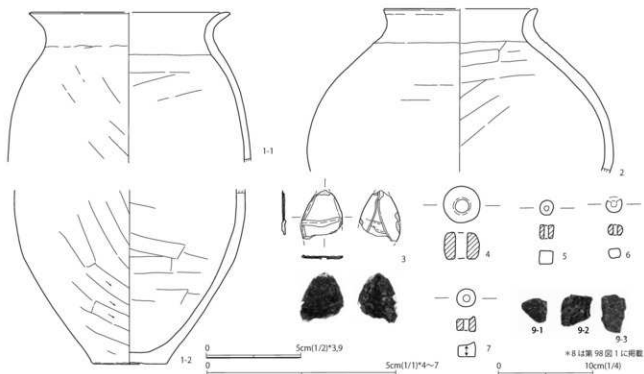
- 1 黒褐色 (ローム粒少量含む やや締まり有り)
- 2 褐色 (ローム粒含む やや締まり有り)



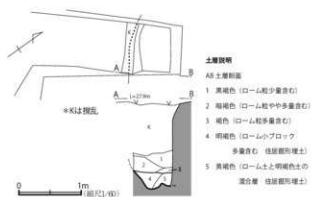
第92図 市毛上坪遺跡第26次調査区第3号住居跡画



第93図 市毛上坪遺跡第26次調査区第3号住居跡遺物出土状況



第94図 市毛上坪遺跡第26次調査区第3号住居跡出土遺物



第95図 市毛上坪遺跡第26次調査区第4号住居跡



第96図 市毛上坪遺跡第26次調査区第4号住居跡出土遺物

文 (LR+2R)

14 出土位置・注記: 3住 時代時期: 弥生時代中期 文様: 反摺り縄文 (RR) 備考: 器外面に保付着

15 出土位置・注記: 3住 時代時期: 弥生時代中期 文様: 付加条縄文 (L.S)

16 出土位置・注記: 3住 時代時期: 弥生時代中期 法量: 底径 96 mm (残存率 6%) 文様: 付加条縄文 (R.S), 底面砂痕 備考: 金雲母含む

17 出土位置・注記: 2住 時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 口唇部刻み (提状工具), 口縁部縹描文 (5本) 備考: 器内面口縁部

縹描文 (4本), 口縁部に焼成前穿孔あり, 18と同一個体

18 出土位置・注記: 3住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

縹描文 (5本), 隆帯2条 備考: 器外面に赤色顔料塗彩, 17と同一個体

19 出土位置・注記: 2住 時期時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

口唇部刻み (提状工具), 口縁部縹描文 (5本)

20 出土位置・注記: 4住 時期時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

口唇部刻み (棒状工具), 口縁部に縹描文 (4本) 備考: 器内面一部剥落

21 出土位置・注記: 2住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

口唇部刻み (棒状工具), 口縁部に縹描文 (3本以上)

22 出土位置・注記: 2住 時代時期: 弥生時代後期 文様: 口唇部刻み (提状工具), 口縁部に縹描文 (4本)

23 出土位置・注記: 3住 時代時期: 弥生時代後期 法量: 頭径 60 mm (残存率 22%) 文様: 甲部斜縄文 (LR)

24 出土位置・注記: SK 1 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

縹描文 (5本)

25 出土位置・注記: 3住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

縹描文 (5本) 胎土: 金雲母含む, 器内面剥落

26 出土位置・注記: 4住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

縹描文 (5本以上) 胎土: 金雲母含む

27 出土位置・注記: 4住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

縹描文 (5本)

28 出土位置・注記: 4住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

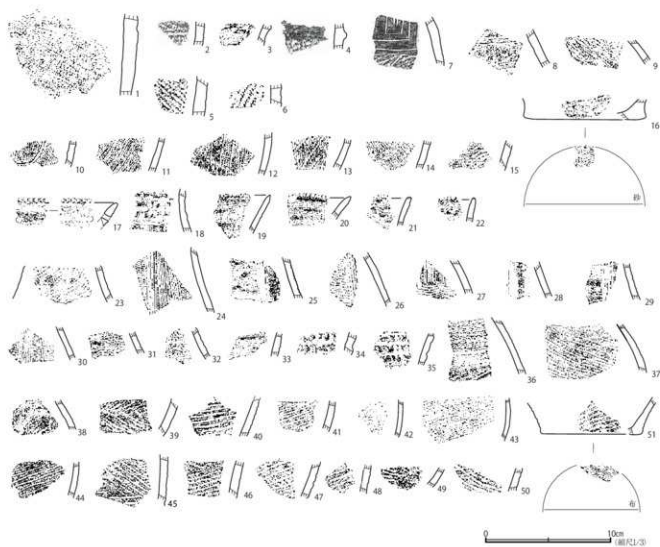
縹描文 (5本以上) 胎土: 海綿骨針含む

29 出土位置・注記: 1住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

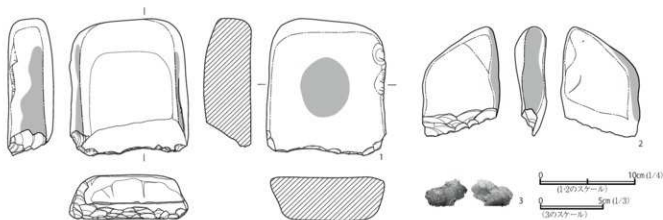
縹描文 (4本) 胎土: 海綿骨針, 金雲母含む

30 出土位置・注記: 1住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様:

縹描文 (3本)



第 97 図 市毛上坪遺跡第 26 次調査区出土遺物 (1)



第 98 図 市毛上坪遺跡第 26 次調査区出土遺物 (2)

- 31 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 櫛描文 (3 本)
- 32 出土位置・注記: 1 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 櫛描文 (4 本) 胎土: 金雲母含む
- 33 出土位置・注記: 3 住床 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 櫛描文 (4 本)
- 34 出土位置・注記: 4 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種:

- 大型盃形土器 文様: 隆帯 2 条 (指頭押圧) 胎土: 金雲母含む
- 35 出土位置・注記: 4 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 櫛描文 (2 本以上), 隆帯 3 条 (指頭押圧)
- 36 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 櫛描文 (5 本), 付加条縄文 (L-S) 備考: 器内面変色
- 37 出土位置・注記: 2 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 櫛描文 (4 本), 付加条縄文 (L×L) 備考: 器外面に煤付着



## 4 市毛上坪遺跡第27次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地/ひたちなか市市毛字上坪1209番3 期間/平成30年12月26日～平成31年1月25日 担当/佐々木義則 面積/97㎡ 時代/古墳、中世 遺構/竪穴住居跡4基(古墳時代4基)、溝跡1条

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から140mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(第23次調査)がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置は予想して調査に臨んだが、実際は予想とはやや異なる結果となった。以下、簡単に調査の経過を記す。

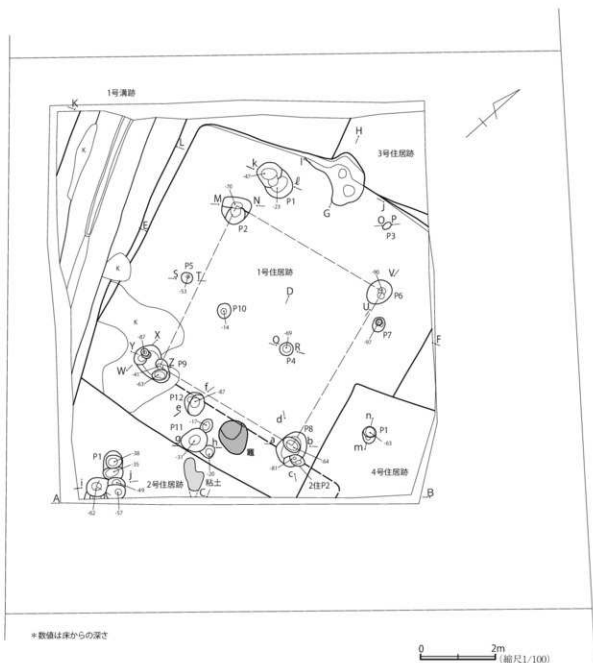
12月26日:調査区設定後、重機による表土除去開始。1月8日:遺構確認、掘り込み開始。1月10日:図面・写真による記録作業開始。1月23日:調査区写真。1月24日:現場撤収作業。1月25日:重機による埋め戻し。

### (2) 住居跡

#### 第1号住居跡

**遺構** 第1号住居跡は、第2・3・4号住居跡および第1号溝跡と重複しており、新旧は切り合い関係からみて、第2号住居跡・第3号住居跡→第1号住居跡→第4号住居跡・第1号溝跡と推定される。住居跡の調査は、AB土層断面で見られるように表土の攪乱が遺構床面まで及んでいたため、各住居跡のプラン確認は調査最終段階までかかることとなった。第1号住居跡は、主軸方向はN-18°-Wを測る。竪穴部の規模は、東西7.8m、南北8.4mを測る。攪乱が床面まで及んでいたことから竪穴部壁の遺存状況は悪く、北壁が若干残る程度であった。北壁の壁高は0.1mを測り壁周溝はみられない。ピットはP2・6・8・9が主柱穴と思われる。いずれも複数のピットの重複が認められるので、数度の建て替えが想定される。P11は位置からみて出入口ピットの可能性がある。竈は北壁中央に設けられており壁外への張り出しは少ない。竈底部のみであり遺存状況は悪い。住居掘形はEF土層断面をみるとほとんど認められない

- 38 出土位置・注記:3住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:櫛縞文(5本)、付加条縄文(L-S) 胎土:に金雲母含む
- 39 出土位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期 文様:付加条縄文(L-S, L-Z) 備考:器外面に塚付着、器内面変色
- 40 出土位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期 文様:付加条縄文(R-S) 備考:器内面変色
- 41 出土位置・注記:2住 Pit 1 時代時期:弥生時代後期 文様:付加条縄文(R×R) 備考:器外面に塚付着
- 42 出土位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期 文様:付加条縄文(L-S, R-Z) 備考:器外面に塚付着
- 43 出土位置・注記:4住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(R×R, L×L) 胎土:金雲母含む 備考:器内面変色
- 44 出土位置・注記:2住 時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(R-Z)
- 45 出土位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(L×L, R×R)
- 46 出土位置・注記:4住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型甕形土器 文様:付加条縄文(R×R, R-S)
- 47 出土位置・注記:3住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 器種:大型甕形土器 文様:付加条縄文(R×R, L×L) 胎土:金雲母含む
- 48 出土位置・注記:1住床 時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(R-S)
- 49 出土位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(L-Z)
- 50 出土位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期(十王台式) 文様:付加条縄文(L-Z, R-S) 備考:器内面変色
- 51 出土位置・注記:3住 時代時期:弥生時代後期 文様:付加条縄文(R×R)、底面布目痕 法量:底径78mm(残存率14%) 胎土:黒色粒含む
- 第98回
- 1 出土位置:第94回8 注記:3住S1 時代時期:縄文時代・古墳時代 器種:礫器転用砥石 材質:並青石ホルンフェルス 法量:長145mm、幅126mm、厚48mm、重量1613g 備考:礫器としては自然石の形状を調整し刃を付けたものを使用。古墳時代の使用痕として、Aの部分に14か所の刃物調整痕がみられる。背面と向正面に磨痕がある。A面が砥面か。
- 2 出土位置・注記:2住 時代時期:縄文時代器種:礫器 材質:並青石ホルンフェルス 法量:長116mm、幅82mm、厚34mm、重量421g 備考:側面に磨痕がみられる。とくにAの部分がよく磨かれたようになっている。
- 3 出土位置・注記:3住 時代時期:弥生時代 器種:割片 材質:石英片 法量:長21mm、幅33mm、厚11mm、重量6.40g



第99図 市毛上坪遺跡第27次調査区

ようである。

攪乱が床面付近まで及ぶことから、遺物の遺存状況は悪い。かろうじて竈付近の覆土が残存していたことから、そこから多種の杯類の破片が出土している。

#### 遺物説明

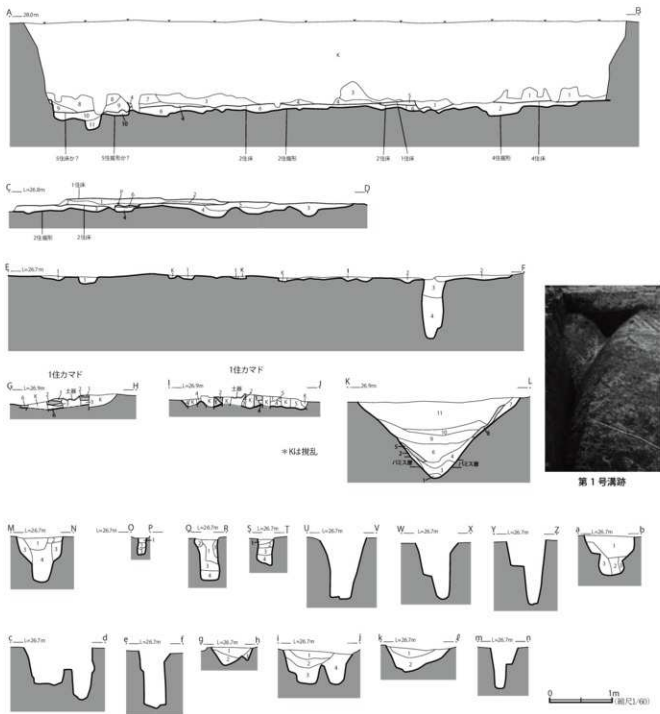
##### 第102図

- 1 台帳：P4 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10% 法量：口径(28.0)、高(2.8) 色調：外面黒色。内面にふい黄橙～黒色。胎土：礫(白少)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：内外面ともヨコナデ。使用痕：一 備考：内外面とも器面が摩滅している。
- 2 台帳：P14、1住、表土 材質：土師器 器種：甕 残存：胴部30%、底部100% 法量：高(25.2)、底径8.0 色調：外面暗黒～黒

褐色。内面にふい黄橙色。胎土：礫(白少)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り?。内面ヘラナデ。使用痕：外面二次焼成をうけている。底面中央に径2.5cm程の支脚の痕が残る。備考：1と同一か。

3 台帳：P12、1住 材質：土師器 器種：甕 残存：底部30% 法量：高(2.2)、底径(7.3) 色調：外面暗褐色。内面にふい黄橙色。内胎土：礫(白多)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り。面ヘラナデ。使用痕：外面が二次焼成をうけている。備考：一

4 台帳：P3、表土 材質：土師器 器種：甕 残存：10% 法量：口径(23.7)、高(10.5) 色調：外面にふい黄橙色。内面にふい橙色。胎土：小石(白礫)、礫(白少)、砂(白多、透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ削り。内面口縁部ヘラナデ・ヘラミガキ、胴部ヘラナデ。使用痕：一 備考：一



第100図 市毛上坪遺跡第27次調査区遺構断面

- 5 台帳:P5 材質:土師器 器種:杯 残存:30% 法量:口径(20.0), 高(7.8) 色調:内外面とも黒褐色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラナデ後放射状にヘラミガキ。内外面とも黒色処理されている。使用痕:— 備考:—
- 6 台帳:P10 材質:土師器 器種:杯 残存:40% 法量:口径15.5, 高4.5 色調:内外面ともふい濁~黒色。胎土:礫(白微, 灰微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラナデ。内外面とも黒色処理されているかもしれない。使用痕:内外面とも器面がやや摩滅している。備考:—
- 7 台帳:P7, 1住 材質:土師器 器種:杯 残存:20% 法量:口

- 径(12.7), 高(4.8) 色調:内外面とも赤橙~濁~黒褐色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上~中位ナデ, 下位ヘラ削り。内面口縁~体部上位ヨコナデ, 中~下位ナデ。使用痕:— 備考:—
- 8 台帳:P1 材質:土師器 器種:杯 残存:30% 法量:口径(14.4), 高(4.2) 色調:内外面ともふい濁~黒色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁~体部上位ヨコナデ後ヘラミガキ, 中から下位ヘラナデ・ヘラミガキ。内外面とも黒色処理されている。使用痕:— 備考:—
- 9 台帳:P6 材質:土師器 器種:杯 残存:30% 法量:口径(11.8),

土層説明	3 褐色 (ローム小ブロック含む 炭化植物含む)	QR土層断面
AB土層断面	4 褐色 (ローム小ブロック多量含む 塊土小ブロック少量含む 暗褐色土層に属)	1 褐色 (ローム粒多量含む)
1 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む)		2 明褐色 (ローム粒非常に多量含む 中や細砂り有り)
2 黄褐色 (ロームブロック多量含む)	5 明褐色 (ローム小ブロック多量含む)	3 明褐色 (ローム粒・ロームブロック多量含む)
3 暗褐色 (ローム粒含む)	6 明褐色 (ロームブロック・ローム小ブロック多量含む 細まり有り 1位埋埋土)	4 褐色 (ローム粒多量含む)
4 暗褐色 (ローム粒多量含む)		5T土層断面
5 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む)		1 褐色 (ロームブロック含む)
6 黄褐色 (ロームブロック多量含む)	KL土層断面	2 明褐色 (ローム粒多量含む ロームブロック含む)
7 暗褐色 (塊土多量含む)	1 褐色 (ローム粒・バリス粒含む)	3 褐色 (ローム粒含む)
8 暗褐色 (ローム粒含む)	2 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む)	4 褐色 (ローム粒多量含む 細まり有り)
9 暗褐色 (ローム小ブロック多量含む)	3 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)	
10 黄褐色 (ロームブロック多量含む 細まり有り)	4 明褐色 (ローム粒多量含む)	ab土層断面
11 明褐色 (ローム粒多量含む ロームブロック含む)	5 黄褐色 (ローム土主体 暗褐色土層に属)	1 暗褐色 (ローム粒含む)
	6 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む 暗褐色土層に属)	2 褐色 (ローム粒非常に多量含む)
CD土層断面	7 褐色 (ローム粒多量含む)	3 明褐色 (ローム粒非常に多量含む ロームブロック少量含む)
1 暗褐色 (ロームブロック多量含む)	8 明褐色 (バリス土主体 褐色土層に属)	
2 黄褐色 (ローム小ブロック含む ロームブロック少量含む)	9 暗褐色 (ローム粒含む)	gh土層断面
3 黄褐色 (ローム土主体 暗褐色土層に属)	10 明褐色 (ローム粒多量含む 暗褐色土層に属)	1 暗褐色 (ローム粒含む)
4 明褐色 (ロームブロック多量含む)	11 暗褐色 (ローム粒含む)	2 暗褐色 (ローム粒やや多量含む ローム小ブロック少量含む)
5 褐色 (ロームブロック多量含む)		3 暗褐色 (ローム粒やや多量含む)
6 黄褐色 (塊土・灰多量含む 2位埋)	MN土層断面	
	1 黄褐色 (ローム粒含む)	ij土層断面
EF土層断面	2 褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む)	1 暗褐色 (ローム粒含む ローム小ブロック少量含む)
1 明褐色 (ローム土主体 褐色土層に属)	3 明褐色 (ロームブロック多量含む)	2 黄褐色 (ロームブロック少量含む)
2 褐色 (ローム小ブロック多量含む ロームブロック少量含む)	4 明褐色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック含む)	3 褐色 (ローム粒多量含む ロームブロックやや多量含む)
3 明褐色 (ロームブロック多量含む)		4 褐色 (ローム粒含む)
4 明褐色 (ローム小ブロック多量含む 細まり無し)	OP土層断面	
	1 褐色 (ローム粒含む)	
GH・I土層断面	2 明褐色 (ローム粒多量含む)	KL土層断面
1 黄褐色 (カマド粘土 (ローム土多量混じる 粘土))	3 明褐色 (ローム小ブロック多量含む)	1 暗褐色 (ローム粒含む)
2 褐色 (塊土)		2 明褐色 (ローム小ブロック多量に属)

高 3.8 色調：外面浅黄褐色。内面黒色。胎土：砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁～体部中位ヘラナデ・ナデ，下位ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ後ヘラミガキ，中～下位ヘラミガキ。内面を黒色処理されている。 使用痕：— 備考：—

10 台帳：P2 材質：土師器 器種：杯 残存：20% 法量：口径（11.8），高（4.0）色調：外面浅黄～黒色。内面にぶい橙褐色。胎土：礫（白少），砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁～体部上位ヘラナデ・ナデ，中～下位ヘラ削り。内面ヘラナデ・ナデ。 使用痕：— 備考：内外面とも調整があらう。

11 台帳：P11 材質：土師器 器種：杯 残存：20% 法量：口径（10.7），高（3.5）色調：内外面ともにぶい橙～黒色。胎土：礫（白微），砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上位ナデ，下位ヘラ削り後ヘラナデ。内面口縁～体部中位ヨコナデ，下位ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

12 台帳：I1 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（13.9），高（3.0）色調：外面淡黄～黒色。内面黒色。胎土：砂（白多、透多、黒少）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラミガキ。内面ヨコナデ。内外面とも黒色処理されている。 使用痕：— 備考：—

13 台帳：Pn11 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（13.8），高（2.8）色調：内外面とも黄橙褐色。胎土：砂（白少、透少）焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り後ヘラミガキ。内面ヨコナデ後ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

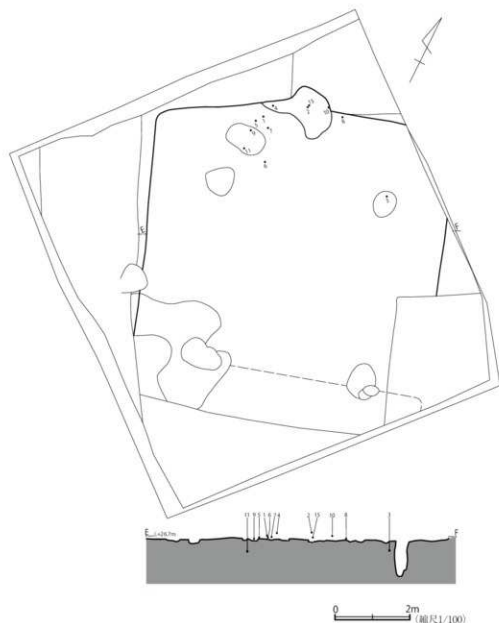
14 台帳：I1 材質：土師器 種類：土師 法量：長 3.0，最大径 3.5，

孔径 0.5，重量 30.62g 備考：—

15 台帳：P15 材質：土師質 器種：支脚 残存：100% 法量：上径 3.3，高 13.0，底径 8.8 色調：ぶい橙～暗褐～黒色。胎土：小石（赤微），礫（白微），砂（白多、透多）焼成：良好 技法等：ヘラナデ・ナデ 使用痕：二次焼成をうけている。 備考：土器 2 の底面に支脚の痕が残る。 16 出上位置：1住 Pn2 台帳：1住 Pn2 材質：鉄 種類：釣針 法量：長（3.4），厚（0.3），重量 3.29g 備考：—

## 第 2 号住居跡

**遺構** 第 2 号住居跡は，第 1・4 号住居跡および 1 号溝跡と重複しており，新旧は切り合い関係からみて，第 2 号住居跡→第 1 号住居跡→第 4 号住居跡・第 1 号溝跡と推定される。住居跡の調査は，AB 土層断面で見られるように表土の攪乱が遺構床面まで及んでおり，第 1・4 号住居跡との床面レベルもほぼ同じであったため，住居跡のプランは不明瞭であり，北壁ラインは CD 土層断面からの推定である。ピットは P1 が主柱穴と思われる，複数のピットが掘り込まれているため，何度かの建て替えが考えられる。竈は第 1 号住居跡により掘り込まれており，底面の焼土が残存する程度であり，竈前面の床面に竈粘土の一部が認められている。住居掘形は AB・



第101図 市毛上坪遺跡第27次調査区第1号住居跡遺物出土状況

CD土層断面をみると浅い堀込が全体に認められるようである。

**遺物** 2～23は、石製模造品の未製品および製作過程の石片である。この中には、第2号住居跡と重複する遺構から出土した遺物が含まれるが、住居跡の時期から判断して第2号住居跡の遺物として掲載した。2は明確な製品ではなく、剥片に穿孔をしたものである。福島県郡山市の佐久間正明氏によると、このような遺物は奈良県の曾我遺跡や群馬県の竹沼遺跡、福島県の住吉B4号住居跡など、石製模造品の工房跡からよく出土する製品と指摘された。なお、有孔円板などの基本は平面・側面をある程度整形した後に穿孔されると考えられているので、その未製品ではない。工房跡を裏付けるように、

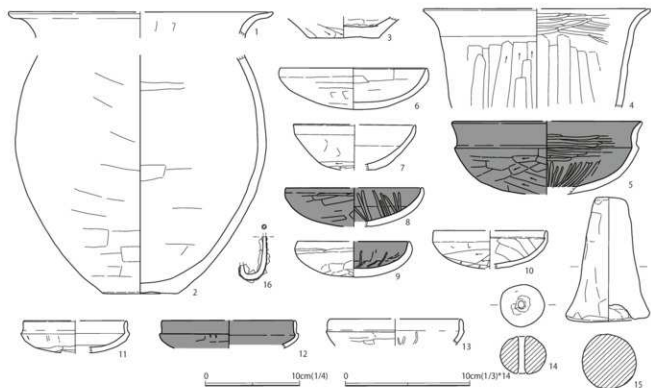
双孔円板(3)や勾玉(4)の未製品や研磨痕のみられる遺物(5～9)、滑石や蛇紋岩等の石片(10～18)、砥石(19～23)が出土しており、第2号住居跡が石製模造品の工房跡である可能性が高い。ひたちなか市で石製模造品の工房跡は、古墳時代中期中葉の武田西端遺跡第87-3号住居跡で確認されている。

### 遺物説明

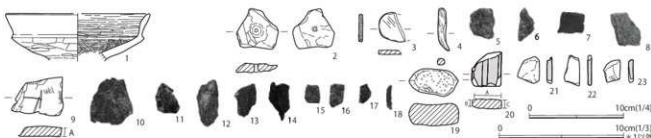
#### 第103図

- 1 台帳:P1, 2住, 表土 材質:土師器 器種:高杯 残存:杯部 60% 法量:口径(15.0), 高(5.1) 色調:内外面とも橙~赤褐~暗褐色 胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部コナデ, 体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ, 内面口縁部コナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラナデ・ヘラミガキ。 使用痕:口縁部が摩滅している。備考:—
- 2 台帳:1住 Pt6 材質:千枚岩 種類:— 法量:長3.0, 幅3.3, 厚0.7, 口径0.3, 重量8.58g 備考:片面穿孔。片面に径1.0の円形の浅い凹みあり。

- 3 台帳:2住 S2 材質:千枚岩 種類:未製品(双孔円板) 法量:長2.3, 幅1.9, 厚0.3, 重量2.00g 備考:両面と側面に研磨痕あり。
- 4 台帳:4住 材質:滑石片岩 種類:未製品(勾玉?) 法量:長3.5, 幅0.6, 厚0.5, 重量21.05g 備考:研磨痕あり。
- 5 台帳:4住 材質:透閃石片岩 種類:未製品 法量:長2.3, 幅1.9, 厚0.2, 重量2.68g 備考:一部研磨痕あり。
- 6 台帳:4住 材質:滑石片岩 種類:未製品 法量:長2.7, 幅1.1, 厚0.2, 重量1.20g 備考:一部研磨痕あり。
- 7 台帳:2住 Pt1B 材質:千枚岩 種類:未製品 法量:長1.7, 幅1.8, 厚0.4, 重量2.19g 備考:一部研磨痕あり。
- 8 台帳:1住 Pt2 材質:透閃石片岩 種類:未製品 法量:長2.7, 幅2.0, 厚0.2, 重量2.67g 備考:一部研磨痕あり。
- 9 台帳:1溝 材質:蛇紋岩 種類:石片 法量:長2.9, 幅4.0, 厚0.8, 重量18.03g 備考:鎌による傷と思われる溝あり。Aは切断痕。
- 10 台帳:1溝 材質:滑石片岩 種類:石片 法量:長3.7, 幅3.4, 厚0.5, 重量8.81g 備考:—



第102図 市毛上坪遺跡第27次調査区第1号住居跡出土遺物



第103図 市毛上坪遺跡第27次調査区第2号住居跡出土遺物

- 11 台帳：1住 Pit1A 材質：滑石片岩 種類：石片 法量：長2.3，幅1.8，厚0.5，重量2.60g 備考：—  
 12 台帳：2住 Pit1B 材質：透鏡閃石片岩 種類：石片 法量：長3.6，幅1.7，厚0.5，重量4.17g 備考：—  
 13 台帳：2住一括 材質：滑石片岩 種類：石片 法量：長2.5，幅1.7，厚0.37，重量2.11g 備考：—  
 14 台帳：2住 Pit1A 材質：蛇紋岩 種類：石片 法量：長2.9，幅1.7，厚0.3，重量2.26g 備考：—  
 15 台帳：2住 Pit1B 材質：滑石片岩 種類：石片 法量：長1.5，幅1.2，厚0.2，重量0.93g 備考：—  
 16 台帳：2住一括 材質：滑石片岩 種類：石片 法量：長1.9，幅1.1，厚0.2，重量1.07g 備考：—  
 17 台帳：2住一括 材質：滑石片岩 種類：石片 法量：長1.5，幅0.9，厚0.1，重量0.42g 備考：—  
 18 台帳：4住 材質：滑石片岩 種類：石片 法量：長2.7，幅1.1，厚0.2，重量1.20g 備考：—  
 19 台帳：1住 Pit1A 材質：軽石 種類：砥石 法量：長2.0，幅3.9，厚1.7，重量6.09g 備考：ほぼ全面が砥面。  
 20 台帳：1溝 材質：珪質片岩 種類：砥石 法量：長2.7，幅2.3，厚0.8，

- 重量6.10g 備考：砥面にA・B・Cの3面。Aに浅い溝状の凹みあり。  
 21 台帳：1溝 材質：珪質片岩 種類：砥石 法量：長2.2，幅1.7，厚0.4，重量1.61g 備考：砥面1面。  
 22 台帳：1溝 材質：珪質片岩 種類：砥石 法量：長2.4，幅1.2，厚0.3，重量1.40g 備考：砥面1面。  
 23 台帳：1溝 材質：珪質片岩 種類：砥石 法量：長1.8，幅1.3，厚0.4，重量1.11g 備考：砥面1面。

### 第3号住居跡

**遺構** 第2号住居跡は、第1号住居跡と重複しており、新旧は切り合い関係からみて、第3号住居跡→第1号住居跡と推定される。土上の攪乱が遺構床面近くまで及んでいたため、住居南西隅部床面のみの残存であった。

### 第4号住居跡

**遺構** 第4号住居跡は、第1・2号住居跡と重複しており、新旧は切り合い関係からみて、第2号住居跡→

第1号住居跡→第4号住居跡と推定される。住居跡北西隅のみの調査であるが、AB土層断面で見られるように表土の攪乱が遺構床面まで及んでおり、第1・4号住居跡との床面レベルもほぼ同じであったため、住居跡のプランは不明瞭であった。西壁ラインはAB土層断面からの推定である。ピットはP1が主柱穴と思われる。住居掘形はAB土層断面をみるとやや深い掘り込みが認められるようである。

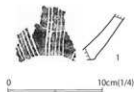
#### 遺物説明

##### 第104図

1 台帳：I2 材質：鉄 種類：鉄鏃？ 法量：長(8.0)、幅0.3～0.5、厚0.3、重量8.80g 備考：—



第104図 市毛上坪遺跡第27次調査区第4号住居跡出土遺物



第105図 市毛上坪遺跡第27次調査区第1号溝跡出土遺物

### (3) 溝跡

#### 第1号溝跡

**遺構** 第1号溝跡は調査区を南北に縦断する断面V字形の溝である。第1・2号住居跡と重複しており、新旧は切り合い関係からみて、第2号住居跡→第1号住居跡→第1号溝跡と推定される。確認面幅2.7m、確認面からの深さ1.2mを測る。K L土層断面の明褐色土層が当方から流れ込むことからみて、溝の東側に盛土があったのかもしれない。これは同一の溝を調査したと考えられる市毛上坪遺跡第25次調査区第1号溝跡の所見と同じである。なお覆土中より土師質の播鉢破片が出土していることから、当溝跡は中世後期になる可能性があるだろう。

#### 遺物説明

##### 第105図

1 出土位置：1溝 注記：— 材質：土師質土器 器種：播鉢 残存：体部片 色調：外面灰褐色、内面灰褐色、断面中央灰褐色、外側灰褐色 胎土：砂(白透、角閃石・輝石類)、骨針、黒雲母微量 特徴：堀口数5本

### (4) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

#### 遺物説明

##### 第106図

1 出土位置・注記：2住 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜縄文(LR)  
2 出土位置・注記：2住 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜縄文

(LR) 胎土：海綿骨針含む

3 出土位置・注記：1住 Pit1A 時代時期：縄文時代中期(加曾利E式) 文様：器糸文(Lの絡糸体)

4 出土位置・注記：1住掘形 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文(LR)

5 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代中・後期 文様：無節斜縄文(L) 備考：器外面に傷あり

6 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代中・後期 文様：糸痕文

7 出土位置・注記：1住 Pit1A 時代時期：縄文時代中・後期 文様：単節斜縄文(LR)

8 出土位置・注記：1溝 時代時期：縄文時代 胎土：赤色粒子を多量に含む 備考：器外面一部剥落

9 出土位置・注記：1住 Pit6 時代時期：縄文時代後期(堀之内式) 文様：単節斜縄文(LR)、沈線文 胎土：黄褐色の泥岩を少量含む

10 出土位置・注記：1住 Pit2 弥生時代中期(足洗式) 文様：沈線文(半蔵竹管)

11 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代中期(足洗式) 文様：(半蔵竹管) 備考：壺形土器の頸部カ

12 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代中期(足洗式) 文様：沈線文(半蔵竹管) 胎土：黒色粒含む

13 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代中期 文様：沈線文(半蔵竹管) 胎土：海綿骨針含む 備考：器内面一部剥落

14 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文(LR+2R) 備考：器外面に煤付着

15 出土位置・注記：1溝 時代時期：弥生時代中期 文様：反照り縄文(RRカ) 備考：器内外面一部変色

16 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文(LR+R) 備考：器外面一部変色

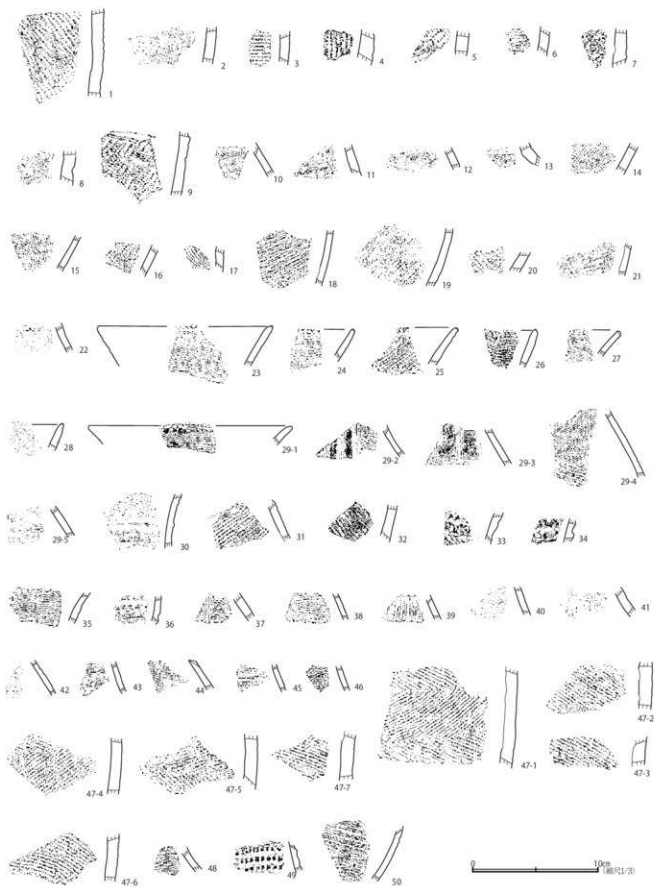
17 出土位置・注記：1住 Pit2 時期：弥生時代中期 文様：無節斜縄文(R)

18 出土位置・注記：1住 Pit6 時代時期：弥生時代 器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文(LR+R)

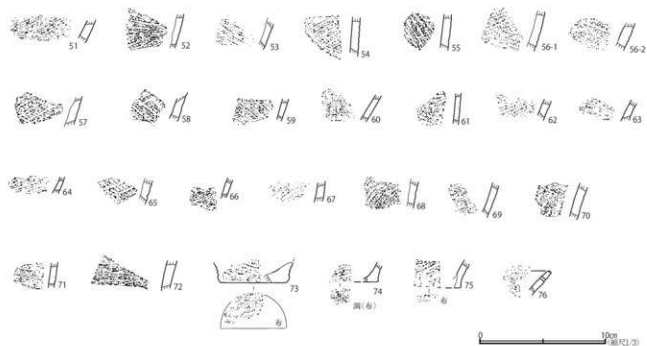
19 出土位置・注記：2住 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄

- 文 (LR・R) 胎土:海綿骨針少量含む
- 20 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代 文様:単節斜縄文 (RL, LR)
- 21 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代 文様:付加条縄文 (LR・R) 胎土:金雲母, 海綿骨針少量含む 備考:器外面に傷と思われるものあり
- 22 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代中・後期 文様:付加条縄文 (LR・2R) 胎土:黒色粒を少量含む 備考:器内面に煤付着
- 23 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:口唇部刻み (甕状工具), 口縁部縞描文 (5本) 法量:口径138mm (残存率5%の部分から推定)
- 24 出上位置・注記:2住掘形 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 器種:大型甕形土器 文様:口唇部刻み (甕状工具), 口縁部縞描文 (3本) 25 出上位置・注記:2住掘形 時代時期:弥生時代後期 文様:口唇部刻み (甕状工具), 付加条縄文 (R×2Lカ) 備考:器内面磨き
- 26 出上位置・注記:4住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:口唇部刻み (甕状工具), 口縁部縞描文 (4本)
- 27 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:口唇部刻み (甕状工具)・突起あり, 口縁部縞描文 (4本)
- 28 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期 文様:口唇部刻み (甕状工具), 口縁部縞描文 (4本) 備考:器外面に赤彩の痕跡あり
- 29 出上位置・注記:1溝, 2住, 1住 Pr2 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:口唇部刻み (縄文原形), 口縁部・胴上部に縞描文 (5本), 下部に付加条縄文 (LZ) 法量:口径160mm (残存率9%) 胎土:黒色粒・金雲母を含む 備考:器外面に煤付着
- 30 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (R×R, LZ), 隆帯 (3本) 備考:器内面に煤付着
- 31 出上位置・注記:1住掘形 時代時期:弥生時代後期 (十王台式カ) 文様:単節斜縄文 (LR) 備考:大型甕形土器, 器内面一部剥落, 32と同一個体カ
- 32 出上位置・注記:1住掘形 時代時期:弥生時代後期 (十王台式カ) 文様:単節斜縄文 (RL) 備考:大型甕形土器, 31と同一個体カ
- 33 出上位置・注記:2住 Pr1B 時代時期:弥生時代後期 文様:隆帯 (2本以上), 付加条縄文 (L×L, R×Rカ) 胎土:金雲母含む 備考:大型甕形土器
- 34 出上位置・注記:2住 Pr1B 時代時期:弥生時代後期 文様:隆帯 (2本), 爪痕 胎土:金雲母含む
- 35 出上位置・注記:1住 Pr1A 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (4本) 胎土:金雲母含む
- 36 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:隆帯 (2本), 縞描文 (5本)
- 37 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (4本) 胎土:海綿骨針含む
- 38 出上位置・注記:1住 Pr6 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (4本)
- 39 出上位置・注記:1住 Pr1B 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (6本)
- 40 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (5本)
- 41 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (5本) 胎土:金雲母を多量に含む
- 42 出上位置・注記:2住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (5本) 胎土:黒色粒を微量に含む 備考:横区画が縦筋状文になると考えられる
- 43 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (5本) 胎土:黒色粒含む
- 44 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (5本) 備考:器外面・内面一部剥落
- 45 出上位置・注記:4住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (4本カ) 胎土:黒雲母含む
- 46 出上位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (4本) 胎土:海綿骨針含む
- 47 出上位置・注記:2住, 2住 Pr1A, 1溝 時代時期:弥生時代後期 (上稲吉式) 文様:付加条縄文 (RL+2L, LR+2Rの羽状縄文) 胎土:白雲母を多量に含む 備考:大型土器
- 48 出上位置・注記:2住 Pr1B 時代時期:弥生時代後期 文様:縞描文 (4本) 胎土:金雲母含む
- 49 出上位置・注記:1住カマド 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:縞描文 (2本以上), 隆帯 (3本) に甕状工具による刺突痕あり
- 50 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LZ) 備考:大型甕形土器
- 第107図
- 51 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LR・R) 胎土:金雲母含む
- 52 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LZ, RS) 備考:器内面剥落
- 53 出上位置・注記:表土 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LZ) 備考:大型甕形土器, 器内面剥落
- 54 出上位置・注記:1住 Pr6 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (R×R)
- 55 出上位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LZ) 備考:大型甕形土器
- 56 出上位置・注記:2住, 1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 落文様:付加条縄文 (R×R, L×L) 備考:大型甕形土器, 器内面剥落
- 57 出上位置・注記:1住掘形 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LZ, R×R) 胎土:金雲母含む 備考:大型甕形土器
- 58 出上位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LR・R, RL・L)
- 59 出上位置・注記:1住 Pr1 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (L×L) 胎土:金雲母含む 備考:大型甕形土器
- 60 出上位置・注記:1住 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (RS) 胎土:金雲母含む
- 61 出上位置・注記:1住 Pr2 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (LZ, RS) 備考:大型甕形土器
- 62 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (R×R) 胎土:金雲母含む 備考:大型甕形土器
- 63 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:付加条縄文 (L×L) 胎土:金雲母含む 備考:大型甕形土器
- 64 出上位置・注記:1溝 時代時期:弥生時代後期 (十王台式) 文様:





第106图 市毛上坪遺跡第27次調査区出土遺物(1)



第 107 図 市毛上坪遺跡第 27 次調査区出土遺物 (2)

付加条縄文 (R・S) 備考: 器外面に塚付着

65 出土位置・注記: 2 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (R × R) 備考: 大型壺形土器, 器内面剥落

66 出土位置・注記: 2 住 Pit1A 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 文様: 付加条縄文 (R × R)

67 出土位置・注記: 表上 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式方) 文様: 単節斜縄文 (LR)

68 出土位置・注記: 1 住 Pit6 時代時期: 弥生時代 文様: 付加条縄文 (LR+2R) 備考: 器内面剥落

69 出土位置・注記: 1 住 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (R・S, R・Zカ) 胎土: 金雲母含む

70 出土位置・注記: 4 住 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (R・S)

71 出土位置・注記: 2 住 Pit1B 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (L・Z) 胎土: 海綿骨針含む

72 出土位置・注記: 1 住 時代時期: 弥生時代後期カ 文様: 付加条縄文 (R・S) 胎土: 海綿骨針, 黒雲母含む

73 出土位置・注記: 表上 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (L × R), 底面布目痕 法量: 底径 52 mm (残存率 25%) 備考: 器内面一部剥落

74 出土位置・注記: 表上 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (R・S) 備考: 底面調整 (布目痕あり)

75 出土位置・注記: 1 住 時代時期: 弥生時代後期 文様: 付加条縄文 (R・S), 底面布目痕 備考: 器内面変色あり

76 出土位置・注記: 2 住 時代時期: 弥生時代後期 文様: 口縁部刻み (錠状工具), 口縁部縞描文 (5 本), 焼成前穿孔あり 備考: 高環形か (器とも考えられる)

## 5 市毛上坪遺跡第28次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地/ひたちなか市市毛上坪1194番4 期間/平成31年2月5日～平成31年3月8日 担当/佐々木義則 面積/87㎡ 時代/古墳, 平安 遺構/竪穴住居跡4基(古墳時代2基, 平安時代2基)

調査地は, 那珂川低地を望む台地縁辺から140mほど離れた地点に位置し, 平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(第24次調査)がなされていたため, 今回の調査区に係る遺構配置を予想して調査に臨むことができた。以下, 簡単に調査の経過を記す。

2月5日:調査区設定。2月7日:重機による表土除去開始。2月8日:遺構確認, 掘り込み開始。図面・写真による記録作業開始。2月27日:調査区写真。

3月8日:現場撤収作業。重機による埋め戻し。

### (2) 住居跡

#### 第1号住居跡

**遺構** 第1号住居跡は第2号住居跡と重複する。新旧は出土遺物からみて第2号住居跡→第1号住居跡である。当住居跡の主軸方向は, N-19°-Wを測る。竪穴部の規模は, 東西4.5m, 南北4.8mで, 形状はやや縦長の正方形である。壁高は東壁0.4m, 西壁0.6m, 南壁0.6m, 北壁0.6mを測る。壁間溝は隅部を除き認められる。ピットは壁際のP1～P4が主柱穴と思われる, 4本とも内側に傾くものであった。床は南壁中央から竈にかけて硬化する。中央部やや南寄りの部分に焼土粒が散っており, その周囲に灰が堆積していたことから, ここで火を用いたようである。竪穴部覆土はローム小ブロックを含む褐色土が堆積しており, 人為的埋土かもしれない。竈はつぶれていたが, AB土層断面をみると煙道が比較的良好に残っていた。住居掘形は, 周囲を浅く掘り込むタイプであるが, 部分的に掘り込みは途切れている。なお, 掘形埋土を除いたところ, 旧主柱穴と考えられるP5～9が検出された。旧主柱穴はピットの重複状況から2度の建て替えが想定されるので, 壁際の主柱穴は3度目の建て替えによるものであろう。3度目の建て替えの際に上屋構造を大きく変えたようである。また, 掘形調査で見つかったP10は旧主柱穴に伴うと考えられるが, 位置からみて出入口ピットになる可能性が高い。

**遺物出土状況** 土師器製の破片が竈付近から出土しており, 補強材として用いられたものであろうか。ほぼ完形の須恵器杯(1)は, 南西隅の床面から正位で出土しているのので, 置かれたまま遺棄されたものであろう。なお, 床面付近よりほぼ完形の鎌20および先端部を欠く鎌21が出土しているのが注目される。

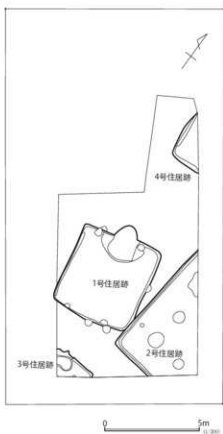
#### 遺物説明

##### 第112図

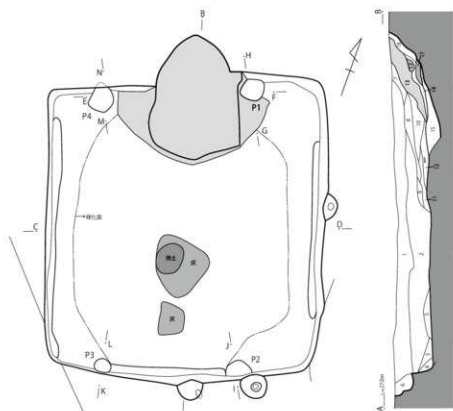
1 出土位置:1住 注記:P1 材質:須恵器 器種:杯 残存:口縁部若干欠失 法量:口径13.4, 器高4.7, 底径6.9 色調:灰褐色, 橙褐色 胎土:礫(白, 灰少), 砂(白, 透少, 灰少) 針 特徴:回転ヘラ切り。底部外面中央部手持ちヘラ削り後, 底部外面ナデ, 口唇部および底部外面周縁やや摩滅。 備考:木葉下産物か

2 出土位置:1住 注記:1・2・3区 材質:須恵器 器種:杯 残存:体部30%, 底部40% 法量:口径(13.0), 器高4.6, 底径(7.3) 色調:灰色 胎土:礫(白多, 灰) 特徴:底部外面ナデ。外面体部下端若干摩滅。 備考:木葉下産物か

3 出土位置:1住 注記:P3, 4区 材質:須恵器 器種:杯 残存:



第108図 市毛上坪遺跡第28次調査区



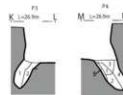
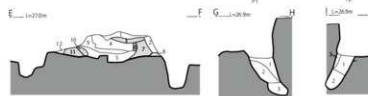
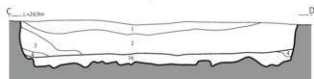
#### 土層説明

##### AB・CD土層断面

- 1 暗褐色 (ローム粘土含む)
- 2 褐色 (ローム粘土多量含む ローム小ブロック含む 黄褐色土混じる 人為的埋土か)
- 3 褐色 (ローム粘土含む ローム小ブロック少量含む 人為的埋土か)
- 4 褐色 (ロームブロック含む 黄褐色土混じる)
- 5 褐色 (ロームブロック・ローム粘土多量含む)
- 6 暗褐色 (ローム粘土多量含む 黄褐色土混じる)
- 7 明褐色 (白褐色粘土粘多量含む)
- 8 褐色 (白褐色粘土粘・ローム粘土多量含む 白褐色粘土ブロック含む)
- 9 黄褐色
- 10 明褐色 (白褐色粘土粘・小ブロック多量含む 暗褐色粘土ブロック多量含む)
- 11 明褐色 (白褐色粘土粘・ローム粘土多量含む)
- 12 明褐色 (ロームブロック・ローム粘土多量含む)
- 13 明褐色 (白褐色粘土ブロック多量含む)
- 14 暗灰色 (灰層)
- 15 明褐色 (ロームブロック含む)
- 16 明褐色 (ロームブロック多量含む 黄褐色土混じる)
- 17 赤褐色 (黄土)
- 18 褐色 (ローム粘土含む 灰混じる)

##### EF土層断面

- 1 褐色 (ローム小ブロック・ローム粘土含む)
- 2 明褐色 (ローム粘土非常に多量含む 黄褐色土粘含む 粘土粘少量含む)
- 3 明褐色 (ローム粘・白褐色粘土粘多量含む)
- 4 黄褐色 (ロームブロック多量含む)
- 5 灰褐色 (灰層)
- 6 赤褐色 (黄土)
- 7 白褐色 (カマド粘土)
- 8 明褐色 (ロームブロック・白褐色粘土ブロック含む 餅まき有り 1住床)
- 9 明褐色 (ローム粘土多量含む ローム小ブロック含む 黄褐色土粘含む)
- 10 白褐色 (カマド粘土)
- 11 黄褐色 (ローム土主体)
- 12 褐色 (黄褐色土混じる ローム小ブロック少量含む ローム粘土含む)



0 1m (縮尺1/100)

##### GH土層断面

- 1 明褐色 (カマド粘土ブロック多量含む)
- 2 褐色 (ローム粘土多量含む)
- 3 明褐色 (ローム粘土非常に多量含む)

##### KL土層断面

- 1 暗褐色 (ローム粘土含む)
- 2 明褐色 (ローム粘土非常に多量含む)

##### IJ土層断面

- 1 暗褐色 (ローム粘土多量含む)
- 2 明褐色 (ローム粘土非常に多量含む)
- 3 黄褐色 (ローム土主体 黄褐色土混じる 餅まき有り)

##### MN土層断面

- 1 褐色 (ローム粘土多量含む)
- 2 明褐色 (ローム粘土非常に多量含む)
- 3 白褐色 (カマド粘土)
- 4 褐色 (ローム粘・ローム小ブロック多量含む)
- 5 明褐色 (ローム粘土多量含む 餅まき有り)

### 第109回 市毛上坪遺跡第28次調査区第1号住居跡

体部30%。底部外周35% 法量：口径(13.2)、器高4.7、底径(8.3)

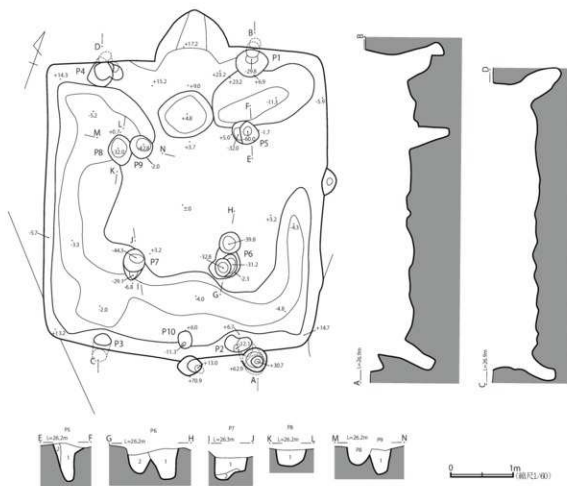
色調：灰色。体部外面一部暗灰色 胎土：礫(白)、骨針微量 特徴：底部外面ナデ 備考：木葉下窯産か

4 出土位置：1住 注記：4区、P11、市毛上坪24次7トレ 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部60% 法量：底径8.4 色調：灰色 胎土：礫(白、透少)、砂(白、灰少)、骨針 特徴：回転ヘラ切り後底部外面ナデ。

備考：木葉下窯産か

5 出土位置：1住 注記：2区、4区、カマド 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部50% 法量：底径(8.2) 色調：灰色 胎土：礫(白、灰少)、砂(白、白透)、骨針微量 特徴：底部外面1方向手持ちヘラ削り。外面底部四縁厚減。備考：木葉下窯産か

6 出土位置：1住 注記：1区 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部



#### 土層説明

##### EF 土層断面

- 1 褐色（ローム小ブロック・ロームブロック含む）  
2 明褐色（ロームブロック多量含む）

##### II 土層断面

- 1 明褐色（ローム粒非常に多量含む） ロームブロック少量含む 暗褐色土混じる  
2 明褐色（ローム粒非常に多量含む） ロームブロック多量含む 暗褐色土混じる

##### MN 土層断面

- 1 明褐色（ローム小ブロック非常に多量含む）

##### GH 土層断面

- 1 褐色（ローム小ブロック多量含む） 暗褐色土混じる  
2 明褐色（ローム小ブロック非常に多量含む）

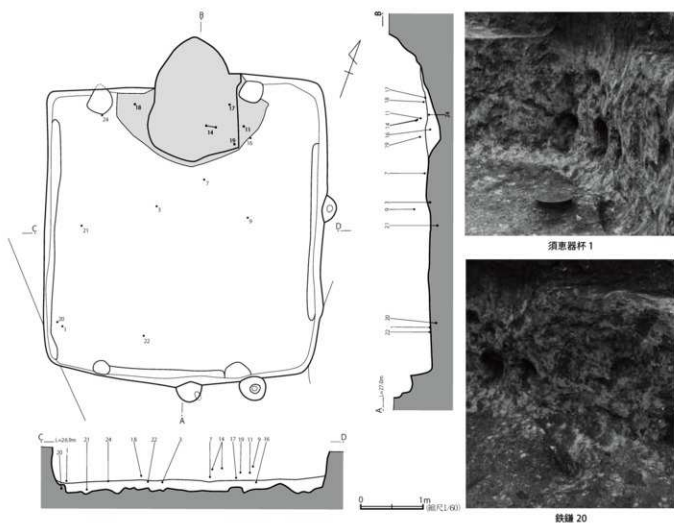
##### KL 土層断面

- 1 明褐色（ローム粒非常に多量含む） ローム小ブロック含む 暗褐色土混じる

第110図 市毛上坪通跡第28次調査区第1号住居跡地形

外周 20% 法量：底径(8.3) 色調：褐色 胎土：礫(白透, 白)  
7 出土位置：1住 注記：P4, 1区 材質：須恵器 器種：有台杯 残存：  
口縁部25%, 体部下40%, 底部30% 法量：口径(13.4), 器高5.9, 高台径(7.8) 色調：灰色 胎土：礫(白多, 灰少, 透少), 骨針微量  
特徴：底部外面回転ヘラ削り。底部内面および口縁部の色調からみて、  
同器種正位重ね焼きと思われる。備考：木葉下産物か  
8 出土位置：1住 注記：3区 材質：須恵器 器種：杯か 残存：体  
部下端小片 法量：一色調外面暗灰色、断面・内面灰色 胎土：砂(白)  
特徴：内面に黒色漆(しわ有り)付着  
9 出土位置：1住 注記：P6 材質：須恵器 器種：有台盤 残存：  
15% 法量：口径(17.2), 器高3.4, 高台径(9.4) 色調：灰色 胎土：  
礫(白, 白透, 灰少), 骨針微量 特徴：一備考：木葉下産物か  
10 出土位置：1住 注記：2区 材質：土師器 器種：有台杯 残存：  
体部20% 法量：口径(14.4) 色調：外面褐色・口縁部黒色, 内面黒色  
胎土：一特徴：底部外面回転ヘラ削り。内面ヘラミガキ(底部1方向)  
・黒色処理。体部外面黒書。口唇部摩滅。

11 出土位置：1住 注記：P10, 1区, カマド, P11 材質：須恵器 器種：  
甕 残存：10%(底部欠失) 法量：口径(18.3) 色調：灰色 胎土：礫(白,  
灰少), 骨針微量 特徴：胴部外面斜位平行線文叩き。胴部以上内外面ヨ  
コナデ。胴部外面および口縁部内面に降文。胴部内面に無文当て貝痕円  
凸ややあり。備考：木葉下産物か  
12 出土位置：1住 注記：4区 材質：須恵器 器種：甕 残存：胴  
部片 法量：一色調：灰色 胎土：砂(白透, 白少), 白雲母多 特徴：  
外面斜位後縦位平行線文叩き。内面円形当て貝痕。備考：新治産  
13 出土位置：1住 注記：床下 材質：須恵器 器種：甕 残存：胴  
部片 法量：一色調：灰色 胎土：礫(白透少), 白雲母多 特徴：外  
面斜位平行線文叩き。内面円形当て貝痕。備考：新治産  
14 出土位置：1住 注記：P8・13, カマド 材質：土師器 器種：甕  
残存：上半部20% 法量：口径(21.1), 色調：橙褐色, 暗褐色  
胎土：砂(白透, 透), 白雲母 特徴：口縁部ヨコナデ。外面胴  
部上半斜方向ヘラナデ。胴部下半縦方向ヘラミガキ。内面胴部方向ヘラ  
ナデ。備考：新治産付近産



第111図 市毛上坪遺跡第28次調査区第1号住居跡遺物出土状況

15 出土位置：1住 注記：1区、カマド、掘形 材質：土師器 器種：甕 残存：底部外周 60%、胴部下端 15% 法量：底径(8.4) 色調：褐色、底部外面一部黒色 胎土：礫(白透多、白)、白雲母多 特徴：底部外面木炭痕。胴部外面縦方向ヘラミガキ、胴部内面横方向ヘラナデ。底部内面ヘラナデ。 備考：新治窯付近産

16 出土位置：1住 注記：P16、1区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 40%、胴部下端 15% 法量：底径(8.3) 色調：外面胴部褐色・底部褐色、内面褐色 胎土：砂(白透多、白、透) 特徴：底部外面木炭痕。胴部外面縦方向ヘラミガキ、内面ナデ。 備考：那賀郡成の常陸型甕か

17 出土位置：1住 注記：P24、1区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 60% 法量：底径(7.5) 色調：褐色、底部外面大部分黒色。胎土：礫(白透多、白)、白雲母多 特徴：底部外面木炭痕。胴部外面横方向手持ちヘラ削り。底部内面ナデ。 備考：新治窯付近産

18 出土位置：1住 注記：P17、1区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 法量：底径 5.1 色調：外面褐色・褐色、内面黒褐色 胎土：礫(白透少、灰少)、砂(透多、白透少) 特徴：底部外面に椀目状瓦痕。外面胴部下端斜方向手持ちヘラ削り。内面底部ナデ。内面底部周縁を内周方向に強くナデている。内面胴部横方向ヘラナデ。

19 出土位置：1住 注記：P12 材質：土師器 器種：球状土鍾 残存：完形 法量：長 2.9、孔径 0.7、重さ 27.7g 色調：赤褐色、一部黒色 胎土：砂(白少、灰少) 特徴：孔端部に明瞭な欠けがないため未使用品か

20 出土位置：1住 注記：12 材質：鉄 器種：鎌 残存：ほぼ完形 法量：長 13.3、最大幅 2.8、重量 37.4g 特徴：端部を折り返す

21 出土位置：1住 注記：14 材質：鉄 器種：鎌 残存：先端欠失 法量：残存長 8.5、基部幅 3.5、重量 40.5g 特徴：端部を折り返す

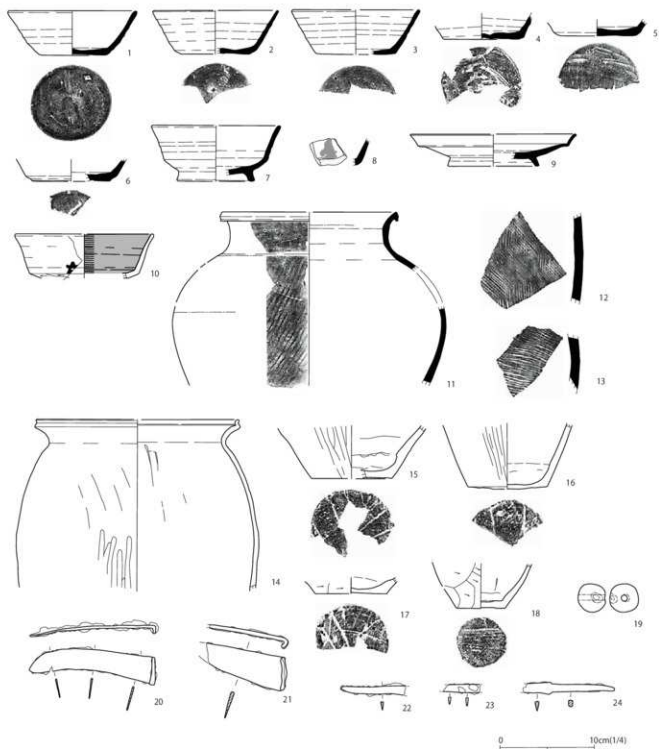
22 出土位置：1住 注記：11 材質：鉄 器種：刀子 残存：刃部先端 法量：残存長 6.8、重量 5.6g

23 出土位置：1住 注記：3区 材質：鉄 器種：刀子 残存：刃部片 法量：残存長 3.9、幅 0.9、重量 3.7g

24 出土位置：1住 注記：13 材質：鉄 器種：刀子 残存：基部 法量：残存長 9.7、最大幅 1.3、重量 14.5g

## 第2号住居跡

**遺構** 第2号住居跡は南西部の調査であり、第1号住居跡と重複する。新旧は出土遺物からみて第2号住居跡→第1号住居跡である。当住居跡の主軸方向はN-7°-Wを測る。竪穴部の規模は、東西4.5m以上、南北6.6m以上を測るが、P1を主柱穴、P2・3を主柱穴間の支柱穴とみるならば、竪穴部は東西6.6m、南北6.9mほどの正方形になると想定される。壁高は西壁0.5m、南



第 112 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区第 1 号住居跡出土遺物

壁 0.5 m を測り、壁周溝が認められる。床は壁際を除く全面が硬化する。壁穴部覆土は、AB 土層断面で見ると、壁際に明褐色土が自然堆積した後、ロームブロックを含む人為的埋土により埋め戻されているように思える。

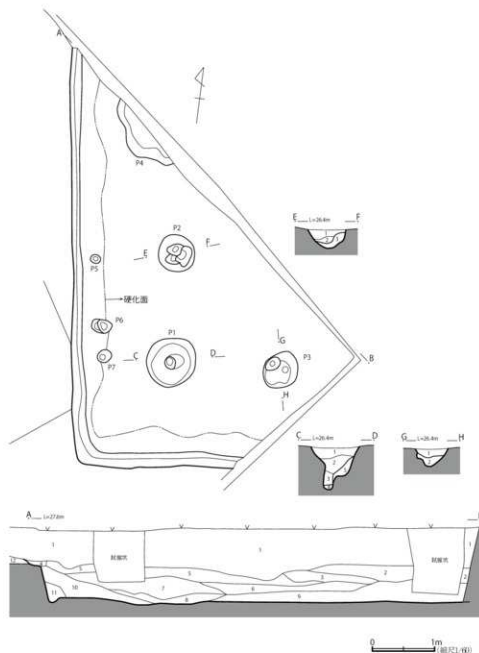
遺物は床面から覆土にかけて古墳時代後期の土器類が

出土している。なお南壁近くの床面から石器 11・12 が出土しているのが注目される。

#### 遺物説明

第 115 図

1 台帳:P1 材質:土師器 器種:甕 残存:10% 法量:口径(12.9)。



第 113 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区第 2 号住居跡

土層説明

A-B 土層断面

- 1 褐色色 (黒土)
- 2 褐色 (ローム粒含む ローム小ブロック少量含む)
- 3 褐色色 (ローム粒含む)
- 4 褐色 (ローム粒含む 褐色色土少量含む)
- 5 明褐色 (ローム粒少量含む 黒土粒少量含む)
- 6 明褐色 (ロームブロック・ローム小ブロック含む 人為的埋土か?)
- 7 明褐色 (ロームブロック含む ローム土少量含む 黒褐色土混じる 人為的埋土か?)
- 8 黄褐色 (ローム粒やや多量含む ローム小ブロック含む 人為的埋土か?)
- 9 明褐色 (ローム小ブロック多量含む ローム小ブロック含む 人為的埋土か?)
- 10 明褐色 (ローム粒多量含む)
- 11 明褐色 (ローム粒多量含む 褐色色混じる)
- 12 明褐色 (ローム土混じる 自然層か?)

C-D 土層断面

- 1 褐色 (ローム粒多量含む 黒褐色土混じる)
- 2 褐色 (ローム粒含む 黒褐色土混じる)
- 3 明褐色 (ローム粒多量含む)
- 4 黄褐色 (ローム粒主体)
- 5 黄褐色 (ロームブロック主体)

E-F 土層断面

- 1 褐色 (ローム粒多量含む 黒褐色土混じる)
- 2 褐色 (ローム粒含む)
- 3 黄褐色 (ロームブロック主体)

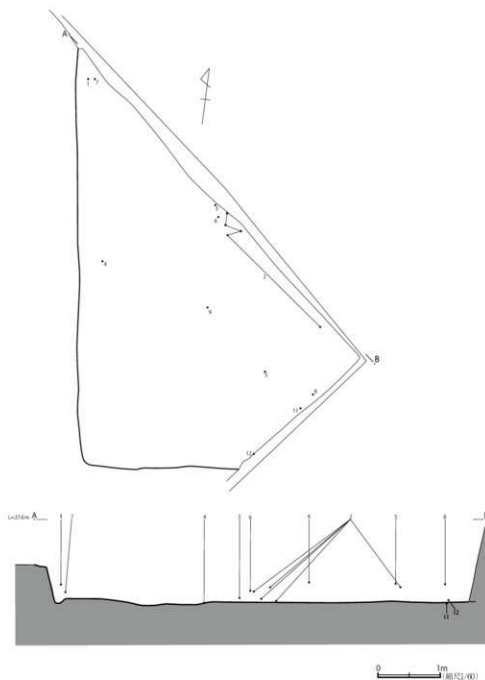
G-H 土層断面

- 1 褐色 (ローム粒主体 黒褐色土混じる)
- 2 黄褐色 (ロームブロック主体)

高 (6.9) 色調:内外面ともに深い褐色。胎土:砂(白多, 透多, 灰少)  
 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ削り後ヘラナデ。  
 内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。 使用痕:- 備考:-  
 2 台帳:P6・7・8・9・13, 2住フク上。2住 材質:土師器 器種:  
 瓶 残存:上位70%, 下位50% 法量:口径25.2, 高24.2, 孔径7.3  
 色調:外面浅黄橙~に深い橙~暗黒。内面浅黄橙~に深い褐色。  
 胎土:小石(白微), 礫(白微, 灰微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好  
 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。  
 内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 胴部ヘラナデ・ヘラミガキ, 孔周辺  
 ヘラナデ。 使用痕:- 備考:-  
 3 台帳:P4 材質:土師器 器種:瓶 残存:10% 法量:口径(20.0),

高(13.6) 色調:内外面ともに深い黄褐色。胎土:礫(灰微), 砂(白  
 多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ?, 胴部?。内面  
 口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。 使用痕:- 備考:外面と内面口縁  
 部の器面が非常に摩滅している。  
 4 台帳:P15 材質:土師器 器種:杯 残存:20% 法量:口径(12.0),  
 高(4.0) 色調:外面黒褐色。内面暗褐色。胎土:砂(白少, 透多)  
 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部  
 ヨコナデ, 体部ヘラナデ, 内外面とも黒色処理されている。 使用痕:  
 - 備考:-  
 5 台帳:P12 材質:土師器 器種:杯 残存:20% 法量:口径(13.8),  
 高4.8 色調:外面暗褐色。内面に深い褐色。胎土:小石(白微), 砂(白多,





第 114 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区第 2 号住居跡遺物出土状況

用痕：－ 備考：器面が凸凹して、ゆがんだ器形。

8 台帳:P14 材質:土師器 器種:手づくね土器 残存:100% 法量:口径 4.2, 高 3.4 色調:内外面とも棕色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:内外面ともナデ。 使用痕:－ 備考:－

9 台帳:P10 材質:土師質 種類:支脚 残存:－ 法量:高(8.3), 底径(6.2) 色調:浅黄～黄灰色。胎土:小石(灰微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:ヘラナデ・ナデ。 使用痕:二次焼成を受けている。 備考:－

10 台帳:2住 材質:土師質 種類:粘土塊 法量:長 4.1, 幅 5.6, 厚 1.8, 重量 35.07g 備考:何かに張り付いたような痕がある。

11 台帳:S3 材質:中粒砂岩 種類:砥石?台石? 法量:長 15.0, 幅 15.3, 厚 6.0, 重量 2124.45g 備考:使用面は A の 1 面。

12 台帳:S2 材質:中粒砂岩 種類:擦石・敲石・台石・砥石 法量:長 13.1, 幅 6.6, 厚 4.0, 重量 385.70g 備考:擦り痕の上に敲打痕や溝状の擦り痕が 3 面にみられる。溝状の部分には鉄錆がみられるため鉄製品を研いだと思われる。

13 台帳:2住 材質:流紋岩 種類:砥石 法量:長 3.3, 幅 3.3, 厚 1.6, 重量 20.56g 備考:砥面は A・B・C の 3 面。

透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り。内外面とも黒色処理されている。 使用痕:－ 備考:－

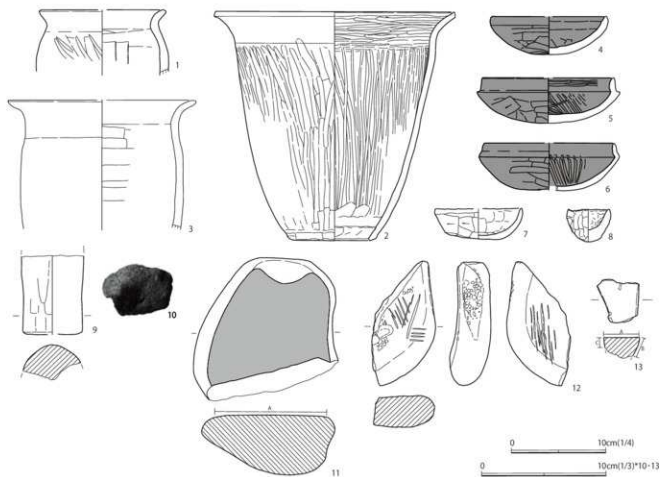
6 台帳:P5, 2住 材質:土師器 器種:杯 残存:40% 法量:口径(13.7), 高 5.1 色調:内外面とも暗褐色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラミガキ。内外面とも黒色処理されている。 使用痕:－ 備考:－

7 台帳:P2, 2住 材質:土師器 器種:手づくね土器 残存:80% 法量:口径 9.1, 高 3.4 色調:外面黄棕色。内面に赤い棕色。胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面ヘラ削り。内面ナデ。 使

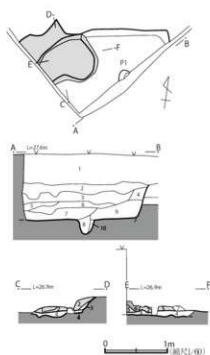
### 第 3 号住居跡

**遺構** 当住居跡の主軸方向は、N-10°-Wを測る。竪穴部の規模は東西 2.4 m以上、南北 1.3 m以上を測る。壁高は北壁 0.5 mを測る。ビットは、P1 が位置からみて主柱穴と思われる。竈はつぶれており、遺存状況は良くなかった。

遺物は完形もしくはほぼ完形の杯類(4～7)が竈前からまとまって出土した(図版 7～58)。とくに杯 5



第115図 市毛上坪遺跡第28次調査区第2号住居跡出土遺物



第116図 市毛上坪遺跡第28次調査区第3号住居跡

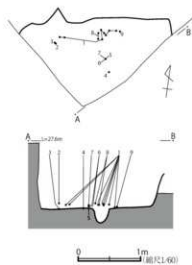
土層説明

AB 土層断面

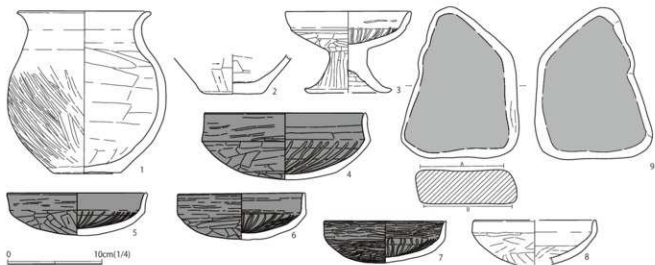
- 1 暗褐色 (黄土)
- 2 暗褐色 (ローム粒少量含む)
- 3 褐色 (ローム粒含む) 白色粘土粒少量含む)
- 4 褐色 (ローム粒少量含む)
- 5 褐色 (ローム粒多量含む) 白褐色粘土ブロック含む)
- 6 褐色 (ローム粒多量含む) 白褐色粘土粒少量含む)
- 7 黄褐色 (ローム粒やや多量含む) 褐色土混じる)
- 8 褐色 (ローム粒多量含む)
- 9 褐色 (ローム粒やや多量含む) 白ロームブロック少量含む)
- 10 黄褐色 (ローム白ブロック主体)

CD・EF 土層断面

- 1 明灰褐色 (黄土ブロック多量含む) 小石含む)
- 2 明灰褐色 (灰色粘土粒多量含む) 黄土粒・小石含む)
- 3 明褐色 (第2層とローム土の混合層)
- 4 明褐色 (ロームブロック多量含む) 黄褐色土混じる) 3層部埋土)
- 5 明灰色 (小石混じり) 明灰色砂質粘土)
- 6 埋 (黄土)
- 7 褐色 (ローム粒多量含む)



第117図 市毛上坪遺跡第28次調査区第3号住居跡遺物出土状況



第 118 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区第 3 号住居跡出土土物

～7 は上から 7→6→5 の順に重なった状態で出土している。また高杯 3 は竈内から逆位で出土した。破損した脚部がやや火を受けた痕跡が残る程度であり、支脚として使用されたとしても長期の使用は想定できないであろう。

### 遺物説明

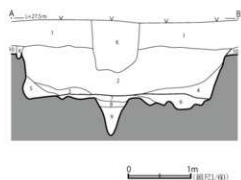
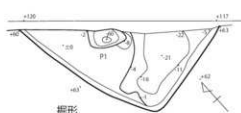
#### 第 118 図

- 1 台帳:P5・8・10・11・14・15, カマド, 3 住 材質:土師器 器種:費 残存:80% 法量:口径 13.5, 高 17.2, 底径 7.0 色調:外面橙～黄橙～暗褐～黒色。内面橙～暗褐色。胎土:礫(白少), 砂(白多, 透多, 黒少) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナゲり後ヘラミガキ, 底面不明。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナゲ。使用痕:外面胴部下位～底面が二次焼成を受け, 摩滅している。備考:—
- 2 台帳:P16, カマド 材質:土師器 器種:費 残存:底部 40% 法量:高(4.2), 底径(6.5) 色調:内外面ともに白～橙～暗褐色。胎土:礫(白少, 灰礫), 砂(白多, 透多, 黒少) 焼成:良好 技法等:外面ヘラ削り。内面ヘラナゲ。使用痕:外面器面が二次焼成を受けている。備考:—
- 3 台帳:P17 材質:土師器 器種:高杯 残存:杯部 100%, 脚部 30% 法量:口径 13.0, 高 8.6, 底径(9.1) 色調:内外面とも赤～赤橙～暗褐～黒色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体～脚部ヘラ削り後ヘラナゲ・ヘラミガキ, 内面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラナゲ・放射状にヘラミガキ, 脚部ヘラナゲ, 脚部端部ヨコナデ。使用痕:— 備考:—
- 4 台帳:P1 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径 17.0, 高 7.1 色調:内外面とも暗褐～黒褐色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部上～中位ヘラ削り後ヘラナゲ・ヘラミガキ, 下位ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ, 体部放射状にヘラミガキ。内外面とも黒色処理されている。使用痕:— 備考:—
- 5 台帳:P4 材質:土師器 器種:杯 残存:90% 法量:口径 14.6, 高 4.6 色調:外面黒褐色。内面黒色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多),

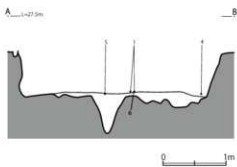
- 骨針を少量含む。焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラ削り後ヘラナゲ。内面口縁～体部上位ヨコナデ, 体部ヘラナゲ・放射状にヘラミガキ。内外面とも黒色処理されている。使用痕:— 備考:—
- 6 台帳:P3・4 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径 13.3, 高 5.0 色調:内外面ともに白～黄橙～暗褐～黒色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多), 骨針を少量含む。焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラ削り後ヘラナゲ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラナゲ・ラミガキ。内外面とも黒色処理されている。使用痕:— 備考:—
- 7 台帳:P2 材質:土師器 器種:杯 残存:100% 法量:口径 12.9, 高 4.5 色調:内外面とも暗褐～黒色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多), 骨針を少量含む。焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部ヘラ削り後密なヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ, 体部放射状にヘラミガキ。内外面とも黒色処理されている。使用痕:— 備考:—
- 8 台帳:P12・13 材質:土師器 器種:杯 残存:40% 法量:口径(12.7), 高(4.7) 色調:内外面とも橙～黒色。胎土:礫(白微), 砂(白多, 透多, 黒少) 焼成:良好 技法等:外面口縁部ヨコナデ, 体部上～中位ヘラ削り後ヘラナゲ, 下位ヘラ削り。内面口縁～体部中位ヨコナデ, 下位ヘラナゲ。使用痕:— 備考:—
- 9 台帳:S1 材質:流紋岩質凝灰岩 種類:砥石・台石 法量:長 16.0, 幅 12.5, 厚 3.6, 重量 1177.36g 備考:A・B 2 面が砥面。A に敲打痕あり。

### 第 4 号住居跡

**遺構** 第 4 号住居跡は南西隅部の調査であり, 主軸方向は, 硬化面の範囲を参考に東西方向とみるならば, N-72°-E を測る。竪穴部の規模は, 東西 1.9 m 以上, 南北 2.6 m 以上を測る。壁高は西壁 0.6 m, 南壁 0.6 m を測り, 西壁には壁周溝が認められる。ピットはみられないが, 掘形調査の際に, 床下より P1 が検出されて



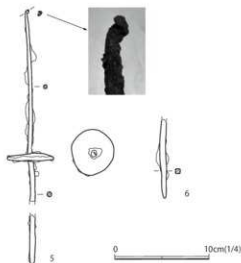
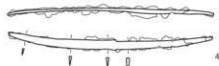
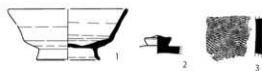
第119図 市毛上坪遺跡第28次調査区第4号住居跡



第120図 市毛上坪遺跡第28次調査区第4号住居跡遺物出土状況

おり、位置からみてP1は旧土柱穴となる可能性が  
 あり。床は南壁際を除く部分が硬化する。竪穴部覆土は  
 AB土層断面で見ると自然埋土と思われる。住居掘形は、  
 南壁付近に浅い掘り込みが認められる。

遺物は壁際の床面近くから、完形の刀子(4)と軸部  
 を若干欠失する鉄製紡錘車(5)が出土している。



第121図 市毛上坪遺跡第28次調査区第4号住居跡出土遺物

### 遺物説明

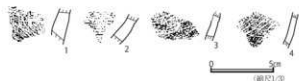
#### 第121図

- 1 出土位置:4住 注記:P2・3 材質:須恵器 器種:有台杯 残存:  
 底部、体部下平30%,口縁部若干 法量:口径(12.4)、器高5.4、高  
 台径(6.4) 色調:灰色 胎土:礫(白多,灰少)、骨針微量 特徴:回  
 転へう切り。高台端部摩滅。備考:木葉下産物か
- 2 出土位置:4住 注記:— 材質:須恵器 器種:蓋 残存:鋸部径  
 2.8、鋸高1.0 色調:灰色 胎土:礫(白),砂(白,透少)、骨針少  
 特徴:上面に降灰する。備考:木葉下産物か
- 3 出土位置:4住 注記:— 材質:須恵器 器種:裏 残存:胴部片  
 法量:— 色調:灰色 胎土:白雲母多 特徴:胴部外面に斜位平行  
 線文明き 備考:新治産物
- 4 出土位置:4住 注記:I1 材質:鉄 器種:刀子 残存:ほぼ完形  
 法量:長21.6、刀部最大幅1.0、基部最大幅0.9、重量24.0g 特徴:  
 基部端に木質残る
- 5 出土位置:4住 注記:I3 材質:鉄 器種:紡錘車 残存:軸部  
 を一部欠く 法量:紡輪径4.5×4.8、重量51.2g
- 6 出土位置:4住 注記:I2 材質:鉄 器種:鏝か 残存:基部か  
 法量:残存長8.3、重量9.9g

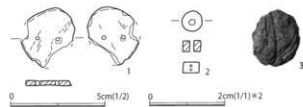
### (3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から  
 出土した遺物である。

### 遺物説明



第 122 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区出土遺物 (1)



第 123 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区出土遺物 (2)



第 124 図 市毛上坪遺跡第 28 次調査区出土遺物 (3)

#### 第 122 図

- 1 出土位置・注記：1 住 1 区 時代時期：縄文時代中期（五箇ヶ台式）  
文様：沈嵌文
- 2 出土位置・注記：1 住 1 区 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（RL+2Rカ）
- 3 出土位置・注記：2 住フク上 時代時期：弥生時代中期 文様：付加条縄文（RS）胎土：海綿骨針混入
- 4 出土位置・注記：2 住フク上 時代時期：弥生時代後期 文様：付加条縄文（RS、LZ）

#### 第 123 図

- 1 台帳：1 住 4 区 材質：滑石片岩 種類：双孔円板 法量：長 3.2、幅 2.6、厚 0.3、孔径 0.15、重量 4.15g 備考：色調は青灰色。孔は両側穿孔。
- 2 台帳：1 住カマド灰 材質：透閃石片岩 種類：白玉 法量：径 0.5、厚 0.3、孔径 0.1、重量 0.18g 備考：色調は青灰色。
- 3 台帳：1 住 2 区 材質：土師質 種類：一 法量：長 2.9、幅 2.5、厚 0.8、重量 6.59g 備考：両面に木葉痕がある。

#### 第 124 図

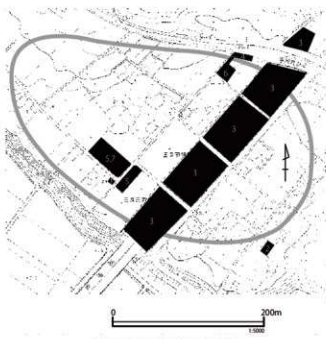
- 1 出土位置：2 住 注記：— 材質：須恵器 器種：杯 残存：体部上半 10%、体部下半 30%、底部（周縁 60% 欠欠）色調：明灰褐色 胎土：障（透、白少）、骨針微量 特徴：回転へら切り未調整。口唇部および外面底部周縁や厚摩滅。備考：木葉下産か

## 6 下高井遺跡第 7 次調査報告

### (1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字下高井 5009 番 4 期間 / 令和元年 7 月 17 日～23 日 担当 / 佐々木義則・田中美零 面積 / 10 m<sup>2</sup> 時代 / 縄文～平安 遺構 / 竪穴住居跡 1 基（古墳時代後期）

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から 60 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、浄化槽部分を中心に調査区が設定された。当地



第 125 図 下高井遺跡の調査地点

第 25 表 下高井遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	熊山市教委	本調査	住居跡 2（古墳）、土坑墓 2（中世）	1
2	1991	熊山市教委	本調査	住居跡 5（古墳 2、奈良 1、不明 2）	2
3	1993～1995	福教育財団	本調査	住居跡 206（古墳 141、奈良・平安 98、不明 27）、竪石工房 5（古墳）、掘立 2（奈良・平安）、方形周溝墓 4	3
4	1994	市教委	本調査	住居跡 5（古墳 1、奈良 2、平安 1、不明 1）	4
5	2014	公社	試掘	住居跡 50（古墳～平安）、中世土坑 1、溝 5	5
6	2015	公社	試掘	住居跡 2（奈良 1、平安 1）、溝 2（奈良 1、時期不明 1）	6

#### 文献

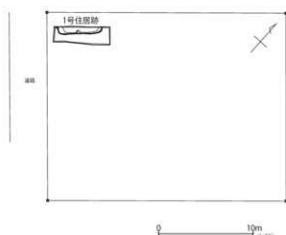
- 1 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 一般財団 6 号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 IV
- 4 平成 6 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

区は試掘調査（第5次調査）がなされていたため、今回の調査区に係る住居跡を予想して調査に臨むことができた。以下、簡単に調査の経過を記す。

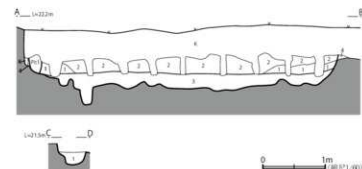
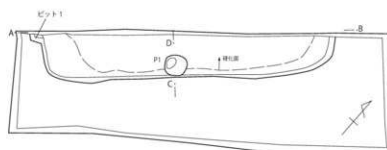
7月17日：調査区設定。重機による表土除去。7月18日：遺構確認、掘り込み開始。図面・写真による記録作業。7月20日：重機による埋め戻し。7月21日：現場撤収作業。7月23日：仮BMのレベル確認作業

## (2) 第1号住居跡

**遺構** 第1号住居跡の主軸方向はP1を出入口ピットと考えるとN-42°-Wと推定される。竪穴部の規模は、東西4.7mで、壁高は南壁0.2mを測る。



第126図 下高井遺跡第7次調査区



土層説明	
AB 土層断面	
1	褐色 (ローム粒多量含む)
2	褐色 (ローム粒含む)
3	褐色 (ロームブロック・黒褐色土ブロック多量含む 網り有り 堅形硬土)
4	褐色
P1	褐色
CD 土層断面	
1	褐色 (ローム粒多量含む ロームブロック少量含む)

第127図 下高井遺跡第7次調査区第1号住居跡

ピットは壁際のP1が位置からみて出入口ピットと思われる。床は壁際を除く部分が硬化する。竪穴部覆土は暗褐色土が堆積しており、自然埋土と思われる。住居掘形はAB土層断面をみると深く掘り込まれるようである。遺物は須恵器・土師器の小片が少量出土している。時期は不明瞭であるが、遺物からみて9世紀頃の住居跡であろうか。

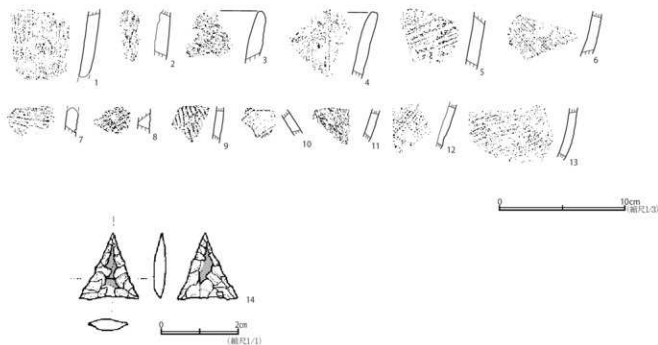
## (3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

### 遺物説明

第128図

- 1 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代早期(稲荷台式) 文様: 燃赤文 (Rカ)
- 2 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代早期(稲荷台式) 文様: 燃赤文 (R) 備考:器内面剥落
- 3 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代早期(田戸下層式カ) 備考: 器外面に擦痕
- 4 出土位置・注記:表土 時代時期:縄文時代早期(田戸下層式) 文様: 口唇部刻み(棒状工具)、口縁部沈線文・刺突文(平截竹管)
- 5 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代早期(田戸下層式) 文様: 沈線文
- 6 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代早期(田戸下層式) 文様: 沈線文 胎土: 礫粒を多量に含む
- 7 出土位置・注記:1住 時代時期:縄文時代早期(田戸下層式) 文様: 沈線文



第128図 下高井遺跡第7次調査区出土遺物

- 8 出土位置・注記：1住 時代時期：縄文時代中期カ 文様：単節斜縄文 (RL)
- 9 出土位置・注記：1住 時代時期：縄文時代中期 文様：無節縄文 (R)
- 10 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中期 (足洗式) 文様：平行沈線文 (半載竹筥) 胎土：黒雲母含む
- 11 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中期 (足洗式) 文様：平行沈線文 (半載竹筥) 原体不明の縄文あり
- 12 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中・後期 文様：付加条縄文 (LR+2Rカ)
- 13 出土位置・注記：1住 時代時期：弥生時代中・後期 文様：付加条縄文 (LR+2R) 胎土：黒雲母含む 備考：器外面変色
- 14 出土位置・注記：1住 時代時期：縄文時代早期カ 器種：石甌 石材：チャート 法量：長さ17mm、幅16mm、厚さ3mm、重量0.45g 備考：瓶込型石甌

#### 参考文献

中村信広 2017『瓶込型石甌の研究』『利根川39』利根川同人



1 市毛下坪遺跡第18次調査区



2 市毛下坪遺跡第19次調査区



3 向野A遺跡第6次調査区



4 蛸塚西貝塚第1次調査区



5 大平A遺跡第5次調査区



6 大平A遺跡第6次調査区



7 堀口遺跡第30次調査区



8 御所内I遺跡第2次調査区



9 西中根遺跡第5次調査区



10 君ヶ台遺跡第14次調査区



11 東中根清水遺跡第5次調査区



図版2 試掘調査 (2)



12 石高道跡第 12 次調査区



13 黒神道跡第 8 次調査区



14 東原道跡第 9 次調査区



15 金上埴道跡第 11 次調査区



16 市毛上坪道跡第 29 次調査区



17 内手道跡第 3 次調査区



18 御所内 II 道跡第 5 次調査区



19 榎崎 B 道跡第 1 次調査区



20 寄居新田古墳群第 1 次調査区



21 寄居新田古墳群第 2 次調査区



22 寄居新田古墳群第3次調査区



23 寄居新田古墳群第4次調査区



24 小貫山遺跡第3次調査区



25 松原遺跡第7次調査区



26 三反田新堀遺跡第19次調査区



27 三反田古墳群第3次調査区



28 三反田古墳群第3次調査区溝跡断面

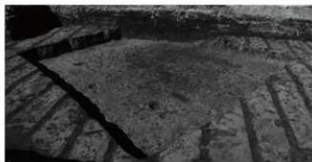


29 向坪遺跡第6次調査区

図版4 発掘調査(1)



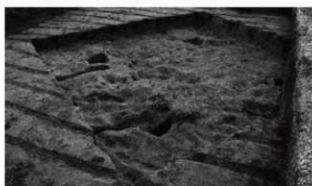
30 岡田遺跡第35次調査区



31 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡



32 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡遺物出土状況



33 岡田遺跡第35次調査区第1号住居跡掘形



34 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡



35 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡遺物出土状況



36 岡田遺跡第35次調査区第2号住居跡掘形



37 岡田遺跡第36次調査区



38 市毛上坪遺跡第26次調査区



39 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡



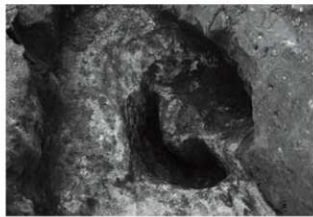
43 市毛上坪遺跡第26次調査区第3号住居跡



40 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡ビット2



44 市毛上坪遺跡第26次調査区第3号住居跡竜泥岩出土状況



41 市毛上坪遺跡第26次調査区第1号住居跡ビット2粘土塊出土状況



45 市毛上坪遺跡第26次調査区第4号住居跡

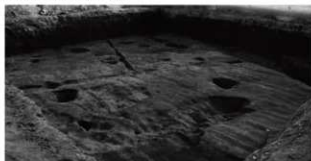


42 市毛上坪遺跡第26次調査区第2号住居跡



46 市毛上坪遺跡第27次調査区

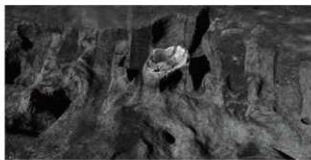
図版6 発掘調査(3)



47 市毛上坪遺跡第27次調査区第1号住居跡



52 市毛上坪遺跡第28次調査区



48 市毛上坪遺跡第27次調査区第1号住居跡竪



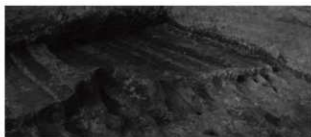
53 市毛上坪遺跡第28次調査区第1号住居跡



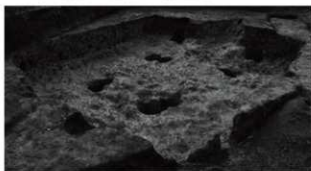
49 市毛上坪遺跡第27次調査区第2号住居跡



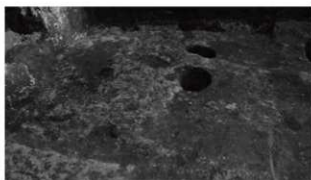
54 市毛上坪遺跡第28次調査区第1号住居跡竪



50 市毛上坪遺跡第27次調査区第3号住居跡



55 市毛上坪遺跡第28次調査区第1号住居跡掘形



51 市毛上坪遺跡第27次調査区第4号住居跡



56 市毛上坪遺跡第28次調査区第2号住居跡



57 市毛上坪遺跡第28次調査区第3号住居跡



58 市毛上坪遺跡第28次調査区第3号住居跡遺物出土状況



59 市毛上坪遺跡第28次調査区第4号住居跡



60 市毛上坪遺跡第28次調査区第4号住居跡紡錘車出土状況



61 下高井遺跡第7次調査区



62 下高井遺跡第7次調査区第1号住居跡



# 報告書抄録

<b>フリガナ</b>	レイワゴンネンドヒタチナカシナイイセイキハクツウサホウコクシヨ
<b>書名</b>	令和元年度ひたちなか市内道路発掘調査報告書
<b>編者名</b>	佐々木義剛
<b>著者名</b>	鈴木素行, 稲田健一, 田中美智, 佐々木義剛
<b>編集機関</b>	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所
<b>編集機関所在地</b>	茨城県ひたちなか市大字中根 3499 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
<b>発行機関</b>	ひたちなか市教育委員会
<b>発行機関所在地</b>	茨城県ひたちなか市東石川 2 丁目 10 番 1 号
<b>発行年</b>	2020 年 3 月 14 日

所在道路名	所在地	コード		北端	東端	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	道路番号						
イナフネツツボ 赤毛土塚	ひたちなか市 赤毛	08221	130	30° 23' 31"	140° 30' 19"	25.5m	201901	88㎡	18.3
				30° 23' 33"	140° 30' 23"	25.6m	201907	194㎡	19.3
イオサキツツボ 赤毛土塚	ひたちなか市 赤毛	08221	131	30° 23' 32"	140° 29' 53"	27.2m	201811 ~ 201812	101㎡	26.3
				30° 23' 33"	140° 29' 52"	27.0m	201812 ~ 201901	97㎡	27.3
				30° 23' 48"	140° 29' 56"	27.6m	201902 ~ 201903	87㎡	28.3
				30° 23' 52"	140° 29' 52"	27.1m	201907	21㎡	29.3
ムカイノエー 大塚 A	ひたちなか市 大塚	08221	148	30° 24' 18"	140° 33' 43"	31.5m	201905	29㎡	6.3
レイワゴンネンド 新田 2 区画	ひたちなか市 新田	08221	108	30° 22' 4"	140° 33' 13"	19.6m	201902	33㎡	1.3
オサキツツボ 大塚 A	ひたちなか市 大塚	08221	121	30° 22' 53"	140° 32' 19"	23.0m	201903	23㎡	5.3
				30° 22' 53"	140° 32' 22"	22.5m	201912	27㎡	6.3
オサキ 大塚	ひたちなか市 大塚	08221	030	30° 22' 8"	140° 32' 25"	22.0m	201810 ~ 201811	68㎡	35.3
				30° 22' 10"	140° 32' 32"	22.5m	201904	11㎡	36.3
オサキ 大塚 1	ひたちなか市 大塚	08221	004	30° 23' 23"	140° 30' 44"	23.0m	201904	134㎡	30.3
ゴウノツツボ 新田 1 区画	ひたちなか市 新田	08221	235	30° 23' 29"	140° 34' 18"	20.2m	201904	26㎡	2.3
ニシノカ 高野	ひたちなか市 高野	08221	014	30° 22' 34"	140° 33' 0"	23.1m	201905	363㎡	5.3
ウツノツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	011	30° 23' 17"	140° 33' 33"	24.2m	201905	170㎡	14.3
ヒロノツツボ 新田 2 区画	ひたちなか市 新田	08221	010	30° 22' 36"	140° 33' 41"	19.9m	201905	24㎡	5.3
インカ 高野	ひたちなか市 高野	08221	126	30° 22' 59"	140° 31' 8"	22.8m	201905 ~ 201906	40㎡	12.3
クノツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	007	30° 24' 17"	140° 29' 1"	23.0m	201906	22㎡	8.3
クノツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	061	30° 23' 58"	140° 32' 2"	31.2m	201906	19㎡	9.3
カサマツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	112	30° 22' 39"	140° 32' 12"	22.5m	201906	34㎡	11.3
シノツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	001	30° 21' 40"	140° 33' 39"	26.5m	201907	10㎡	7.3
ウツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	110	30° 22' 9"	140° 32' 49"	21.8m	201907	36㎡	4.3
ゴウノツツボ 新田 1 区画	ひたちなか市 新田	08221	230	30° 21' 30"	140° 34' 6"	17.9m	201907 ~ 201908	42㎡	5.3
キオツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	163	30° 25' 25"	140° 30' 48"	31.3m	201906	30㎡	1.3
				30° 25' 17"	140° 30' 53"	30.9m		103㎡	1.3
				30° 25' 18"	140° 30' 53"	31.0m	201906	73㎡	2.3
				30° 25' 14"	140° 30' 54"	30.5m		99㎡	3.3
				30° 25' 19"	140° 30' 54"	31.0m	201911 ~ 201912	77㎡	4.3
オサキツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	064	30° 26' 1"	140° 32' 44"	31.8m	201908	32㎡	3.3
マツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	037	30° 24' 40"	140° 30' 48"	27.1m	201910	167㎡	7.3
ミナツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	100	30° 22' 22"	140° 33' 1"	21.4m	201911	33㎡	10.3
ミナツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	018	30° 21' 53"	140° 33' 34"	20.3m	201911 ~ 201912	60㎡	3.3
ムカツツボ 高野	ひたちなか市 高野	08221	129	30° 23' 22"	140° 31' 1"	24.7m	201912	13㎡	6.3

## 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

---

令和2（2020）年3月14日発行

編集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発行 ひたちなか市教育委員会

〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川2-10-1

TEL029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根3499

TEL029-276-8311

印刷 有限会社 豊印刷

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島1-20-8



『令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』正誤表

箇所	誤 ⇒ 正
2頁第1表 8堀口遺跡	溝跡1条 ⇒ 溝跡2条
8頁右段18行目	1条 ⇒ 2条
44頁左段18行目	土師器 ⇒ 須恵器
45頁第88図土層断面	右下の番号未記入部分。左から「炭化材」「i0」「i0」と記入。
54頁第100図	AB土層図左側第4層下の未記入部分に「6」と記入。